

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-10

＜第15週＞インフルエンザの定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い／その他最新動向
＜3月＞性感染症・薬剤耐性菌感染症について



注目すべき感染症
P.11-14

＜麻しん＞
第1～15週に報告された麻しん累積報告数は128例であった



病原体情報
P.15-16

麻疹ウイルス 2011年



速報
P.17-23

麻しん 2010年



海外感染症情報
P.24-26

ヨーロッパでの麻疹アウトブレイク／コートジボワールにおける野生株ポリオ／鳥インフルエンザカンボジアにおける状況／鳥インフルエンザエジプトにおける状況



感染症の話
P.27-30

＜疥癬＞
ヒゼンダニが皮膚の最外層である角質層に寄生し、人から人へ感染する疾患である



読者のコーナー
＜今週は該当記事はありません＞



グラフ総覧(15週)
P.31-36



グラフ総覧(3月)
P.37-42



3月のデータ
P.43-45



15週のデータ
P.46-58



発生動向総覧

<第15週コメント> 4月20日集計分

◆全数報告の感染症

注意: これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が集計の期日以降に届くこともあります。それらについては一部を除いて発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることになります。

※感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを示します。

1類感染症

報告なし

2類感染症

結核309例

3類感染症

細菌性赤痢2例

菌種: *S. boydii* (C群) 2例__感染地域: バングラデシュ2例

腸管出血性大腸菌感染症11例 (有症者6例、うちHUS なし)

感染地域: 国内11例

国内の感染地域: 福島県1例、東京都1例、富山県1例、岐阜県1例、愛知県1例、兵庫県1例、愛媛県1例、福岡県1例、宮崎県1例、不明2例

年齢群: 2歳(2例)、5歳(1例)、8歳(1例)、20代(3例)、30代(2例)、60代(1例)、70代(1例)

血清型・毒素型: O26 VT1(3例)、O26 VT1・VT2(2例)、O91 VT1(2例)、O157 VT1(1例)、O157 VT2(1例)、O157 VT不明(1例)、その他・不明(1例)

累積報告数: 206例(有症者117例、うちHUS 4例、死亡1例)

4類感染症

E型肝炎1例

感染地域: 三重県__感染源: 不明

A型肝炎4例

感染地域: 山口県1例、佐賀県1例、国内(都道府県不明)1例、インド1例

デング熱2例

感染地域: インドネシア2例

マラリア2例

熱帯熱2例__感染地域: ギニア1例、ナイジェリア1例

ライム病1例

感染地域: 国内(都道府県不明)

レジオネラ症6例 (肺炎型6例)

感染地域: 福島県1例、茨城県1例、群馬県1例(温泉)、石川県1例、大阪府1例、国内(都道府県不明)1例

年齢群: 50代(2例)、60代(2例)、80代(2例)

* 震災以降、被災地での津波に関連した感染例が計4例(岩手県2例、宮城県2例)報告されている。年齢は、2歳、30代、60代、70代各1例である。

5類感染症

アメーバ赤痢13例 (腸管アメーバ症11例、腸管外アメーバ症2例)

感染地域: 東京都2例、青森県1例、富山県1例、山梨県1例、大阪府1例、福岡県1例、熊本県1例、国内(都道府県不明)3例、タイ1例、国外(国不明)1例

感染経路: 性的接触5例(異性間1例、同性間3例、異性間・同性間不明1例)、その他・不明8例

ウイルス性肝炎1例 B型__感染経路: 不明

急性脳炎1例 病原体不明__年齢群: 2歳

クロイツフェルト・ヤコブ病1例

孤発性プリオン病古典型

後天性免疫不全症候群9例 (AIDS 4例、無症候4例、その他1例)

感染地域: 国内5例、国内・国外不明4例

感染経路: 性的接触7例(異性間1例、同性間6例)、性的接触(異性間)/刺青1例、不明1例

ジアルジア症2例 感染地域: インド2例

梅毒3例 (早期顕症II期1例、無症候2例)

風しん8例 (検査診断例5例、臨床診断例3例)

感染地域: 神奈川県2例、茨城県1例、埼玉県1例、東京都1例、兵庫県1例、大分県1例、国内(都道府県不明)1例

年齢群: 1歳(1例)、10～14歳(1例)、15～19歳(1例)、20～24歳(2例)、25～29歳(1例)、30～34歳(1例)、40代(1例)

麻しん27例 [麻しん(検査診断例15例、臨床診断例8例)、修飾麻しん(検査診断例4例)]

感染地域: 国内26例、カンボジア1例

国内の感染地域: 東京都11例、神奈川県4例、青森県2例、石川県1例、国内(都道府県不明)8例

年齢群: 1歳(2例)、5～9歳(1例)、10～14歳(5例)、15～19歳(2例)、20～24歳(7例)、25～29歳(4例)、30～34歳(2例)、35～39歳(1例)、40代(2例)、50代(1例)

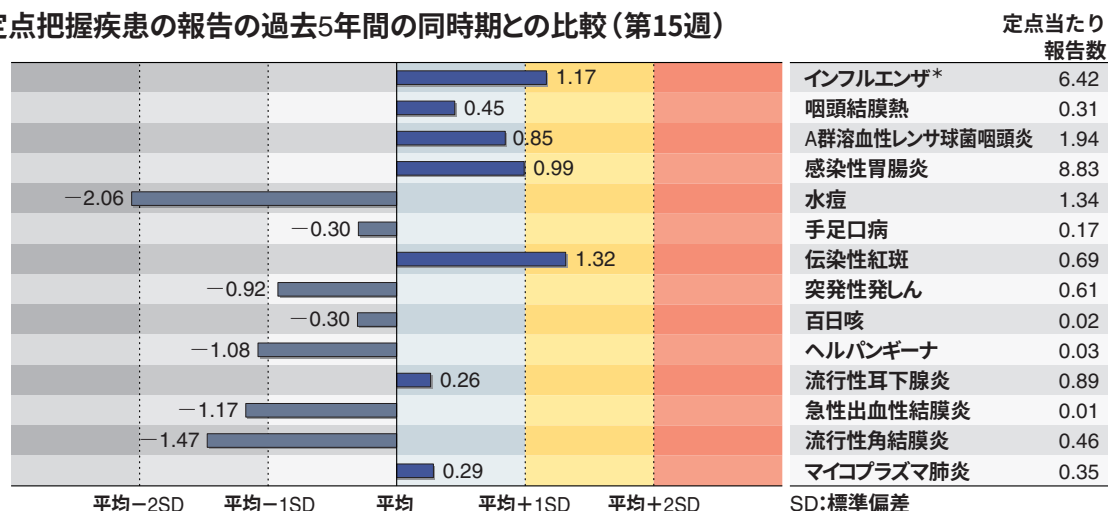
累積報告数: 128例 [麻しん(検査診断例72例、臨床診断例34例)、修飾麻しん(検査診断例22例)]

(補)他に2011年第14週までに診断されたものの報告遅れとして、細菌性赤痢3例〔菌種: *S. boydii* (C群)1例__感染地域: インド、菌種: *S. flexneri* (B群)1例__感染地域: 国外(国不明)、菌種: *S. sonnei* (D群)1例__感染地域: イタリア/フランス/スペイン〕、パラチフス1例(感染地域: バングラデシュ)、エキノコックス症1例(多包条虫__感染地域: 北海道)、マラリア1例(三日熱__感染地域: インド)、急性脳炎2例〔単純ヘルペスウイルス1型1例(0歳)、RSウイルス1例(3歳)〕、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例(20代)、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例(遺伝子: *Van C*__菌検出検体: 血液)、風しん2例〔検査診断例2例. 感染地域: 大阪府1例、ベトナム1例. 年齢群: 20～24歳(1例)、35～39歳(1例)〕などの報告があった。

◆定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

定点把握疾患の報告の過去5年間の同時期との比較(第15週)



当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)との差をグラフ上に表現した。(※2009年のパンデミックの影響を受けています。)

インフルエンザ

定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別では石川県(20.69)、長野県(19.69)、宮崎県(19.53)、福井県(15.72)、高知県(12.79)、福岡県(10.85)、沖縄県(10.84)、新潟県(10.09)が多い。

小児科定点報告疾患

RSウイルス感染症の報告数は594例と増加した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約78%を占めている。

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では富山県(1.24)、島根県(1.09)、佐賀県(1.04)が多い。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では石川県(6.14)、宮崎県(4.83)、福井県(4.00)が多い。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は3週連続で増加した。都道府県別では鹿児島県(19.1)、福井県(18.1)、富山県(15.3)が多い。

水痘の定点当たり報告数は第11週以降減少が続いている。都道府県別では沖縄県(4.73)、宮崎県(2.92)、鹿児島県(2.89)が多い。

手足口病の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では宮崎県(1.33)、沖縄県(1.06)、佐賀県(0.83)が多い。

伝染性紅斑の定点当たり報告数は3週連続で増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では石川県(2.07)、宮崎県(1.97)、島根県(1.65)が多い。

百日咳の定点当たり報告数は3週連続で減少した。都道府県別では沖縄県(0.21)、鳥取県(0.11)、広島県(0.08)が多い。

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は3週連続で増加した。都道府県別では熊本県(0.40)、岩手県(0.14)、和歌山県(0.13)、高知県(0.13)が多い。

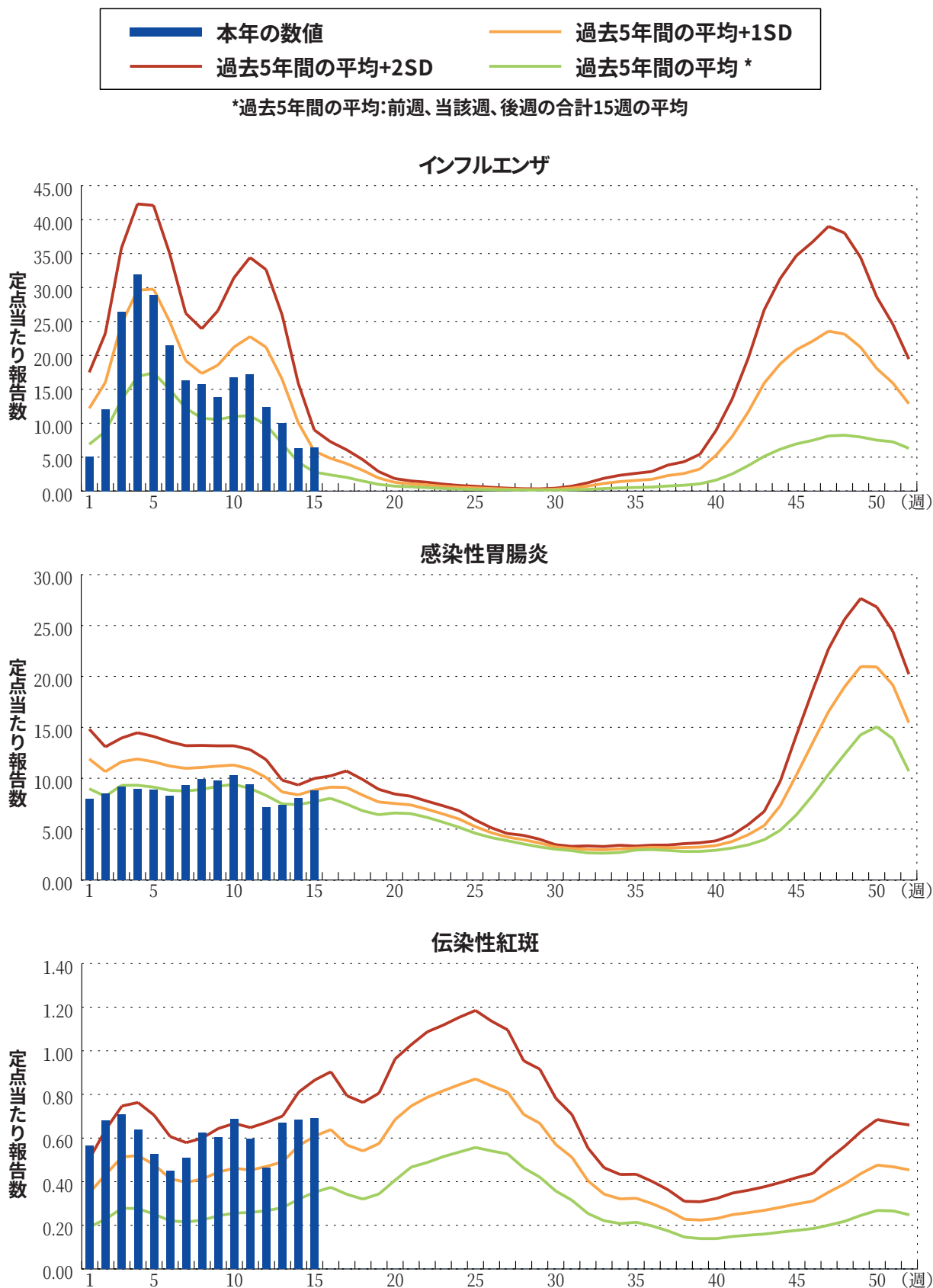
流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は第11週以降減少が続いている。都道府県別では長野県(4.02)、香川県(3.07)、鳥取県(2.95)が多い。

基幹定点報告疾患

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では青森県(1.83)、富山県(1.20)、大阪府(1.20)が多い。

図. 主要定点把握疾患の過去5年間との週別比較(2011年第15週)

青のバーで示す本年の定点当たり報告数が赤のラインを超えているときには、過去5年間の週と比較してかなり多いことを示す。



〈3月コメント〉

◆性感染症について(4月15日集計分) 性感染症定点数 964

(産婦人科・産科・婦人科: 463、泌尿器科: 403、皮膚科: 86、性病科: 12)

●月別推移

2011年3月の月別定点当たり患者報告数は、性器クラミジア感染症が2.09(男0.93、女1.16)、性器ヘルペスウイルス感染症が0.69(男0.28、女0.41)、尖圭コンジローマが0.43(男0.23、女0.20)、淋菌感染症が0.77(男0.61、女0.17)であった。男性では性器クラミジア感染症、次いで淋菌感染症が多く、女性では性器クラミジア感染症、次いで性器ヘルペスウイルス感染症が多かった(図1)。

前月に比べると、男性では、性器クラミジア感染症で増加、性器ヘルペスウイルス感染症で増加、尖圭コンジローマで横ばい、淋菌感染症で増加した。女性では、4疾患すべてで増加した(37～40ページ「グラフ総覧」参照)。過去5年間の同時期と比較すると、男性では性器クラミジア感染症、尖圭コンジローマでやや少なかった(図2)。

図1. 各性感染症が総報告数に占める割合(3月)

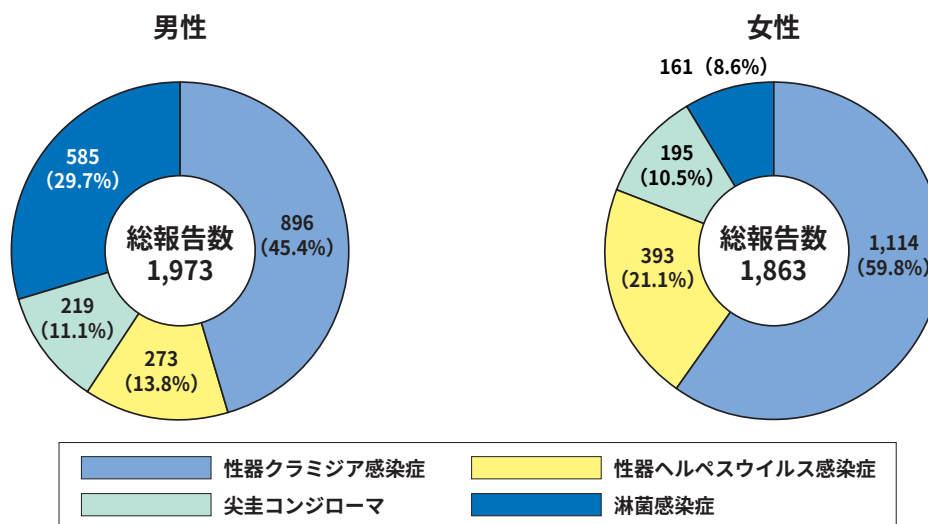
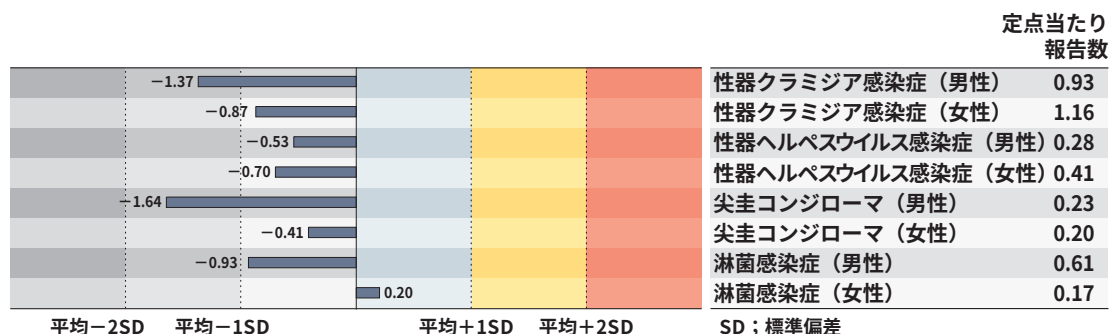


図2. 性感染症の定点当たり報告数の過去5年間の同時期との比較(3月)



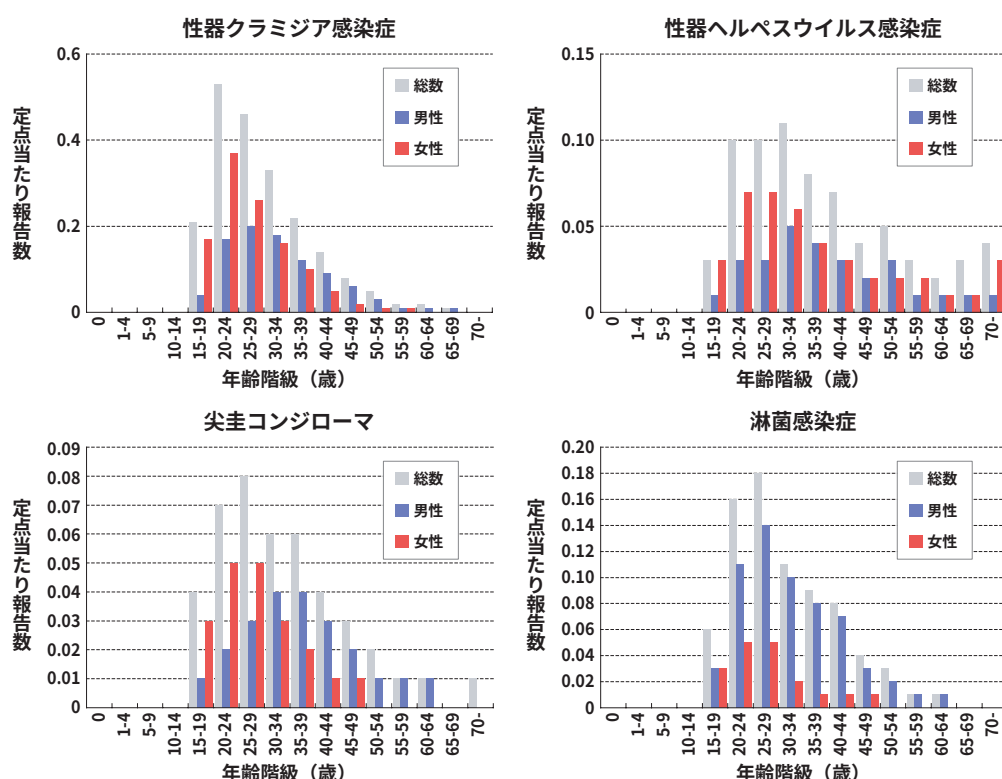
当該月と過去5年間の平均(過去5年間の前月、当該月、後月の合計15月の平均)との差をグラフの上に表現した。

●男女別・年齢群別

年齢群別(0歳、1～4歳、5～69歳は5歳毎、および70歳以上)でみた定点当たり報告数のピークは、男性では、性器クラミジア感染症は25～29歳の年齢群、性器ヘルペスウイルス感染症は30～34歳の年齢群、尖圭コンジローマは30～39歳の2つの年齢群、淋菌感染症は25～29歳の年齢群であった。女性では、性器クラミジア感染症は20～24歳の年齢群、性器ヘルペスウイルス感染症は20～29歳の2つの年齢群、尖圭コンジローマは20～29歳の2つの年齢群、淋菌感染症は20～29歳の2つの年齢群であった(図3)。男女ともに4疾患すべてで15～19歳の年齢群の報告があり、女性では性器クラミジア感染症、淋菌感染症で10～14歳の年齢群の報告があった。また、性器クラミジア感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症の3疾患は、男性では60代以上は僅かであり、女性では50代以上の報告は僅かである。しかし、性器ヘルペスウイルス感染症は男女ともに、50代以降の報告も少なくない。この年齢層は再発例が含まれている可能性が以前から指摘されており、2006年4月の届出基準改正により、抗体のみ陽性のものの除外に加えて「明らかな再発例は除外する」ことが明示された。しかし、年齢群分布における明らかな変化は見られておらず、この基準の周知徹底とともに、遵守されているかの検討等も今後必要と考える。

年齢群毎にみた定点当たり報告数の男女の比較では、性器クラミジア感染症では15～29歳の3つの年齢群、性器ヘルペスウイルス感染症では15～34歳、55～59歳、および70歳以上の6つの年齢群、尖圭コンジローマでは15～29歳の3つの年齢群という比較的低い年齢層を中心に女性が男性より多く、他の年齢群は同値あるいは男性が多かった。淋菌感染症では15～19歳の年齢群で同値で、他のすべての年齢群で男性が女性よりも多かった。ただし、性感染症定点は泌尿器科系、婦人科系および皮膚科系などの診療科から構成されており、男女の比較については各地域におけるそれらの比率等の影響を受ける可能性がある。

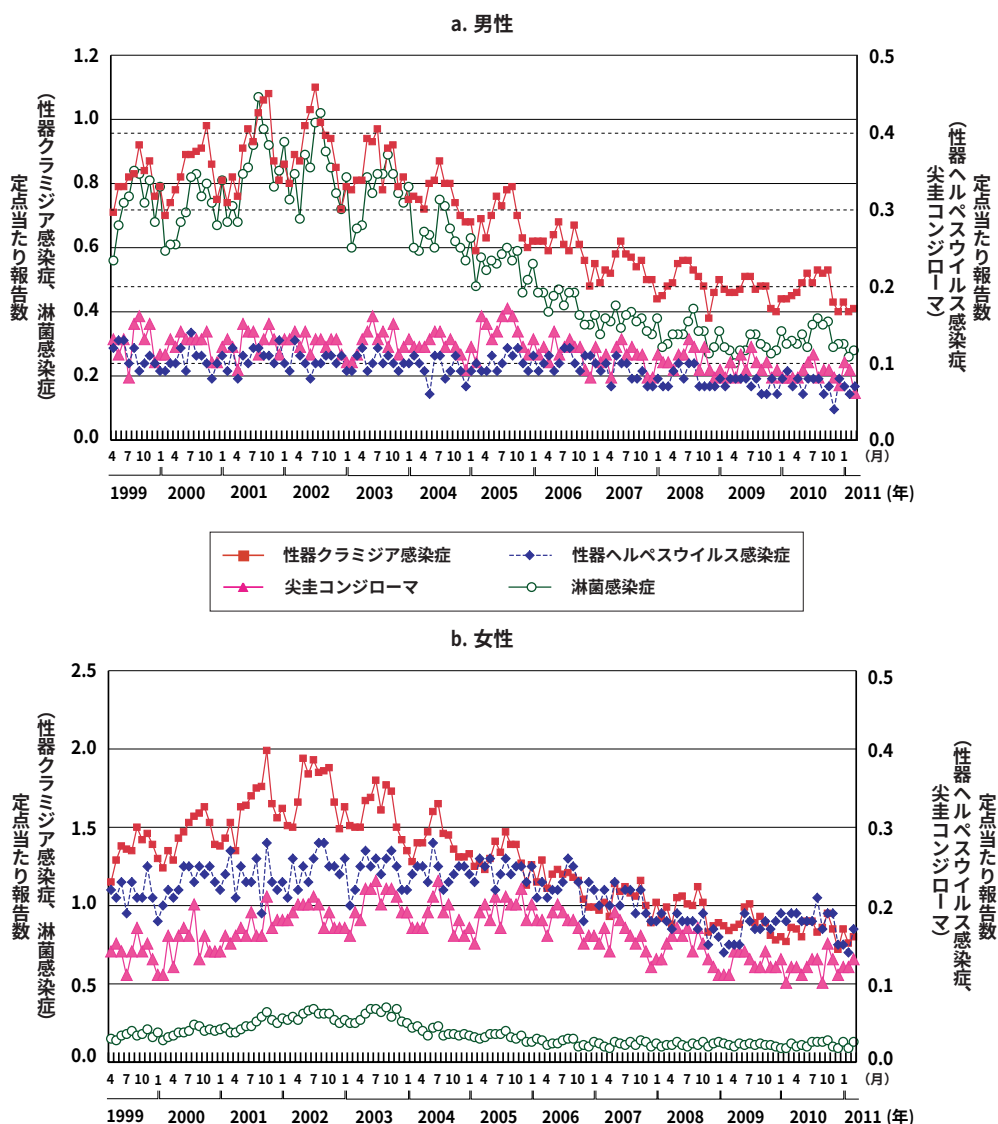
図3. 性感染症の性別・年齢群分布(3月)



●若年層での推移

感染症法が施行された1999年4月以降について、若年層(15～29歳)における各疾患の定点当たり報告数を男女別・月別に図4に示した。性器クラミジア感染症は男女ともに2003年以降減少傾向がみられ、男性では2010年に入り増加傾向がみられたが11月に減少してその後ほぼ横ばいである。性器ヘルペスウイルス感染症は男性では2007年以降微減傾向がみられたが、2009年以降はほぼ横ばいである。女性では2006年以降微減傾向がみられたが、2009年に増加した後横ばいで推移し、2010年12月に減少してその後ほぼ横ばいである。尖圭コンジローマは男女共に2006年以降微減傾向がみられ、女性では2009年以降はほぼ横ばいで推移している。淋菌感染症は男性では2003年以降減少傾向がみられ、2010年に入り増加傾向がみられたが11月に減少してその後ほぼ横ばいである。女性では2004年以降微減傾向がみられたが2007年以降は横ばいで推移している。前月との比較では、男性では性器クラミジア感染症で増加、性器ヘルペスウイルス感染症で増加、尖圭コンジローマで減少、淋菌感染症で増加であった。女性では4疾患すべてで増加であった。

図4. 若年層における性感染症の年別・月別推移
(15～29歳、1999年4月～2011年3月)



◆薬剤耐性菌感染症について(4月15日集計分)

2011年3月の基幹定点総数: 469

●定点当たり報告数

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症

3.91(前月: 3.88、前年同月: 3.98)

定点当たり報告数は、例年年間を通じてほぼ一定である。3月は前月より増加し、過去10年間の同月との比較では中位に属した。

ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)感染症

0.71(前月: 0.81、前年同月: 0.95)

定点当たり報告数は、例年春から初夏にかけて(4～6月)と冬(11、12月)に多く、夏(7～9月)に少なく推移している。3月は前月より減少し、過去10年間の同月との比較では最も少なかった。

薬剤耐性緑膿菌(MDRP)感染症

0.06(前月: 0.06、前年同月: 0.06)

定点当たり報告数は、例年後半が前半に比して多い傾向がある。3月は前月と変化なく、過去10年間の同月との比較では最も少なかった。

薬剤耐性アシネトバクター(MDRA)感染症

0.00(前月: 0.00、前年同月: —)

今月は報告がなく、前月の報告数は1例であった。報告開始から間もないため、傾向の分析や過去との比較は出来ない。

●年齢階級別

MRSA感染症…高齢者に多く、70歳以上が全体の68%を占めている(図1)。

PRSP感染症…小児と高齢者に多い。5歳未満が全体の49%を占める一方、70歳以上が全体の27%を占めている(図2)。

MDRP感染症…高齢者に多く、70歳以上が全体の65%を占めている(図3)。

MDRA感染症…1例も報告されていない(図4)。

●性別(女性を1として算出した男女比)

MRSA感染症…男:女=1.7:1

PRSP感染症…男:女=1.4:1

MDRP感染症…男:女=2.7:1

MDRA感染症…男:女=0:0

●都道府県別

MRSA感染症…定点当たり報告数は滋賀県(9.7)、沖縄県(8.6)、福島県(7.8)が多い。

PRSP感染症…定点当たり報告数は福井県(4.0)、千葉県(2.7)、東京都(2.0)が多い。

MDRP感染症…報告総数が26件にとどまるため、都道府県別定点当たり報告数の評価は困難である。

MDRA感染症…1例も報告がないため、都道府県別定点当たり報告数の評価は困難である。

薬剤耐性菌感染症について(3月)

図1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

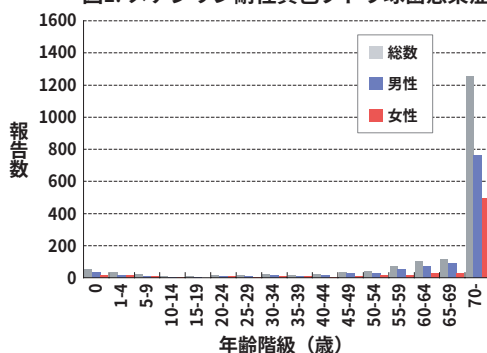


図2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

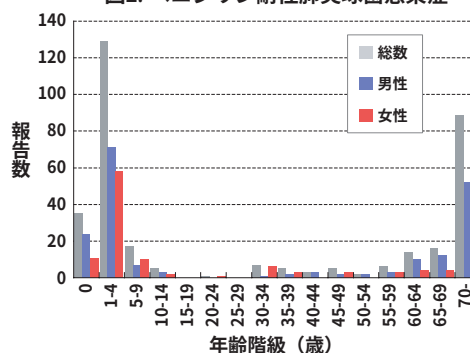


図3. 薬剤耐性緑膿菌感染症

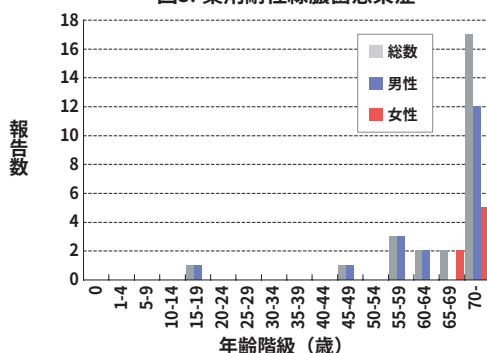
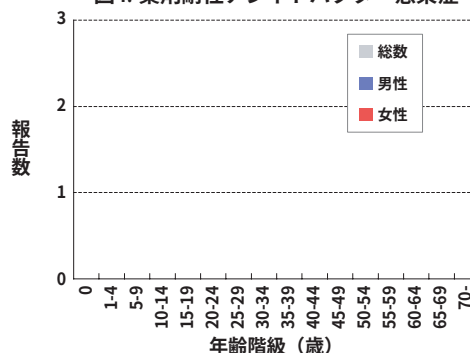


図4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症





注目すべき感染症

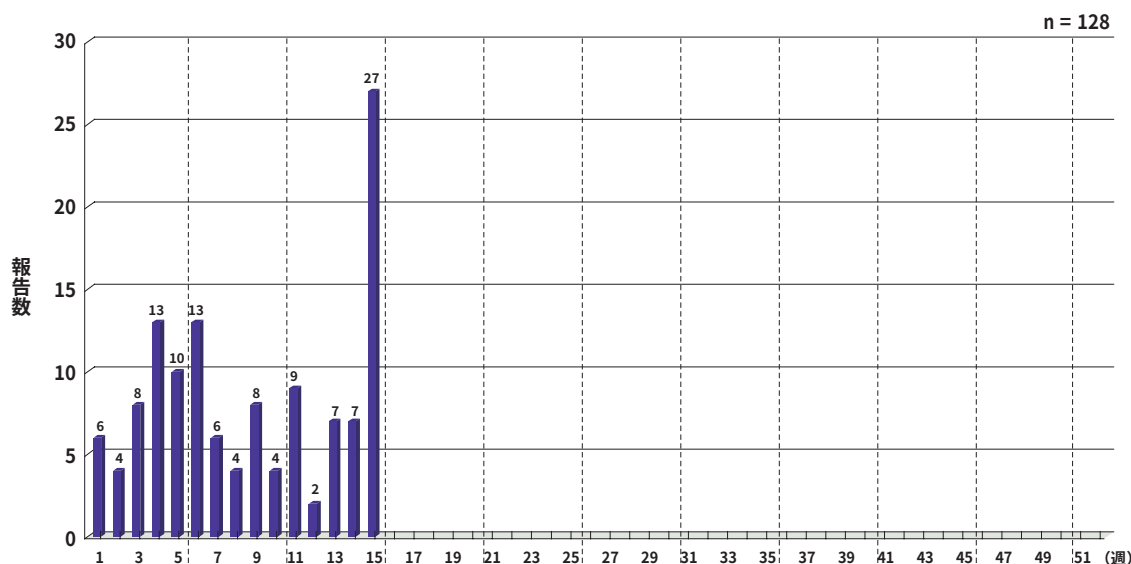
◆麻しん 2011年第1～15週(2011年4月20日現在)

わが国における麻しんの流行状況の把握は、1981(昭和56年)年7月に厚生省実施の事業により定点把握調査として開始された。1999年4月からは感染症法制定に伴い、法のもとで定点把握調査が続けられていた。定期予防接種によって麻しんの患者数は着実に減少し、2006年には過去最低の定点当たり累積報告数(516例)、推計受診患者数5,000人(95%信頼区間:3,000～4,000人)となっていたが、翌2007年に10代、20代を中心とする流行が起こり、多数の学校が休校措置を行うなどの社会的問題が生じた。世界保健機関では、日本を含む西太平洋地域において2012年までに麻しんを排除するという目標を掲げており、わが国においてもこの目標に向け、2007年12月28日に「麻しんに関する特定感染症予防指針(<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/kokuji442-191228.pdf>)」が制定された。この指針にもとづき、予防接種については、追加接種の実施による2回接種の徹底が図られるとともに、発生状況の把握については、より正確な把握のため、2008年1月1日から全数把握調査に変更された。

2008年、2009年の発生状況は、それぞれIDWR2009年第4号(<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/idwr0904.html>)、同2010年第4号(<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/idwr1004.html>)で報告したので参照して頂きたい。さらに本号の「速報」において2010年の発生状況について報告している。

2011年第1～15週(2011年1月3日～2011年4月17日診断のもの、2011年4月20日現在)に報告された麻しん累積報告数は128例であった(図1)。これは2010年の同期間(第1～15週)の累積報告数142例に比較すると約10%の減少ではあるが、第15週の報告数は27例となり、明らかな流行といえるピークを示さなかった2009年の週平均報告数13.8例、2010年の同8.8例と比較して、大幅な増加といえる。

図1. 麻しんの週別報告数(2011年第1～15週)



都道府県別では、第15週までに27都道府県から報告されており、東京都38例、広島県19例、神奈川県11例、愛知県9例、千葉県7例、青森県5例、埼玉県5例の順であり、一方、報告例がない県は20府県であった(図2)。人口100万人当たり報告数でみると、最も高い値を示しているのは広島県6.64であり、次いで青森県3.63、東京都2.95、山梨県2.31、群馬県1.49であった(図3)。

図2. 麻しんの都道府県別累積報告数(2011年第1～15週)

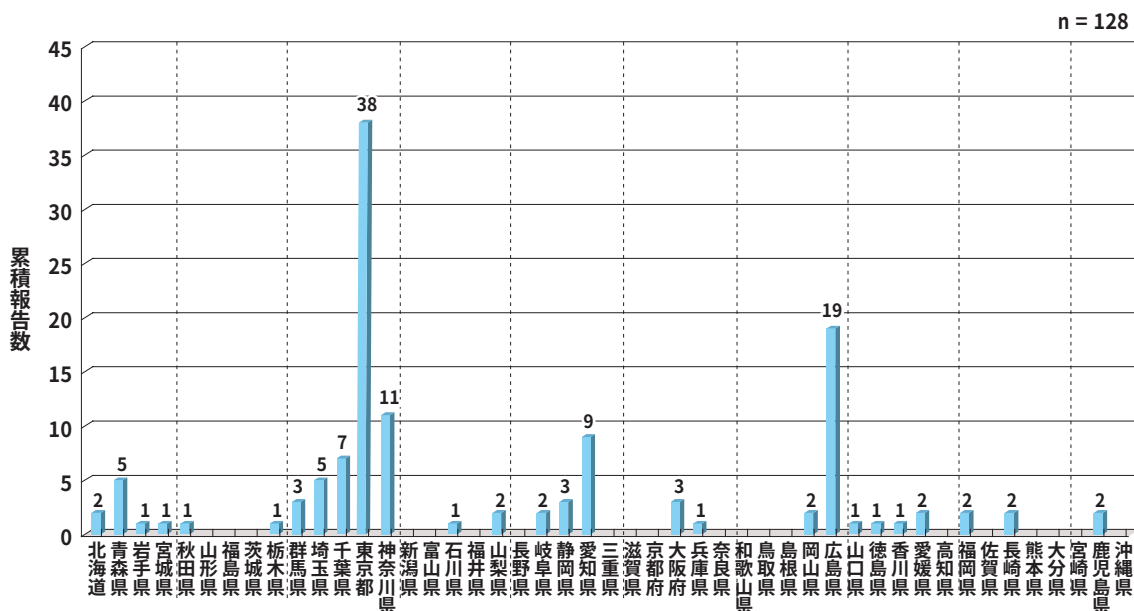
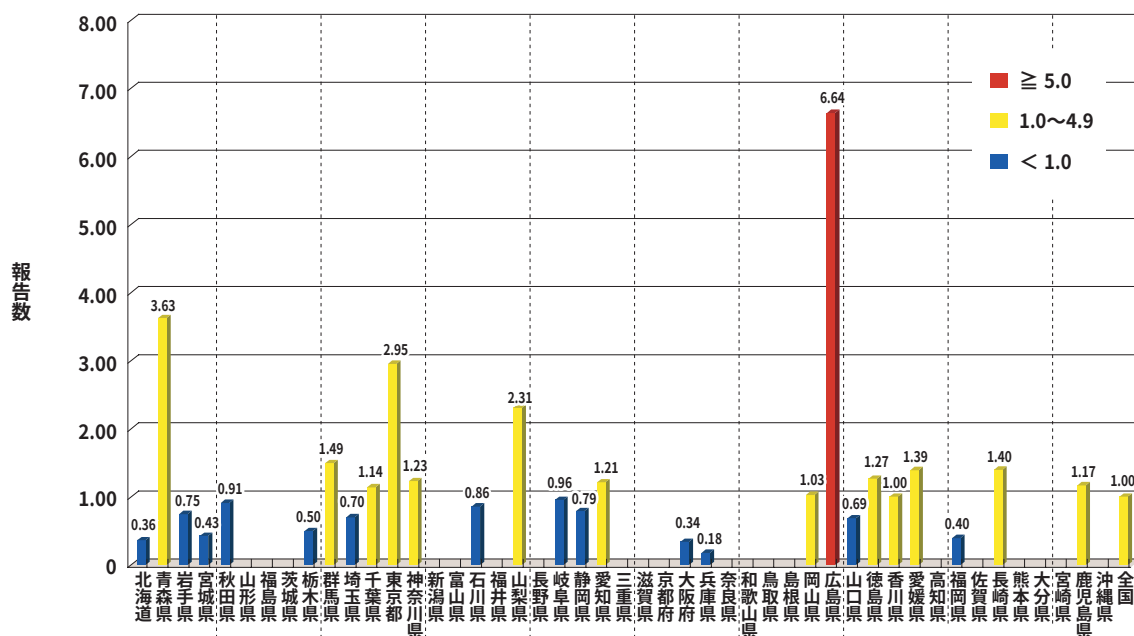


図3. 麻しんの都道府県別人口100万人当たり報告数(2011年第1～15週)



病型別累積報告数では、臨床診断例34例(26.6%)、検査診断例72例(56.3%)、修飾麻しん(検査診断例)22例(17.2%)と、検査診断例が73.5%を占めている(図4)。これは2008年の臨床診断例が全11,012例のうち62.1%を占めていた状況と比較すると、わずか3年の間にほぼ逆転した。

年齢群別累積報告数では、20歳未満では2～4歳16例(12.5%)、10～14歳15例(11.7%)、1歳14例(10.9%)、5～9歳13例(10.2%)、15～19歳11例(8.6%)、0歳5例(3.9%)の順であった(図5)。20歳以上の年齢群では20～29歳25例(19.5%)、30～39歳19例(14.8%)であった。年齢別では、1歳14例、11歳8例、3歳/4歳6例、0歳/2歳5例の順であった。

図4. 麻しん累積報告数の病型別割合(2011年第1～15週)

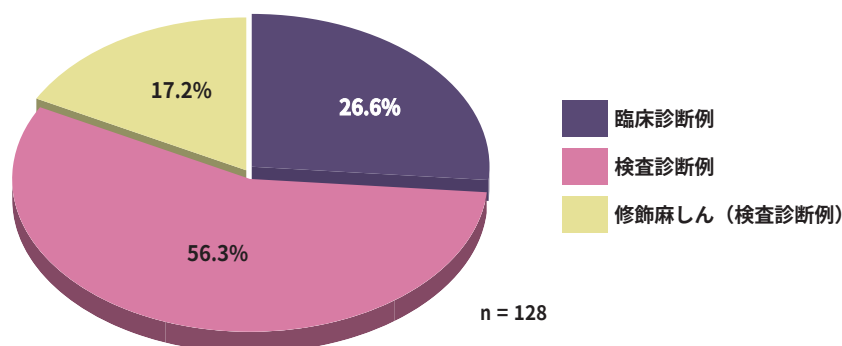
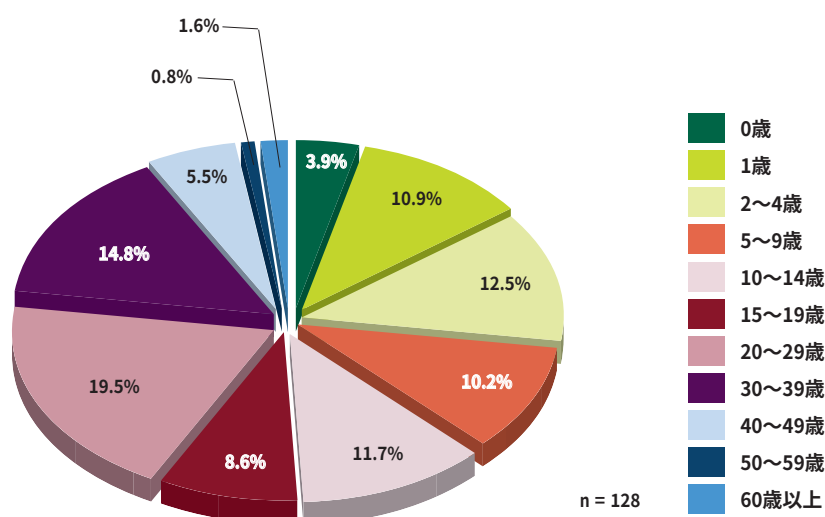
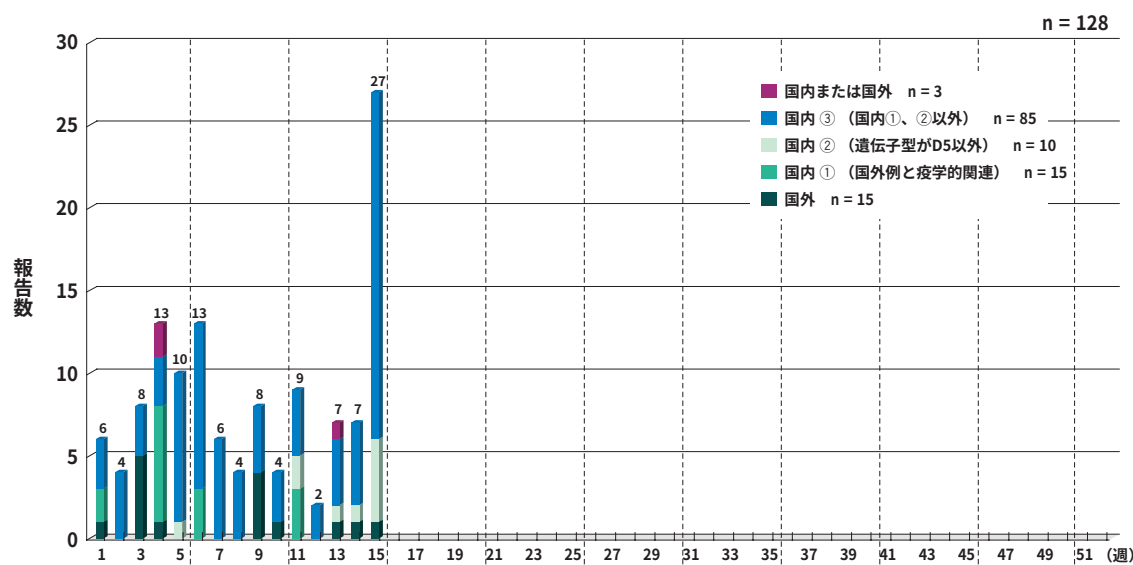


図5. 麻しん累積報告数の年齢群別割合(2011年第1～15週)



感染地域別麻疹報告数を、国外とされたもの、国内①(国外例と疫学的に関連)、国内②(国外例との疫学的関連は認められなかったが、遺伝子型がD5以外のもの)、国内③(①、②以外)、国外または国内、に分類して、週別報告数を図6に示す。国内③以外を「国外例」とすると、その報告数は43例となり33.6%を占めた。さらに、昨年末から今年に特徴的なこととして、これまで国内での感染例から優位に検出されていた遺伝子型D5麻疹ウイルスは検出されておらず、D5型以外の遺伝子型が、国内②のように国内での感染例からも検出されていることがある[参考: 麻疹ウイルス分離・検出状況 2009～2011年(2011年4月22日現在報告数) <http://idsc.nih.go.jp/iasr/measles.html>]。なお、地方衛生研究所で遺伝子型が同定された結果(病原体情報)について、今回集計した患者情報へはまだ反映されていない症例があるため、国内例のうちD5型以外の遺伝子型の症例はさらに増加すると思われる。なお、WHOが定義する麻疹排除の判断基準のひとつは「1年間の報告数が、人口100万人当たり、実験室診断または疫学的リンクによる麻疹確定症例が1未満(臨床診断例、輸入例を除く)」であり、これに該当する症例は第1～15週で79例であり、人口100万人当たりでは0.62であった。

図6. 麻疹の週別感染地域別報告数(2011年第1～15週)



麻疹は年齢にかかわらず命に関わる重篤な疾患である。今年の発生状況においても、20～39歳の症例が34%を占めていることから、決して子どもだけの病気ではない。麻疹排除に向け、さらに麻疹患者発生を抑制しなければならない。そのために必要なことは、まず麻疹予防接種率の向上、すなわち、定期予防接種第1期の高い接種率の維持であり、2回目接種の徹底である。2011年は、2009年以降みられなかった麻疹の流行の兆しがある。加えて、東日本大震災の影響で避難生活を余儀なくされている場合には、通常よりも栄養状態が十分でないことからの重症化も懸念される。また、母子手帳を失くしたことや住民登録状況が不明となっていること、本来の住所とは異なる自治体で避難生活を送っていることが、予防接種の勧奨や実施にあたっての制約になることも考えられる。地域的、さらには全国的な麻疹の流行とならないよう、また被災地へ麻疹が持ち込まれないよう警戒が必要である。定期接種対象者はもちろんのこと、麻疹の罹患歴がない、または不明な方で、麻疹予防接種が未接種あるいは1回のみの接種の方、予防接種歴が不明の方は、定期接種対象外であっても積極的に麻疹予防接種を受けていただきたい。



病原体情報

* グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。

国立感染症研究所・感染症情報センターには各都道府県市の地方衛生研究所(地研)から「病原体個票」と「集団発生病原体票」が報告されています。これには感染症発生動向調査の定点およびその他の医療機関、保健所等で採取された検体から検出された病原体の情報が含まれています。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

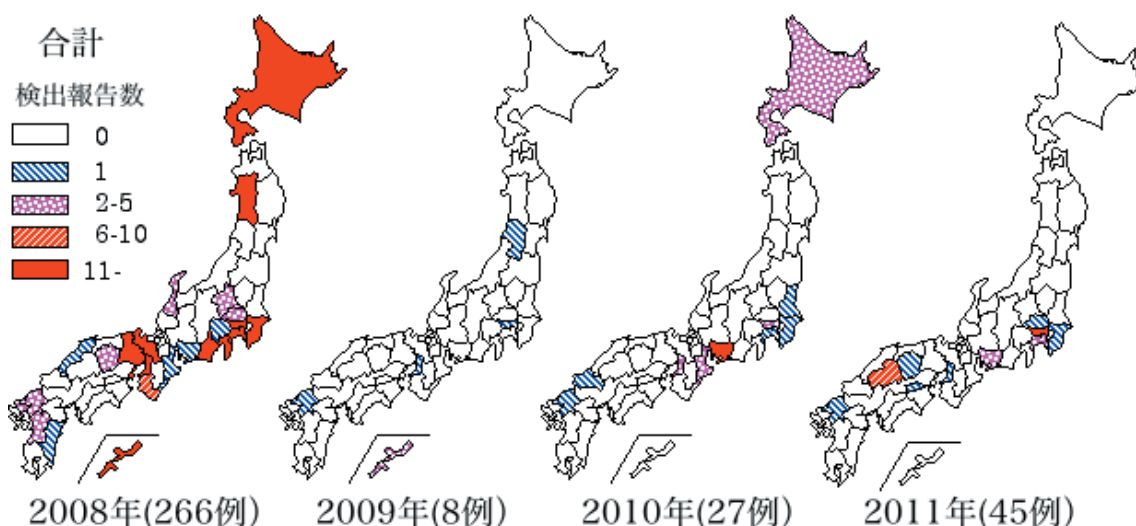
(2011年4月22日現在報告分)

◆麻疹ウイルス 2011年

2011年1～4月に埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、岡山県、広島県、香川県、福岡県の10都府県から45件の麻疹ウイルスの分離・検出が報告されている。

都道府県別麻疹ウイルス分離・検出報告状況、2008～2011年

(病原微生物検出情報: 2011年4月22日現在報告数)



* 各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した

IASR

Infectious Agents Surveillance Report

D4型: 1月1件、3月1件、4月14件、計16件

- ・東京都1月1件、英国から入国する2日前に発症した患者から
- ・大阪府3月1件、フランスから帰国して3日後に発症した患者から
- ・東京都4月14件、ドイツ・スイス・フランスから帰国して13日後に発症した患者、フランスから帰国して2日後に発症した患者、フランスから入国して5日後に発症した患者各1例と渡航歴のない散发例11例から

D8型: 3月広島県1件、オーストリアから帰国して8日後に発症した患者から

D9型: 1月12件、2月9件、3月2件、4月2件、計25件

- ・愛知県1月3件、2010年11月から続いている感染拡大による集団発生例から
- ・東京都1月2件、シンガポール・スリランカから帰国する3日前に発症した患者とフィリピンから帰国して9日後に発症した患者から
- ・東京都2月2件、3月2件、渡航歴のない散发例から
- ・埼玉県2月1件、渡航歴のない散发例から
- ・神奈川県1～2月2件、フィリピンから帰国して7日後に発症した患者とその家族から
- ・岡山県1月1件、フィリピンから帰国して8日後に発症した患者から
- ・広島県1月5件、2月4件、フィリピンから帰国した翌日に発症した患者1例とその周囲への感染拡大による集団発生例6例、および地域の散发例2例から
- ・香川県2月1件、広島県で感染したと推定される患者から
- ・東京都4月2件、フィリピンから帰国して4日後に発症した患者とグルジアから帰国後発症した患者から

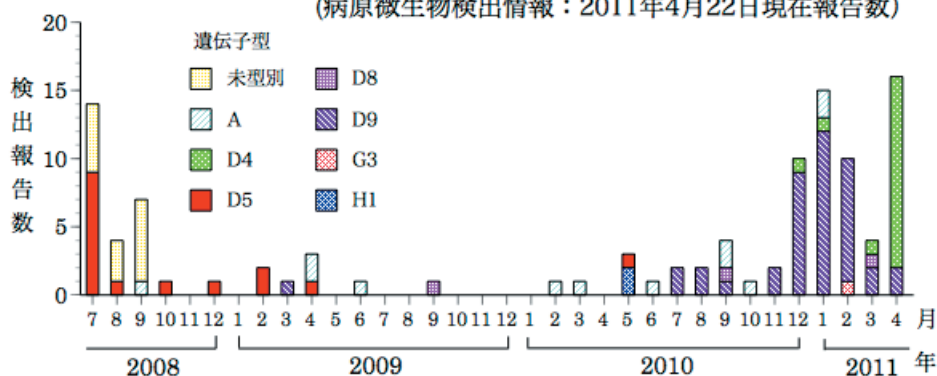
G3型: 2月千葉県1件、インドネシアから帰国して10日後に発症した患者から

A型(ワクチンタイプ): 1月2件

- ・東京都1月1件、発疹症患者、ワクチン接種13日後に採取された検体から
- ・福岡県1月1件、麻疹疑い患者、ワクチン接種歴不明

月別麻疹ウイルス分離・検出報告数、2008年7月～2011年4月

(病原微生物検出情報: 2011年4月22日現在報告数)



* 各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した

麻疹ウイルス分離・検出速報は <http://idsc.nih.go.jp/iasr/measles.html> を参照ください。



◆麻疹 2010年 (2011年4月20日現在)

麻疹は「はしか」とも呼ばれ、麻疹ウイルス(*Paramyxovirus*科*Morbillivirus*属)によって引き起こされる感染症で、39℃前後の高熱と耳介後部から始まって体の下方へと広がる赤い発疹を特徴とする全身性疾患である。麻疹に対して免疫を持たない者が感染した場合、典型的な臨床経過としては10～12日間の潜伏期を経て発症し、カタル期(2～4日間)、発疹期(3～5日間)、回復期へと至る。一方、ヒトの体内に入った麻疹ウイルスは、免疫を担う全身のリンパ組織を中心に増殖し、一過性に強い免疫機能抑制状態を生じるため、麻疹ウイルスそのものによるものだけでなく、合併した別の細菌やウイルス等による感染症が重症化する可能性も生じうる。麻疹肺炎は比較的多い合併症(麻疹患者10人に1～2人)で麻疹脳炎(麻疹患者1,000人に1人)とともに2大死亡原因といわれている。さらに罹患後7～10年の期間を経て発症する亜急性硬化性全脳炎(SSPE、麻疹患者10万人に1人)などの重篤な合併症もある。また、先進国であっても麻疹患者1,000人に1人の割合で死亡する可能性がある。麻疹は接触感染、飛沫感染、空気感染(飛沫核感染)のいずれの感染経路でも感染し、発症した場合に麻疹に特異的な治療方法はない。手洗い、マスク等の感染対策も十分に効果的な予防手段とは言えず、唯一の有効な予防方法はワクチンの接種によって麻疹に対する免疫を予め獲得しておくことであり、2回のワクチン接種を受けていればまず罹らずにすむといえる。

麻疹は、2008年の1月1日から5類の全数報告疾患に位置づけられた。2008年、2009年の発生状況は、それぞれIDWR2009年第4号(<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/idwr0904.html>)、同2010年第4号(<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/idwr1004.html>)で報告したので参照して頂きたい。2010年第1～52週(2010年1月4日～2011年1月2日診断のもの、2011年4月20日現在)の麻疹患者発生報告数は38都道府県(2009年から6県減少)から455例であり、これは2009年(2011年4月26日現在)の732例に比較し38%の減少、2008年(2010年3月6日現在)の11,012例に比較し96%の減少であった。週別報告数の推移をみると、2008年に認められたような、明らかに流行期といえる大きなピークは形成されず、5～15例前後の報告が継続していた(週平均8.8例)。報告数が最も多かった週は第27週で19例、最少は第38週と第41週の2例であった(図1)。

都道府県別に累積報告数をみると、神奈川県79例、東京都76例、千葉県43例、愛知県32例、大阪府31例、埼玉県29例、福岡県25例の順となっていた(図2)。これを、2010年10月1日現在の各都道府県の人口をもとに、100万人当たりの報告数に換算すると、福井県9.9、神奈川県8.8、千葉県7.0、東京都5.9、青森県5.1、鳥取県5.1の順であった。日本全体では、100万人当たりの報告数は3.6(2008年86.2、2009年5.7)となった(図3)。また、WHOが2010年12月に発表した麻疹排除の判断基準のひとつである、「1年間の報告数が、人口100万人当たり、実験室診断または疫学的リンクによる麻疹確定症例が1未満(臨床診断例、輸入例を除く)」という定義では2.4となった。

病型別累積報告数は、臨床診断例129例(28.4%)、検査診断例152例(33.4%)、修飾麻疹(検査診断例)174例(38.2%)となっており、修飾麻疹を含めた検査診断例の割合は71.6%と2009年の60.4%から11.2ポイント増加した(図4)。

図1. 麻しんの週別および累積報告数(2009～2010年)

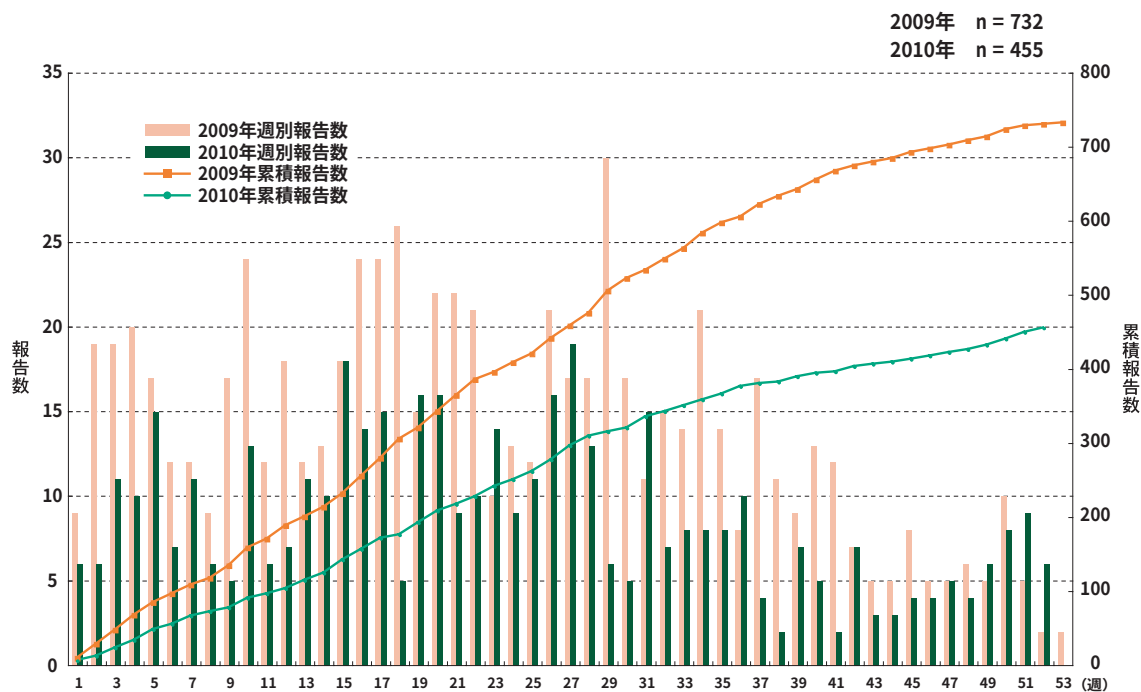


図2. 麻しんの都道府県別累積報告数(2010年)

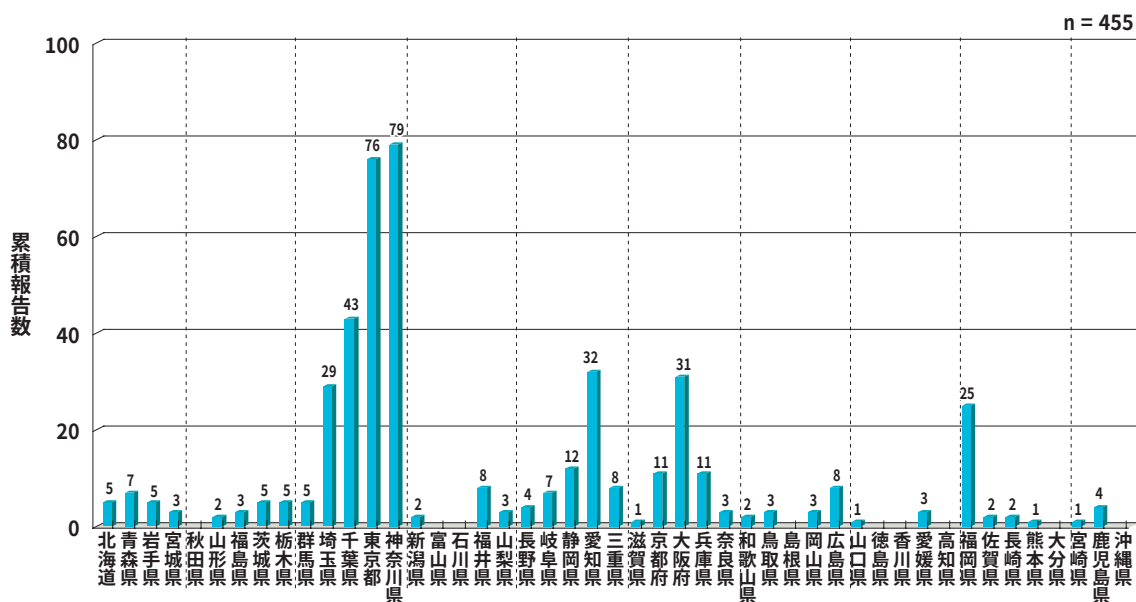


図3. 麻しんの都道府県別人口100万人当たり報告数(2010年)

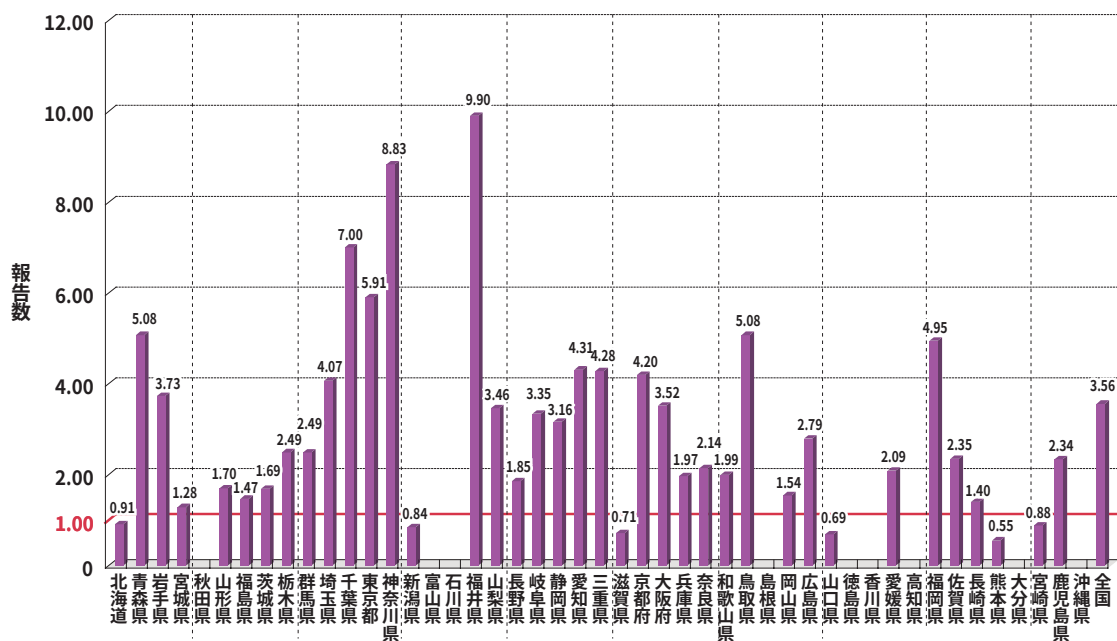
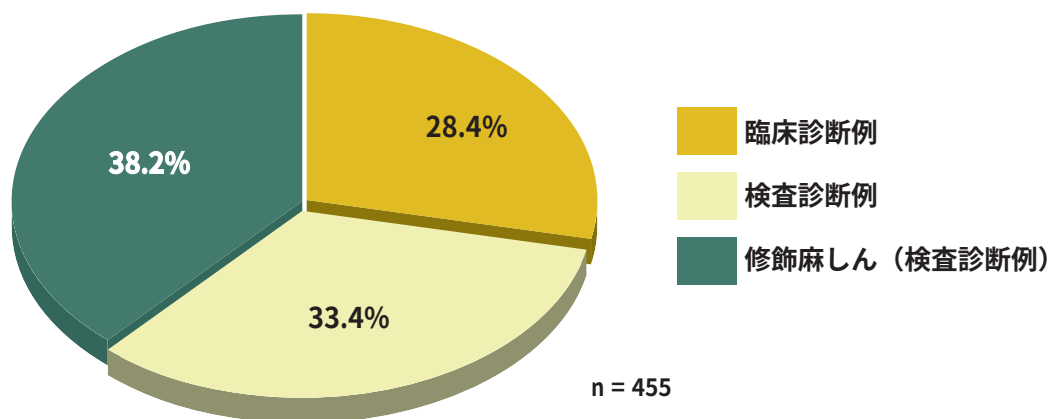


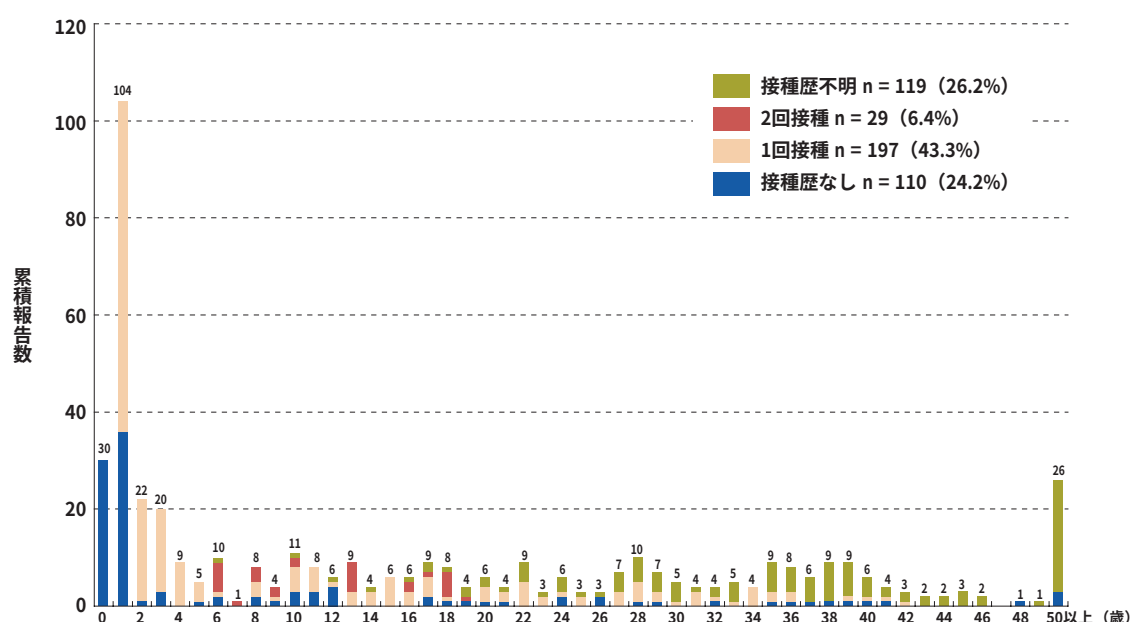
図4. 麻しん累積報告数の病型別割合(2010年)



年齢群別では0～4歳185例(40.7%)、35～39歳41例(9.0%)、10～14歳38例(8.4%)、15～19歳33例(7.3%)、25～29歳30例(6.6%)、5～9歳/20～24歳28例(6.2%)の順となっている。年齢別では、1歳104例、0歳30例、2歳22例、3歳20例で、0～3歳、特に1歳が患者発生の中心であり、2008年に認められた14～17歳の患者の集積は認められず、2009年と同様の傾向であった。

麻しん含有ワクチンの接種歴別の報告数は、接種歴なし110例(24.2%)、1回接種197例(43.3%)、2回接種29例(6.4%)、接種歴不明119例(26.2%)となっており、1回接種者が最も多く、次いで接種歴不明者、ワクチン未接種者の順であった(図5)。

図5. 麻しん累積報告数のワクチン接種歴別年齢分布(2010年)



このうち、1回の接種歴のある症例の割合が多い5歳以下の症例を検討した。この年齢群の患者総数は190例であり、このうち119例(63%)に接種歴があった。これらのなかでワクチンの接種日と麻しんの発症日の記載があったものが75例、うち10例は接種日から発症日までが28日以下であり、ワクチンそのものの反応によるものも否定できない症例であった。この10例を除いた接種歴のある5歳以下の症例計109例の診断方法は、臨床診断例23例(21.1%)、検査診断例49例(45.0%)、修飾麻しん(検査診断例)37例(33.9%)であった。修飾麻しんを含めた検査診断例86例の診断方法については、IgM抗体価のみ82例(95.3%)、IgM抗体価およびペア血清2例(2.3%)、IgM抗体価および分離・同定1例(1.2%)、ペア血清のみ1例(1.2%)であった。自由記載により報告された範囲の情報として、IgM抗体価のみで検査診断されたもののなかには、PCR検査陰性の症例が1例、IgM抗体価が弱陽性(1.11～3.13)の症例が6例あった。

また遺伝子型の情報を得られた症例は20例あり、D9が最も多く15例(75%)、次いでH1 2例(10%)、D4、D5、D8はそれぞれ1例(5%)だった(図6)。

麻しんの合併症について、肺炎合併例は17例の報告があったが、全報告数に占める割合は3.7%であり、昨年(19/732=2.6%)と有意差はなかった($p=0.25$)。年齢、または年齢群別では、0～2歳の症例で半数以上を占め、特に1歳が5例(29.4%)と最も多かった(図7)。年齢群毎の総

図6. 麻しんの週別遺伝子型別報告数(2010年)

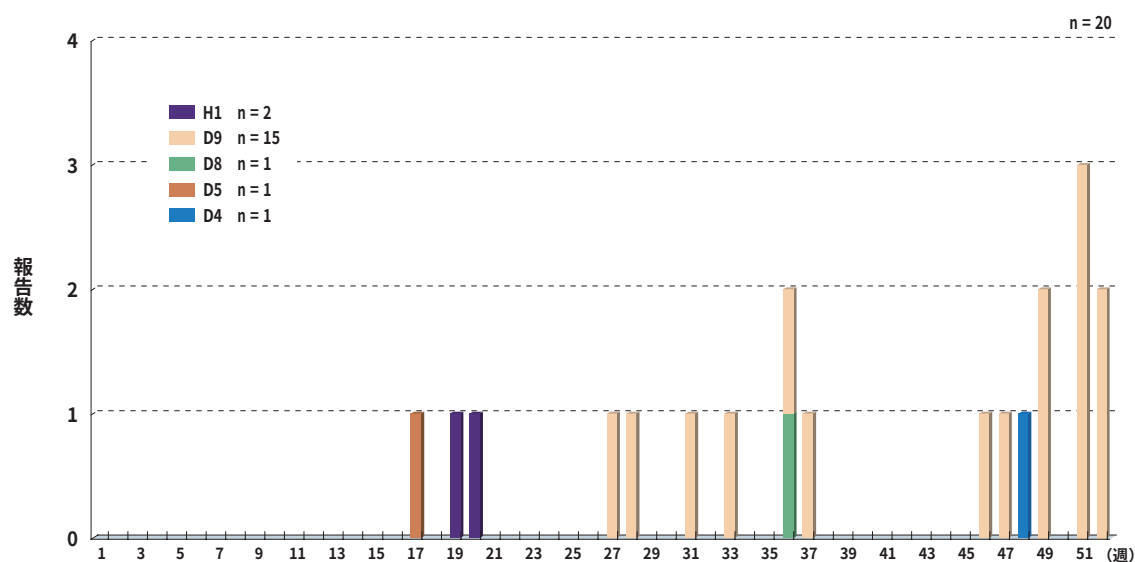
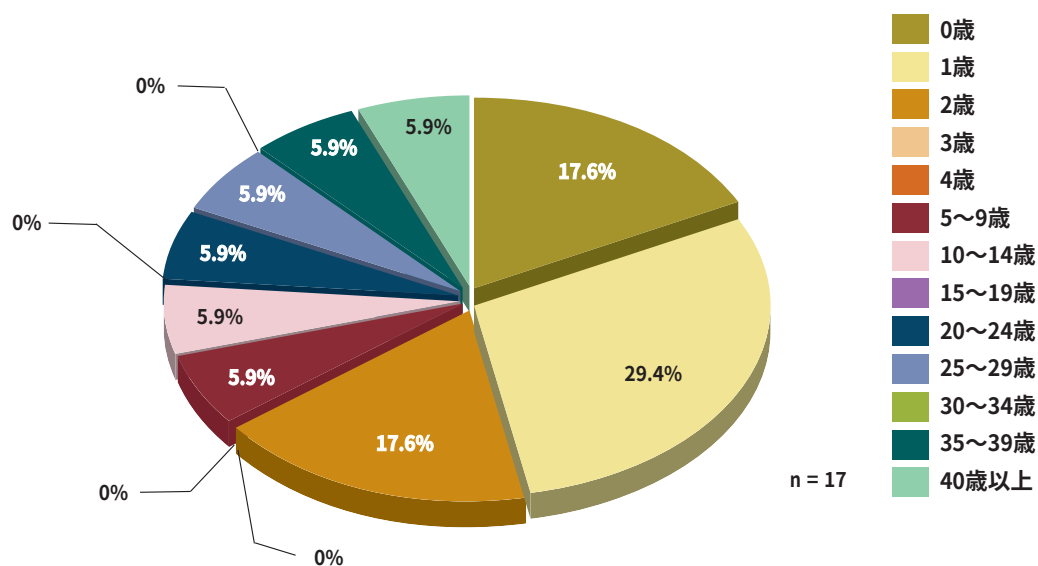


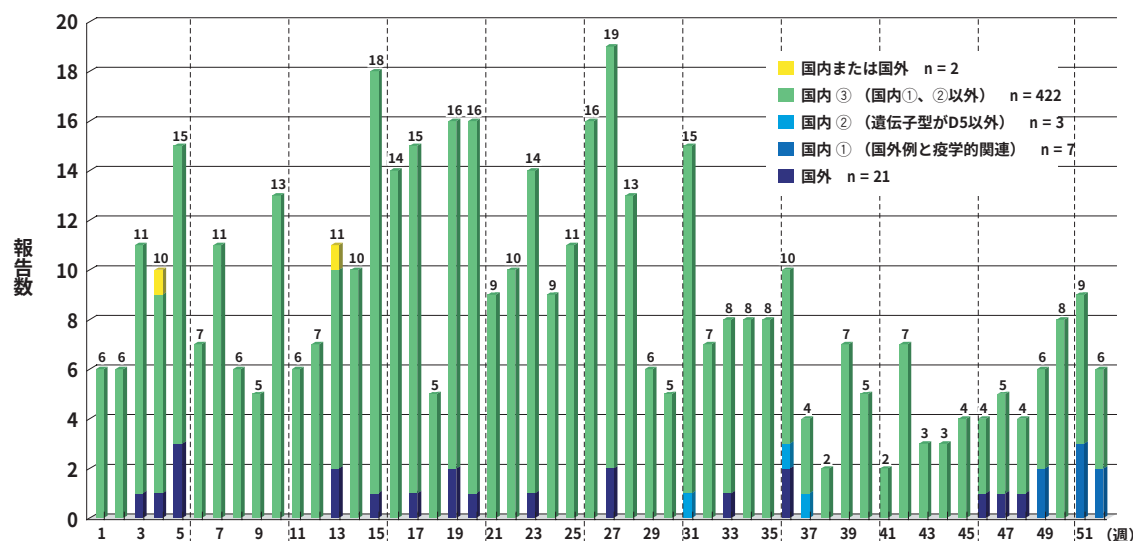
図7. 肺炎合併の報告があった麻しん症例年齢群別割合(2010年)



報告数に占める肺炎合併例の割合は、0歳10%(3/30)、1歳4.8%(5/104)、2～4歳5.9%(3/51)で、この年齢群での肺炎合併頻度は他の年齢群よりも高かった。脳炎の報告は1例あり年齢群は70代であった。

感染地域について、国外、国内①(国外例と疫学的に関連)、国内②(国外例との疫学的関連は認められなかったが、遺伝子型がD5以外のもの)、国内③(①、②以外)、国外または国内か判別が困難だったもの、の5つに分類して、週別報告数を図8に表わした。③を「国内例」、それ以外(国外、国内①、国内②、国外または国内)を「国外例」とすると、「国外例」は33例で7.3%を占め、2009年の2.5%(18例/732例)と比べると相対的に増加した。また、2010年12月には、海外感染例を初発とし、ワクチン未接種者の症例を中心とした小学校での集団発生も報告された(フィリピンからのD9型輸入麻疹および関連症例の発生—愛知県、IASR速報: <http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/pr3723.html>)。

図8. 麻しんの週別感染地域別報告数(2010年)



上述したように、麻しんの報告数は2008年の11,012例と比較して96%減少し、2009年の732例からは38%の減少となった。2大重症合併症のうち、肺炎については発症率は昨年と比較し変化がなく、脳炎は2年ぶりに1例の報告があった。死亡については少なくとも届出時点では報告例はなかった。このように全体の報告数が減少するなか、臨床症状にもとづく診断がますます困難となり検査診断の重要性が増しているが、2010年11月11日に検査診断に関する通知(http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou21/tsuuchi_101111_01.html)が発出され、より正確に麻しんの診断が行える遺伝子検査が積極的に行われるようになった。上述の国外例を発端とする集団感染もこの遺伝子型による診断でその規模を正確に把握することが可能であった。このように、遺伝子検査は海外感染例およびその疫学的関連のある症例を正確に診断するだけでなく、「国内土着株」の排除の過程を確認するうえでも非常に重要である。また、発熱や発疹の発症日や検査検体の採取日、IgM抗体価を把握することで、伝染性紅斑などの他疾患との交差反応が指摘されているIgM抗体検査結果をより正確に判断し麻しんをより正確に診断することが可能となる。これらの結果を反映できるよう、4月1日より届出票も改訂された(<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/pdf/01-05-14-03.pdf>)。届出医や自治体の

保健部署担当の方々には、それらの項目の届出や把握についてご協力いただきたい。なお、検査診断の考え方については、<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/pdf01/arugorizumu.pdf> を参考にしていきたい。

日本における麻しんの排除を達成するためには、日本国内における麻しんウイルスへの感受性を極力なくすることが不可欠で、それを達成するには2回の麻しん含有ワクチン接種率を95%以上にすることが求められる。2008年4月1日から2013年3月31日までの5年間の期限付き措置として、1回しか定期予防接種(以下、定期接種)の機会がなかった年齢層のうち、第3期(中学校1年生相当年齢)、第4期(高校3年生相当年齢)の年齢の者に対する2回目の定期接種が導入された。中学校、高校などの学校現場では、定期接種対象年齢の者における麻しん罹患歴や麻しん含有ワクチン接種歴の積極的な把握とワクチンの接種勧奨がなされている。しかし、麻しん含有ワクチン接種率は、全国平均で2009年度:第1期93.6%、第2期92.3%、第3期85.9%、第4期77.0%と、第3、4期の接種率が90%にも及ばず、2010年12月時点の2010年度中間評価では、全国平均で第2期70.9%、第3期68.9%、第4期58.8%という状況である。従来麻しんの流行期は春から初夏であり、定期接種対象者(1歳児、小学校入学前1年間の者、中学1年生相当年齢の者、高校3年生相当年齢の者)は、すみやかに接種を受けていただきたい(自治体によっては定期接種対象者以外の小児などでも公費助成がうけられる場合がある)。また、麻しんの罹患歴がない、または不明な方で、麻しん予防接種が未接種あるいは1回のみの接種の方、予防接種歴が不明の方は、定期接種対象外であっても積極的に麻しん予防接種を受けていただきたい。さらに、麻しんに感染したり、感染させたりするリスクの高い医療従事者や学校・福祉関係の従事者も罹患歴や接種歴が不明な場合には、積極的に接種を受けることが勧められる。

以下に、麻しん関連情報として感染症情報センターのホームページに掲載されている主な項目とそのURLを挙げる。麻しん対策として活用いただければ幸いである。

■麻疹(はしか): <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>

1. 麻しん予防接種情報: <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/01.html>
2. 教育啓発: <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/02.html>
3. 発生動向: <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/03.html>
4. 対策・ガイドラインなど: <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/04.html>
5. 自治体等の取り組み: <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/05.html>
6. Q & A: <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/QA.html>
7. 関連情報: <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/06.html>



海外感染症情報

*WHOのEPR(Epidemic and Pandemic Alert and Response)による、感染症アウトブレイクニュース等を掲載しています。

●ヨーロッパでの麻疹アウトブレイク

2011年4月21日

2011年4月18日の時点で、ヨーロッパの33カ国から6,500以上の麻疹症例が報告された。疫学調査と遺伝子検査により地域の数カ国と南北アメリカ大陸で麻疹ウイルスの伝播が確認された。

ベルギーはこれまでに100症例を報告した(2010年は総数は40症例)。

ブルガリアは今年131症例を報告した(2009年と2010年で24,000症例)。

フランスは2011年1月から3月までに4,937症例を報告した(2010年の総数は5,090症例)。

セルビアでは国の南東部のレスコバツ(Leskovac)より300症例近くが報告された。

スペインは、2010年10月以降2つの麻疹アウトブレイクが継続し、アンダルシア(Andalusia)で600症例以上を報告している。最初のアウトブレイクでは、最も症例が発生している地域はセビリヤ(Sevilla)とその周辺の自治体で、2011年1月から350症例以上の麻疹が報告されている。麻疹症例は医療従事者の報告もある。二番目のアウトブレイクはグラナダ(Granada)地方で報告され、2010年10月から約250症例が報告された。

マケドニア旧ユーゴスラビアは、2010年9月の麻疹アウトブレイク開始以降2011年4月の第1週時点で636症例を報告し、2011年で400症例以上が診断されている。首都スコピエ(Skopje)は、アウトブレイクにより最も影響を受けた地域である。

トルコでは2011年1月にイスタンブール(Istanbul)で80症例以上のアウトブレイクの報告があった。

スペインの二番目のアウトブレイクとトルコのアウトブレイクを除いた全てのアウトブレイクで、D4型麻疹ウイルス遺伝子が確認された。B3遺伝子型麻疹ウイルスはスペインの二番目のアウトブレイクから分離され、一方、東南アジア由来で東南アジアで一般的にみられる株のD9遺伝子型(例えばマレーシアやインドネシア)は2011年1月のトルコのイスタンブールでのアウトブレイク発生時に確認されている。

さらに今年、ドイツ、オランダ、ノルウェー、ルーマニア、ロシア、スイス及び英国でアウトブレイクが発生し、症例数の増加が報告された。

旅行は麻疹ウイルスへの曝露のリスクが高まり、ワクチン未接種であれば感受性が高い集団への蔓延拡大のリスクが増加する。蔓延防止のためにWHOは、各国の保健当局に対して、旅行に行く前の予防接種の勧奨及び保健医療制度の中で各国の予防接種スケジュールに従った予防接種の実施を推奨する。

WHOは全ての子どもに麻疹ワクチン2回接種を推奨し、麻疹ワクチン接種歴が不明な青年及び成人に対して海外旅行前に少なくとも1回の麻疹ワクチン接種を推奨する。

●コートジボワールにおける野生株ポリオ

2011年4月21日

コートジボワールでは、3型の野生株ポリオウイルスによるアウトブレイクが発生しており、今年の1月27日、2月24日、2月27日に発症した3例が報告されている。

分離ウイルスの遺伝子検査から、ナイジェリア北部で2008年に検出された3型の野生株ポリオウイルスとの関連が明らかとなった。この症例は、2000年以降、コートジボワールにおける初の3型野生株ポリオの確認例である。2008～09年、コートジボワールは、西アフリカで発生した1型野生株ポリオのアウトブレイクに襲われたが、その流行は最近終息していた。

現在コートジボワールでは、国内及び国外への感染拡大のリスクが存在する。西アフリカでは、2000年以降、3型野生株ポリオウイルスの伝播は、ナイジェリア北部、ニジェールの特定の地域、2008年以降は加えてマリの特定の地域、ベニンの1例に限られていたが、今回のアウトブレイクは、その地域以外で初であった。アウトブレイク対応は、コートジボワールにおける治安状況により制約を受けているかもしれない。コートジボワールや西アフリカの他の地域では、国内における慢性的なサーベイランス能力の低下が続いており、現時点では未確認の感染拡大が否定出来ない。

今回3症例が発見されたことにより、不十分なサーベイランスが世界ポリオ根絶計画の脅威となることが再認識された。世界的に見れば、3型の野生株ポリオ流行は歴史上もっとも低いレベルにある。2011年、3型ポリオは全世界でわずか9例しか報告されておらず、残存する3型野生株ポリオウイルスの感染伝播を断ち切る努力をすることが、世界ポリオ根絶計画における優先的なカギである。

最も重要な優先事項は、西アフリカ全土における1型に対する高い集団免疫を落とすことなく、3型のアウトブレイクを至急止めることである。現在、西アフリカでは、2価及び3価の経口ポリオワクチンを用い、15カ国で連携した補足的ワクチン一斉接種が3月25日と4月29日に2回実施されているところであるが、コートジボワールでは行なわれていない。この2回のワクチン一斉接種に加え、更なるアウトブレイク対応が6カ国において計画中である。

コートジボワールにおいては、現在の治安及び政治的状況のため、3月末のワクチン一斉接種は実施されなかった。アウトブレイク対応のため、感染地域において2価の経口ポリオワクチンを用いたワクチン一斉接種が4月後半の可能な限り早期に実施され、続けて2回の全国レベルでのワクチン一斉接種が実施されるよう提案されている。この緊急対策のため、技術、ワクチン、オペレーション上のキャパシティが確実に確保できるように準備が進められている。特に住居を失った人々に対し、ポリオワクチンが他のワクチン接種計画に確実に加えられるように、コートジボワールで活動している他の国連機関やNGOとの連携が進められている。現在の感染伝播が監視され、疫学状況に応じたワクチン接種(Mop-up)が実施される。

定住しない人口、移動人口や十分な公的サービスを受けていない人口に対するサーベイランスの不備を更に明確に突き止めるため、調査が実施中である。国内のサーベイランスを強化し、全ての地域と人口集団、特に高リスク人口に対し質の高いサーベイランスを提供するため対策が実施される予定である。

WHOの国際渡航と健康(International travel and health)に示されている提言にあるように、コートジボワールや西アフリカのポリオ発生国へ向かうかもしくはそれらの国を出国する者は、ワクチン接種を受け十分に予防するべきである。過去に3回以上の経口ポリオワクチンを接種されている人には、出発前に更に追加接種が提供されるべきである。ワクチン未接種でコートジボワールや西アフリカの他のポリオ発生国への渡航を計画している者は全て予防接種を完了するべきである。また、これらの国を出国する渡航者は予防接種コースを完了するべきであるが、最低でも出発前に1回の経口ポリオワクチンを受けるべきである。

●鳥インフルエンザ－カンボジアにおける状況

2011年4月21日－更新3

カンボジア保健省は、鳥インフルエンザウイルスA (H5N1) 亜型の新たな1例のヒト感染症例を報告した。

症例はプレイベン州 (Prey Veng Province)、ピエリャン地区 (Pea Raing district) の5歳の女児で、4月11日発症し地元の開業医が初期治療を実施したが状態は改善せず、4月13日カンタボパ小児病院 (Kantha Bopha Children Hospital) に入院したが、4月16日死亡した。

女児の住んでいた村では、家禽が次々に死んでいたという報告がされている。女児はカンボジアにおける鳥インフルエンザウイルスA (H5N1) 亜型に感染した15例目の症例で、合併症により死亡した13例目の症例である。2011年、カンボジアにおける鳥インフルエンザウイルスA (H5N1) 亜型のヒト感染症例5例は、全例死亡している。

女児と接触があった53人の臨床検体について、国立公衆衛生研究所 (National Institute for Public Health) で検査室診断が実施されている。

●鳥インフルエンザ－エジプトにおける状況

2011年4月21日－更新51

2011年4月16日、エジプト保健省は鳥インフルエンザウイルスA (H5N1) 亜型の新たな2例のヒト感染症例をWHOへ報告した。

1例目はファイユーム行政区 (Fayoum Governorate)、ワディ・エル・ラヤン地区 (Wadi Elrian area) の29歳男性で、4月1日発症、4月4日入院、4月7日に死亡した。

2例目はファイユーム行政区 (Fayoum Governorate)、ソノレ地区 (Sennores area) の1歳半男児で、4月9日発症、4月11日入院、現在治療中で状態は安定している。

これら2症例に対して、入院の時点でオセルタミビルが投与された。

感染源調査の結果、両症例は鳥インフルエンザが疑われる病気もしくは死んだ家禽への曝露が確認された。これら2症例間に疫学的関連性はない。

これらの症例は、WHOの世界インフルエンザサーベイランスネットワーク (WHO Global Influenza Surveillance Network) の国家インフルエンザセンターであるエジプト中央公衆衛生研究所 (Egyptian Central Public Health Laboratories) で確定診断された。

エジプトではこれまでに143例が確定診断され、そのうち47例が死亡している。



感染症の話

◆疥癬

疥癬はヒゼンダニ(疥癬虫、*Sarcoptes scabiei*)が皮膚の最外層である角質層に寄生し、人から人へ感染する疾患である。

非常に多数のダニの寄生が認められる角化型疥癬(ノルウェー疥癬)と、少数寄生であるが激しい痒みを伴う普通の疥癬(通常疥癬)とがある(表1)。近年わが国では病院、高齢者施設、養護施設などで集団発生の事例が増加しており、疥癬感染防止対策マニュアルの作成が行われているが、予防、治療法などに混乱があり、医療および介護関係者の間で問題となっている。

表1. 通常疥癬と角化型疥癬

	通常疥癬 (普通に見られる疥癬)	角化型疥癬 (ノルウェー疥癬)
ヒゼンダニの数	数十匹以下	100万～200万
患者の免疫力 (病氣一般に対する抵抗力)	正常	低下している
感染力(他人へうつす力)	弱い	強い
主な症状	赤いブツブツ(丘疹、結節) 疥癬トンネル	厚いあか(垢)が増えたような状態(角質増殖)
かゆみ	強い	不定
症状が出る部位	顔や頭を除いた全身	全身

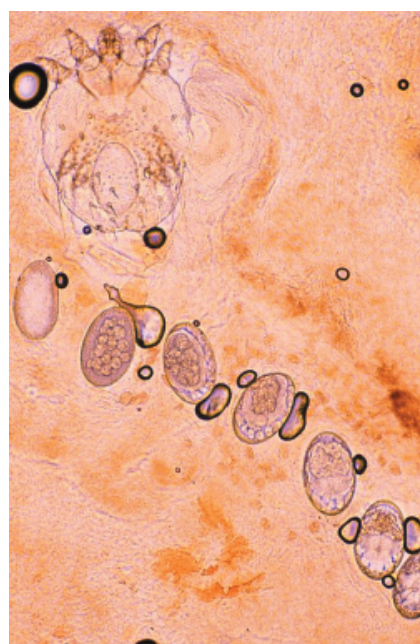
感染経路

ヒゼンダニの大きさは雌成虫で体長約400 μm、体幅約325 μmで、卵形、円盤状で(写真1)、肉眼ではほとんど見えない。雄は雌よりさらに小型である。卵→幼虫→若虫→成虫と約2週間で成熟する。幼虫、若虫、雄成虫は人の皮膚表面を歩き回るため、皮膚同士の接触によって感染する。また、皮膚内に掘った穴や毛包内に隠れていたりするため、ダニの寄生部位を特定するのは難しい。皮表を歩き回っている雄は雌を探し、交尾する。交尾後の雌成虫は、角質層に特徴的な疥癬トンネルを掘り進みながら、4～6週間にわたって1日2～3個ずつ産卵し続ける。卵は3～4日で孵化し、幼虫はトンネルを出てはいまわる。

ヒゼンダニは乾燥に弱く、皮膚から離れると2～3時間程で死ぬ。なお、イヌやタヌキなどの動物疥癬による偶発的症例が報告されており、感染した人は皮膚症状を示すが、皮膚内でダニが繁殖しないために、一時的な寄生で終わる。

写真1. ヒゼンダニ

メスは1日2～3個の卵を産む。
成虫の腹部に卵がみられる。



疥癬患者は年間8～15万人と予想されている。感染経路は人と人との接触がほとんどである。従って、家族、介護者、セックスパートナーの他、ダンスの相手やこたつで行う麻雀の仲間、また、畳での雑魚寝などでも感染する可能性がある。まれに寝具、衣類などから感染することもある。ヒゼンダニはヒトの体温より低い温度では動きが鈍く、16℃ではほとんど運動しなくなる。通常の社会生活で、通常疥癬患者と数時間並んで座った程度では、感染する可能性はほとんどない。感染直後は全く症状がないが、感染後約4～6週間で多数のダニが増殖し、その虫体、脱皮殻や排泄物(糞)によって感作されることにより、アレルギー反応としての激しい痒みが始まる。なお、角化型疥癬の患者から感染を受けた場合には、多数のダニが移るので、潜伏期間も4～5日と非常に短くなる。

集団生活が行われている高齢者福祉施設や養護施設などでは、一人の角化型疥癬患者の入所で集団発生の危険が生じる。1996年に東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の養護老人ホームと特別養護老人ホーム506施設に、疥癬の集団発生に関するアンケート調査を実施した報告では、集団発生を経験したことがある施設は養護老人ホームで45%、特別老人ホームは79%であった。多くは10人以下の集団発生であったが、41人以上の集団発生も5施設あった。患者の発生が持続する期間は1～6カ月89%、6カ月～1年8.2%、1～2年2.6%で2年以上も1施設みられた(皮膚病診療19:468、1977)。このような状況は現在もあまり変わっていない。

臨床症状・診断

激しい痒みは特に夜間に増強し、睡眠を妨げられることがある。ただし、高齢者や角化型疥癬の患者では掻痒の訴えが少ない場合もある。疥癬に特徴的な皮疹は疥癬トンネル(小隆起性茶色調、曲がりくねった線状疹)で、手首の屈側、手掌尺側、指、指間、肘、アキレス腱部などに認められる。その他、丘疹、小水疱、痂皮、小結節なども見られる。陰嚢部には小結節を認めることがある。また、下腹部や背部、腋窩などにも丘疹を認めることもあるので、全身くまなく観察することが必要である。

疥癬の確定診断はヒゼンダニを検出することである。しかし、問診・皮膚症状で疥癬が疑われる患者からのヒゼンダニ検出率は、皮膚科医が行った場合でも60%前後であり、検出率向上は主治医の努力にかかっている。したがって、強い掻痒を伴う疑わしい皮疹がある場合には、早期に皮膚科専門医に診察を依頼する。検査で陰性であっても掻痒や皮膚症状が収まるまで、数週間おいて繰り返し検査する必要がある。

ヒゼンダニの検出方法は、拡大鏡(ダーモスコープ、顕微鏡の接眼レンズなど)で、疥癬トンネルの先端を観察すると、顎体部と前二対の脚が黒褐色でその後方に続くほぼ透明な円形の胸腹部が観察できる。

また、疥癬トンネルや皮疹部を先の曲がった眼科用ハサミで先端を切り取ったり、あるいは、メスで皮疹の表面をこすって採取した組織片をスライドグラスに載せ、20%水酸化カリウム液を皮膚小片に滴下し、透過させて検鏡する。虫体や虫卵のほか、虫体の一部、卵の抜け殻などを検出する。血液像、血液生化学検査などは正常である。免疫学的検査法は開発されていない。

角化型疥癬(ノルウェー疥癬、痂皮型疥癬)

角化型疥癬は、桁違いに多数のヒゼンダニが感染した疥癬の重症型である(写真2)。患部は肥厚した灰色～帯黄白色の角質増殖と痂皮に覆われた状態になり、亀裂も生じる。ダニの数は通常の疥癬では数十匹であるが、角化型では100万～200万匹と言われている。

写真2. 角化型疥癬の患者

灰白色に見える部分は角化が進行している。

角化した皮膚を顕微鏡で観察すると多数のヒゼンダニを認める。



患者から剥がれ落ちた鱗屑や痂皮には多数のヒゼンダニがいるので、集団発生の感染源になる。角化型疥癬患者には、高齢者に多くみられる運動機能低下・障害、あるいは免疫学的異常など種々の基礎疾患があり、ステロイド剤の内服・注射などの全身投与や外用なども重症化の一因となる。角化型では爪なども侵され、掻痒は不定で治療に抵抗性である。角化型ではヒゼンダニの検出が容易であるので、特徴的な皮疹を診て疥癬を疑うことが診断上重要である。

治療・予防

ヒゼンダニを殺すことを目的とした飲み薬や、塗り薬が使われる(表2)。塗り薬は正常なところも含めて塗り残しがないように首から下の全身にくまなく塗る。また、痒みに対しては痒み止めの内服薬を用いる。

〈飲み薬〉

イベルメクチンを1回(または1週間後にもう1回)の内服で有効であることが報告されている。

〈塗り薬〉

イオウ剤、クロタミトンクリーム、安息香酸ベンジルがある。ただし、安息香酸ベンジルを使う際には患者または代諾者の同意が必要になる。

また、 γ -BHCは残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約で入手困難である。現在ピレスロイド系のフェノリン外用薬の治験が開始されたので、数年後に保険適用の外用薬としての使用が期待される。

感染拡大予防のためには患者の早期発見が重要で、疥癬が疑われる場合は早期に皮膚科に検査を依頼すること、さらに一人の患者が見つかった場合、患者の家族や同じところで寝泊りした人など、無症状者にも検査を行うことが必要となる。また、集団発生時は角化型疥癬患者など当該施設の感染源を特定すること、感染の機会があった入所者・スタッフの検査を行うことが必要となる。

通常の疥癬患者とは皮膚の直接接触を避ければ感染の心配はないので、隔離は必要ないが、角化型疥癬患者は短期間個室管理とし、処置をする場合は感染予防に努める。

表2. 疥癬の主な治療薬剤

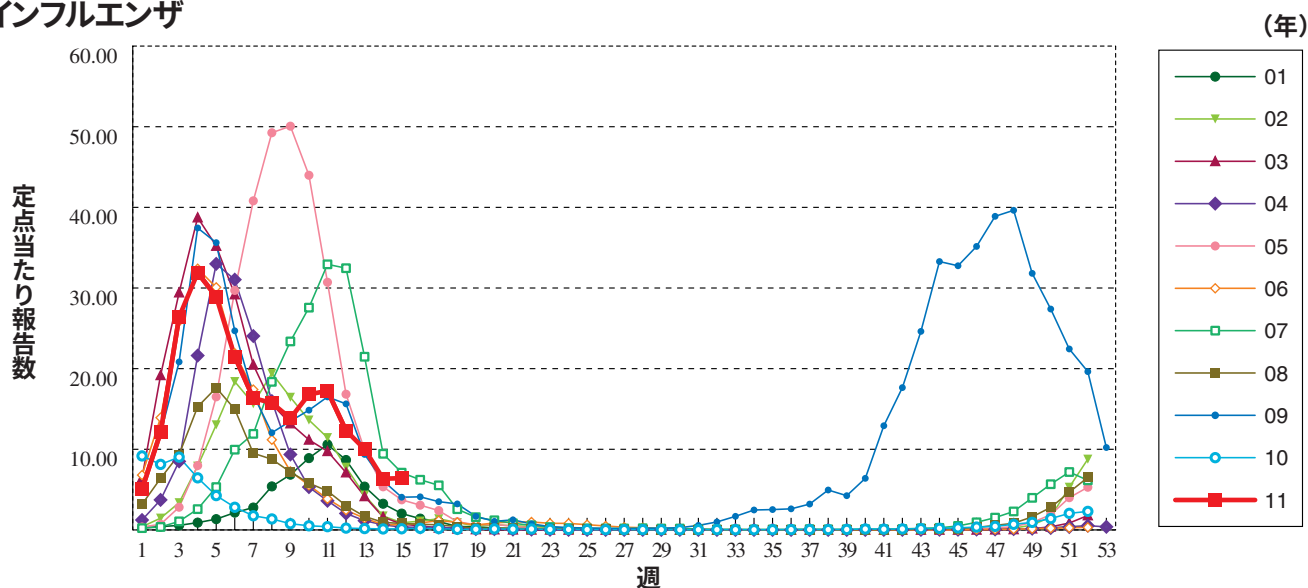
	使用上の注意	一般名	薬理作用	主な副作用
内服	保険適用	イベルメクチン	神経細胞のClチャンネルに主に作用	瘙痒の一過性増悪、AST・ALT・総ビリルビン値上昇、中毒性表皮壊死症など
	保険適用	イオウ 有機イオウ	イオウが表皮で代謝されてダニの増殖を抑制	皮脂欠乏性皮膚炎
外用	適用外使用（保険診療報酬の審査上は容認）	クロタミトン	不明	熱感、刺激症状、接触皮膚炎
	特殊製剤のため患者へのインフォームドコンセントが必要	安息香酸ベンジル (Benzyl Benzoate)	不明	刺激症状、中枢神経障害
		γ-BHC	神経細胞のNaチャンネルに主に作用	中枢神経障害、再生不良性貧血
	日本では未発売	ペルメトリン	神経細胞のNaチャンネルに主に作用	接触皮膚炎
	治験中	フェノトリン	神経細胞のNaチャンネルに主に作用	健常人を対象とした治験では副作用無し

(国立感染症研究所ハンセン病研究センター 石井則久
同昆虫医科学部 小林睦生)

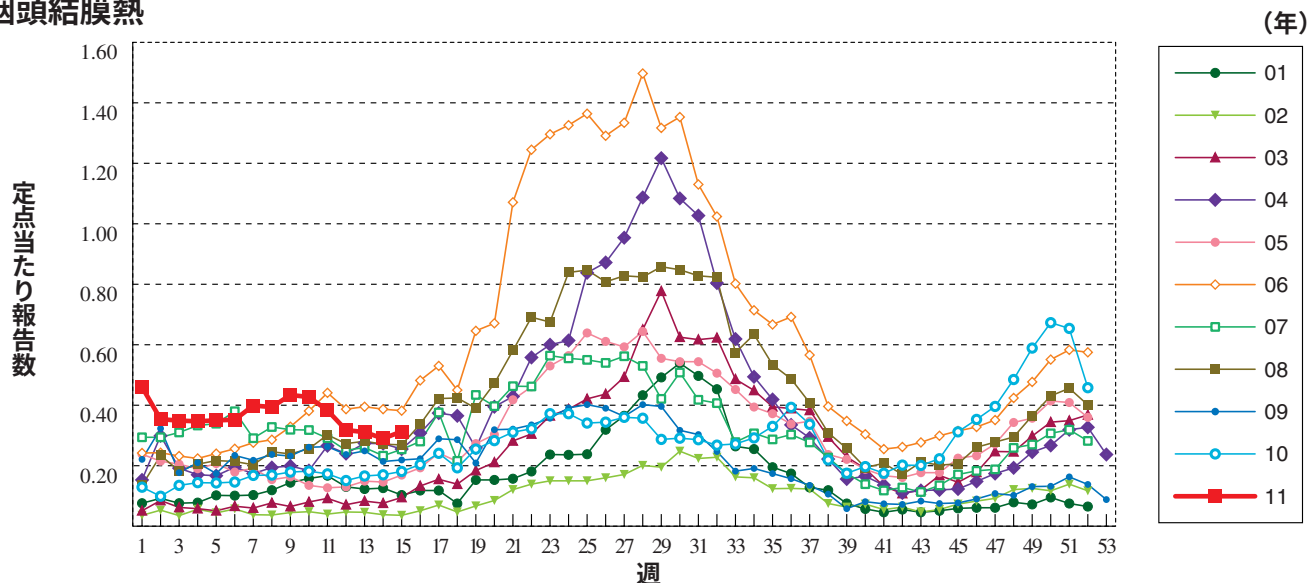


グラフ総覧(15週)

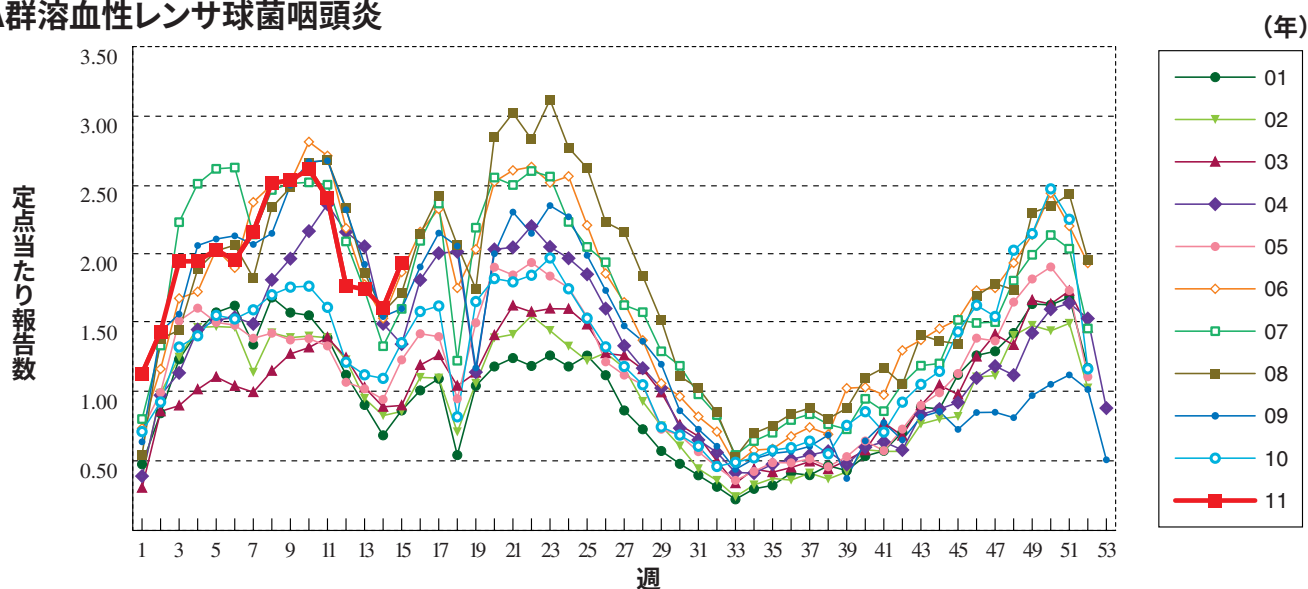
インフルエンザ



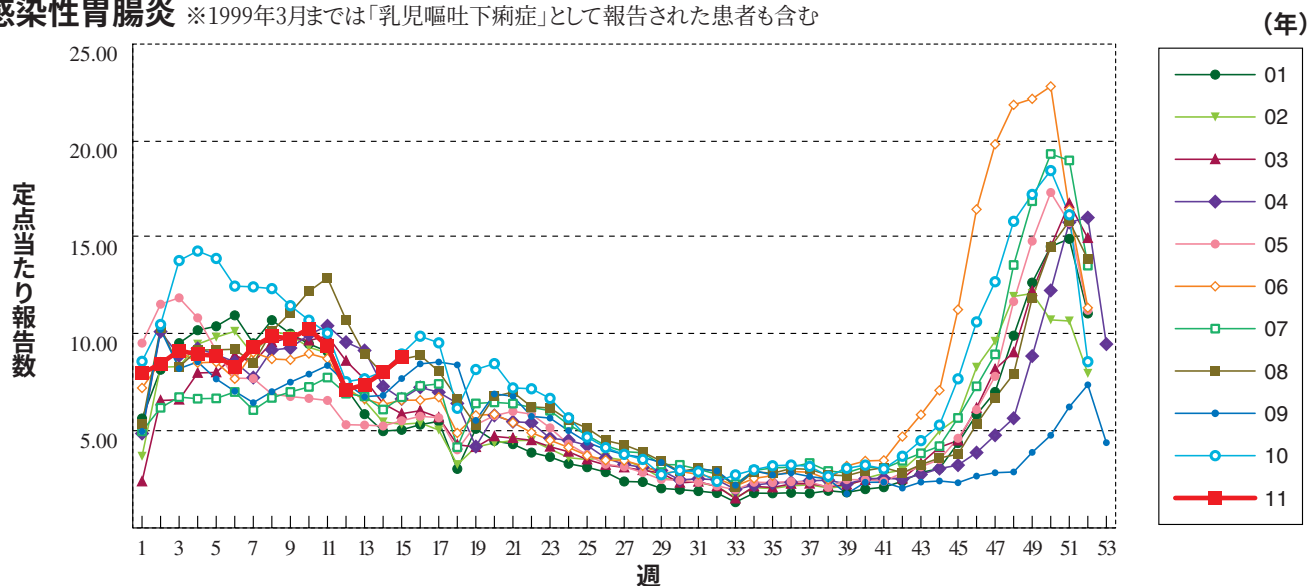
咽頭結膜熱



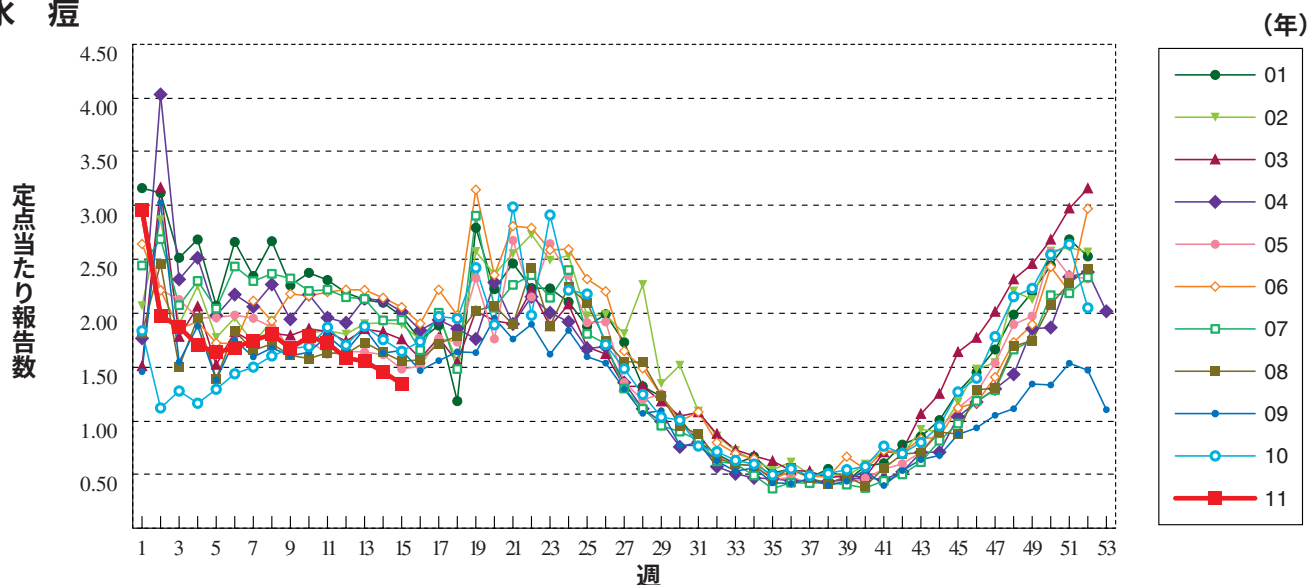
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



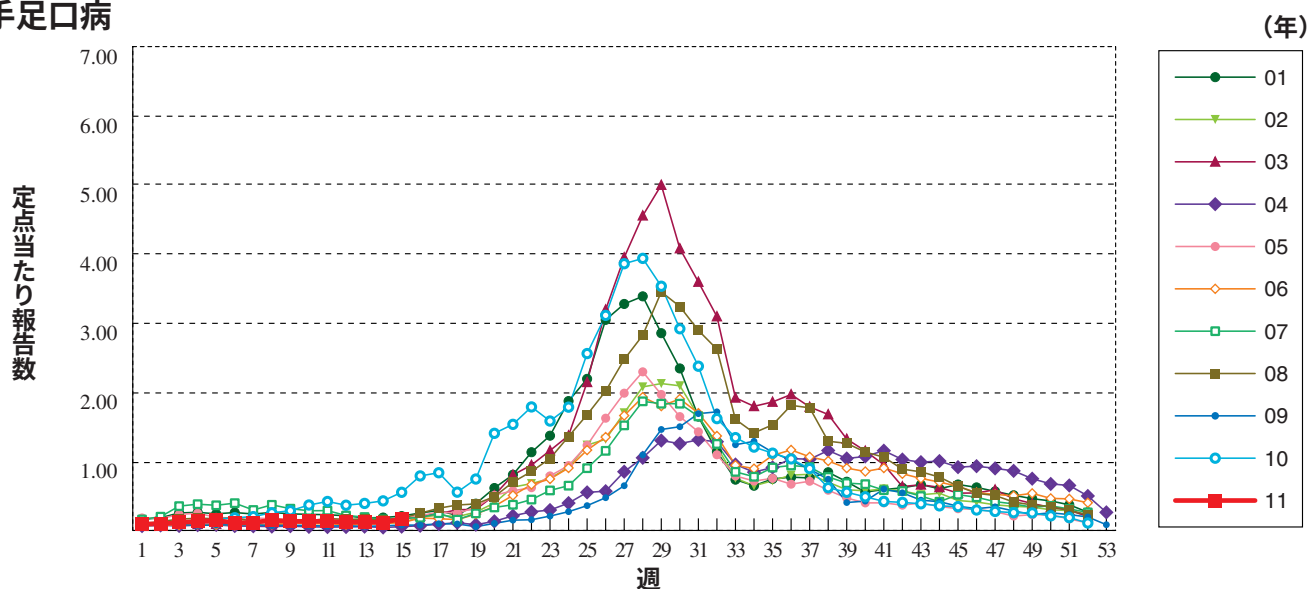
感染性胃腸炎 ※1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



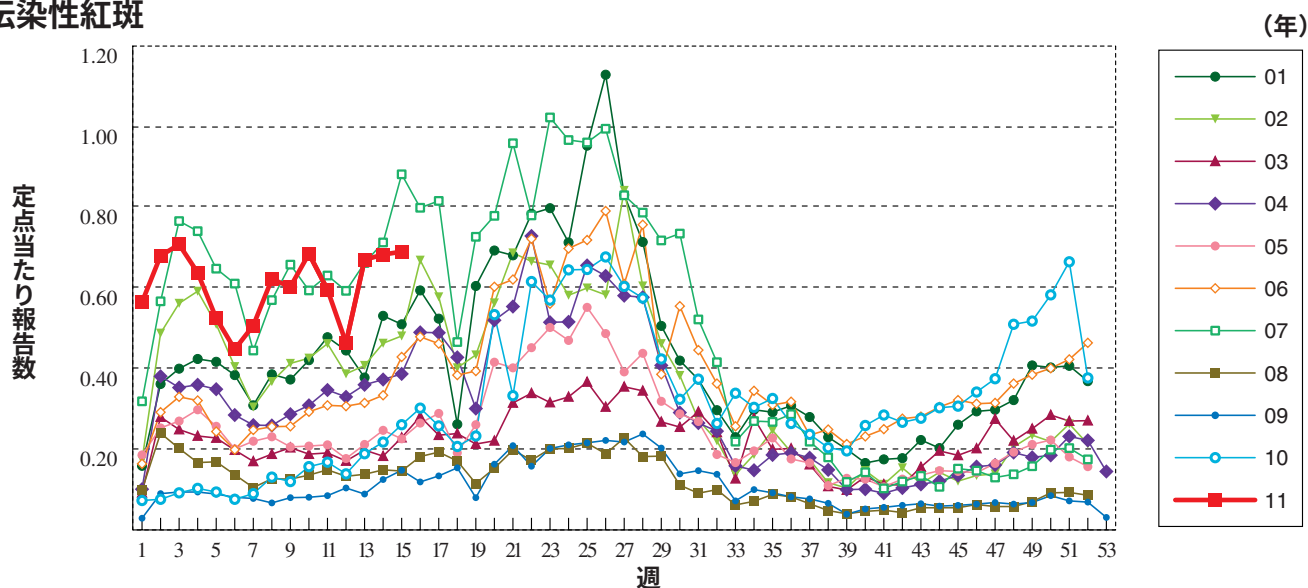
水痘



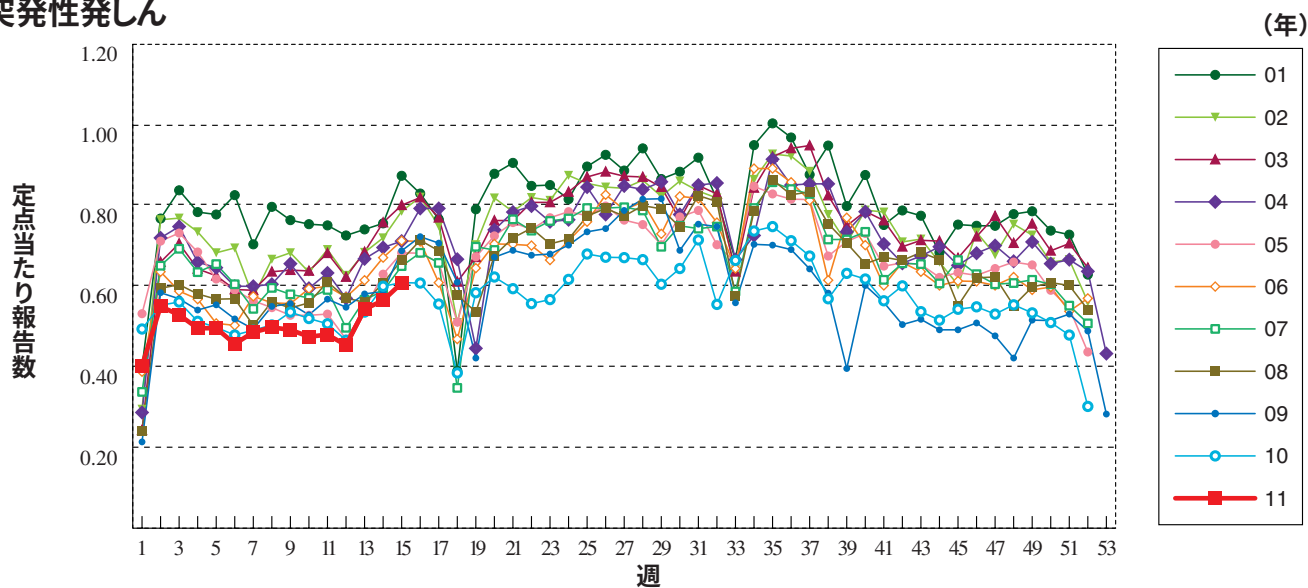
手足口病



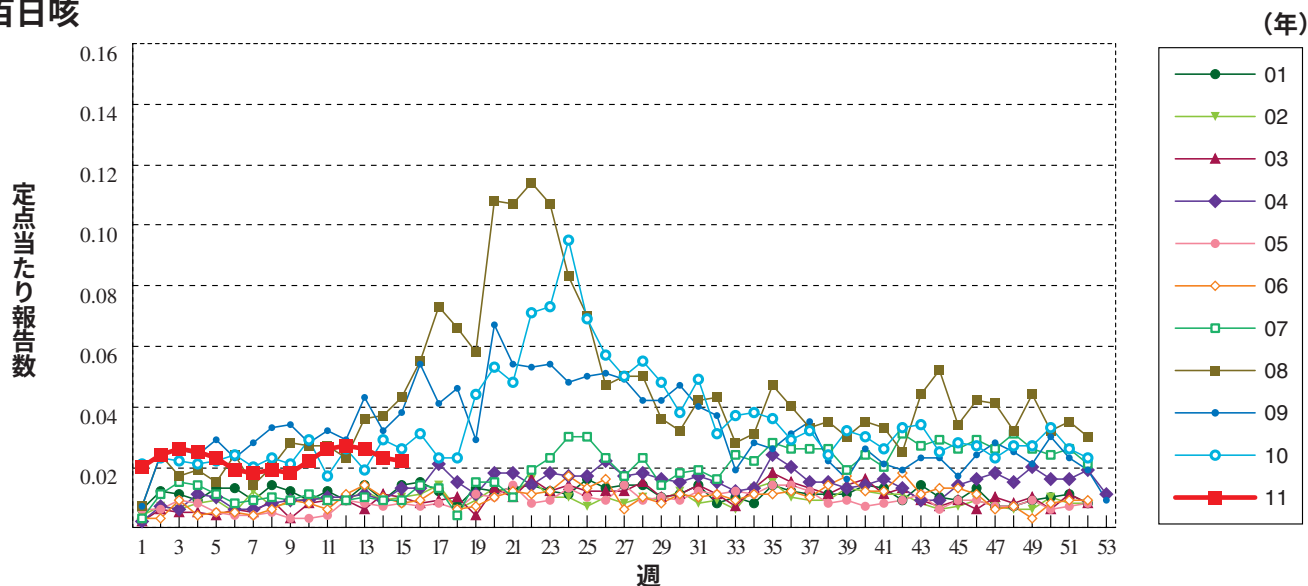
伝染性紅斑



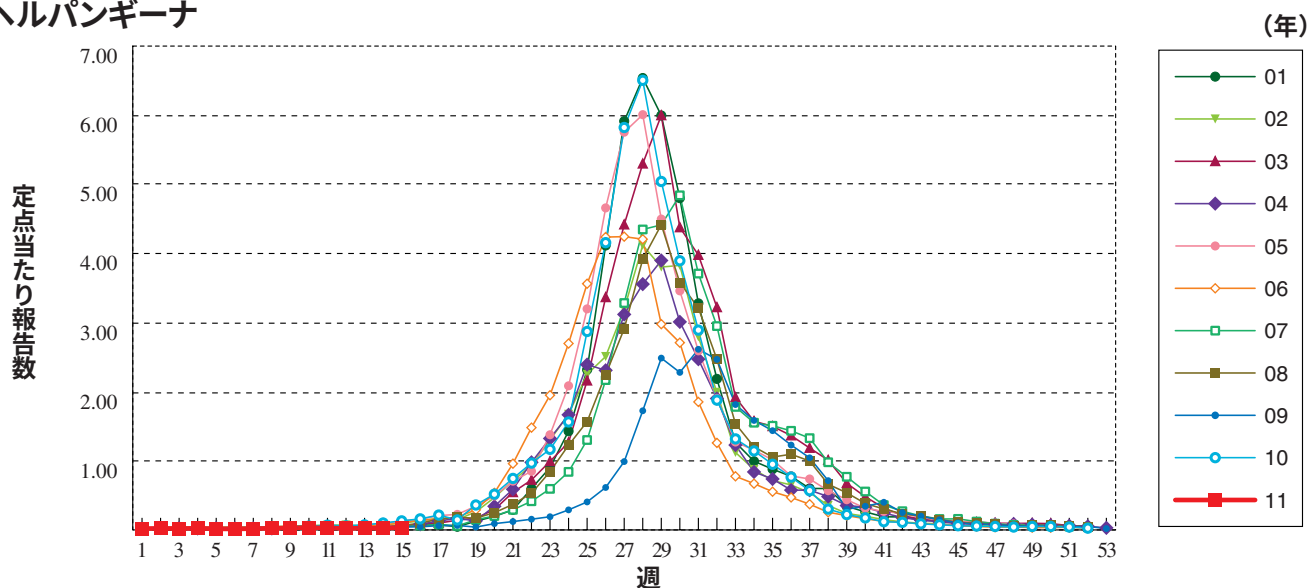
突発性発しん



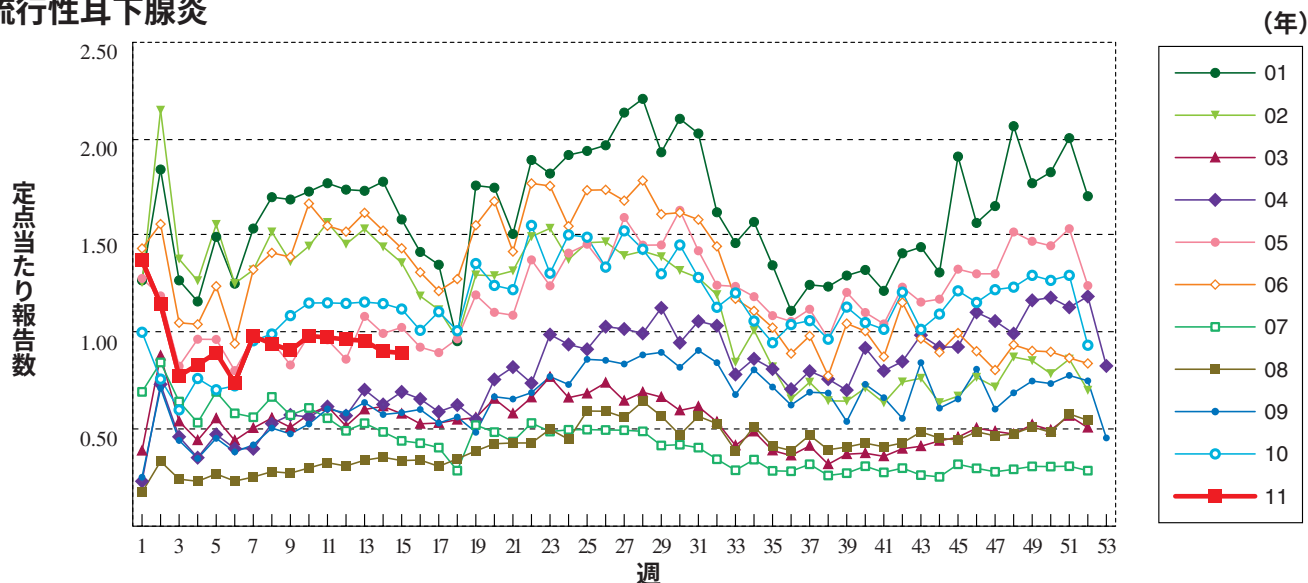
百日咳



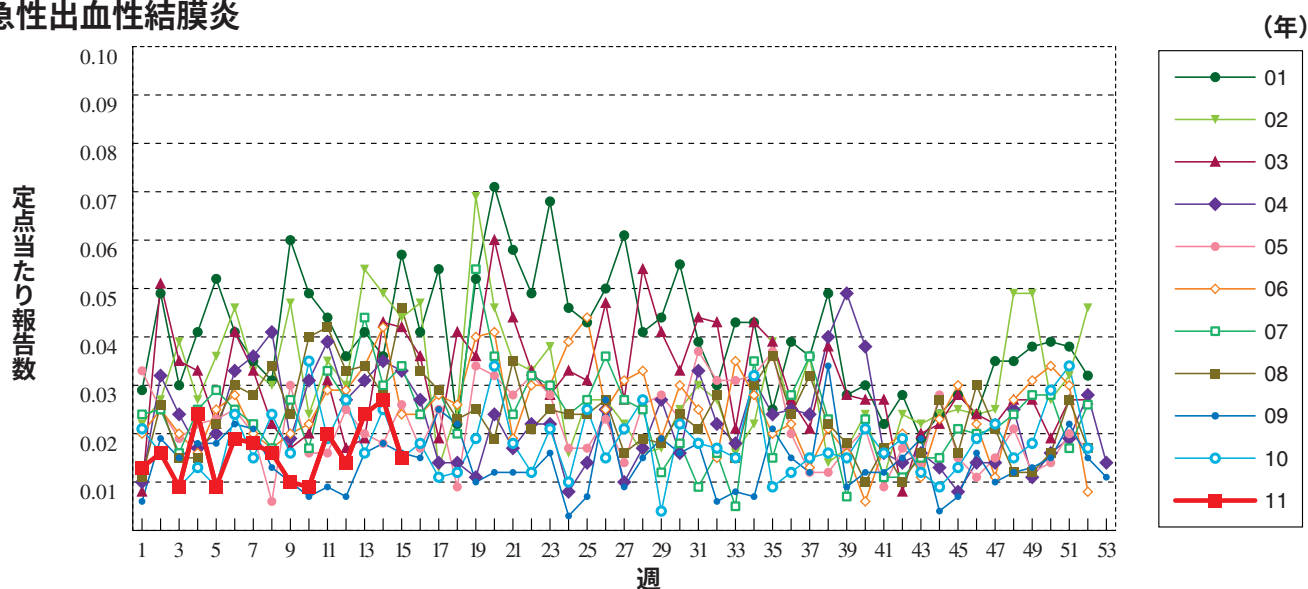
ヘルパンギーナ



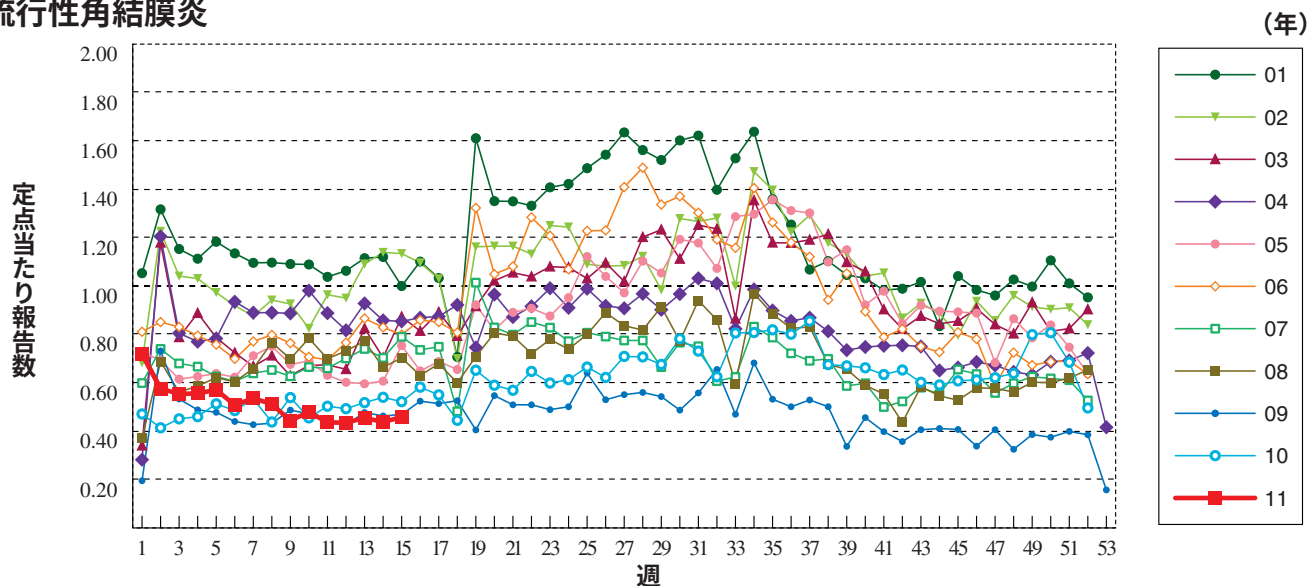
流行性耳下腺炎



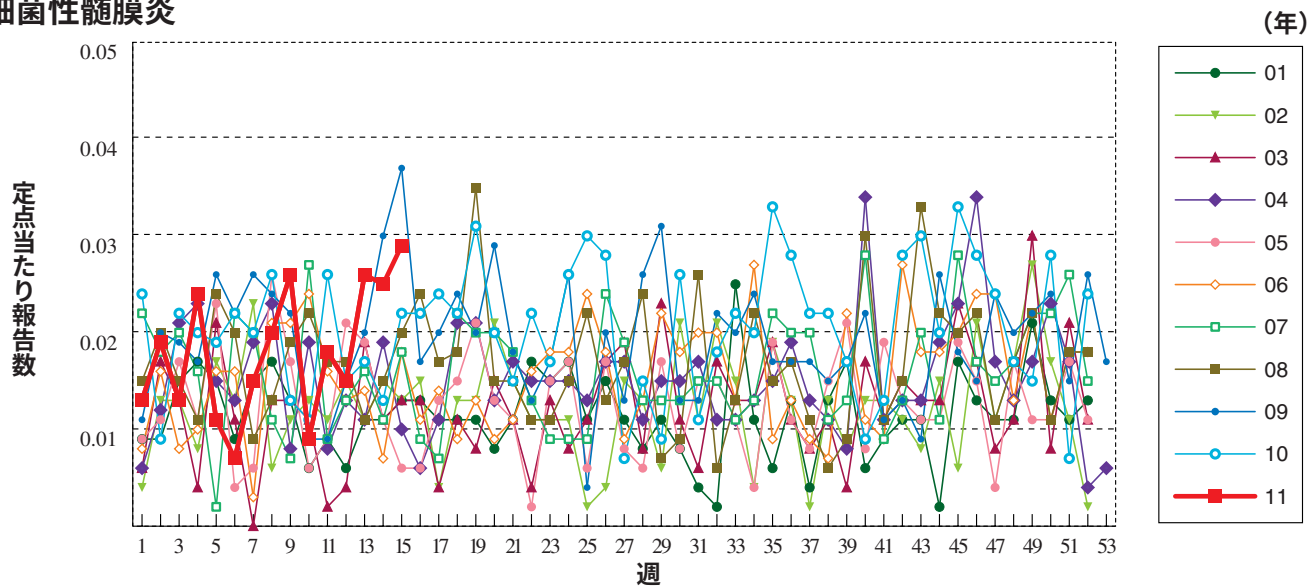
急性出血性結膜炎



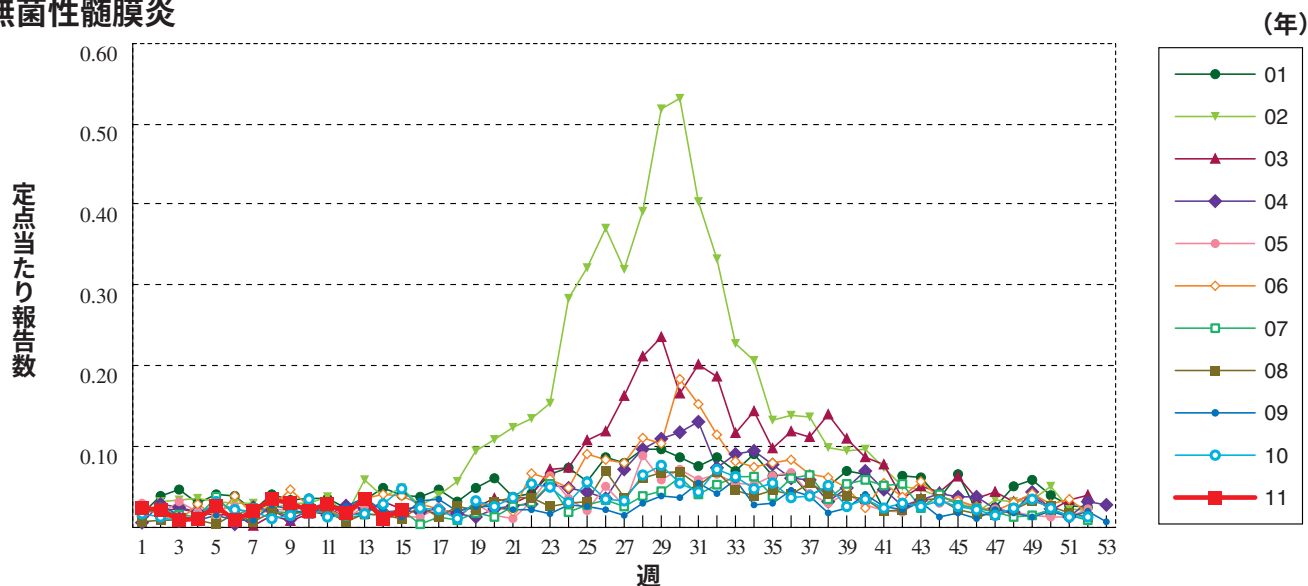
流行性角結膜炎



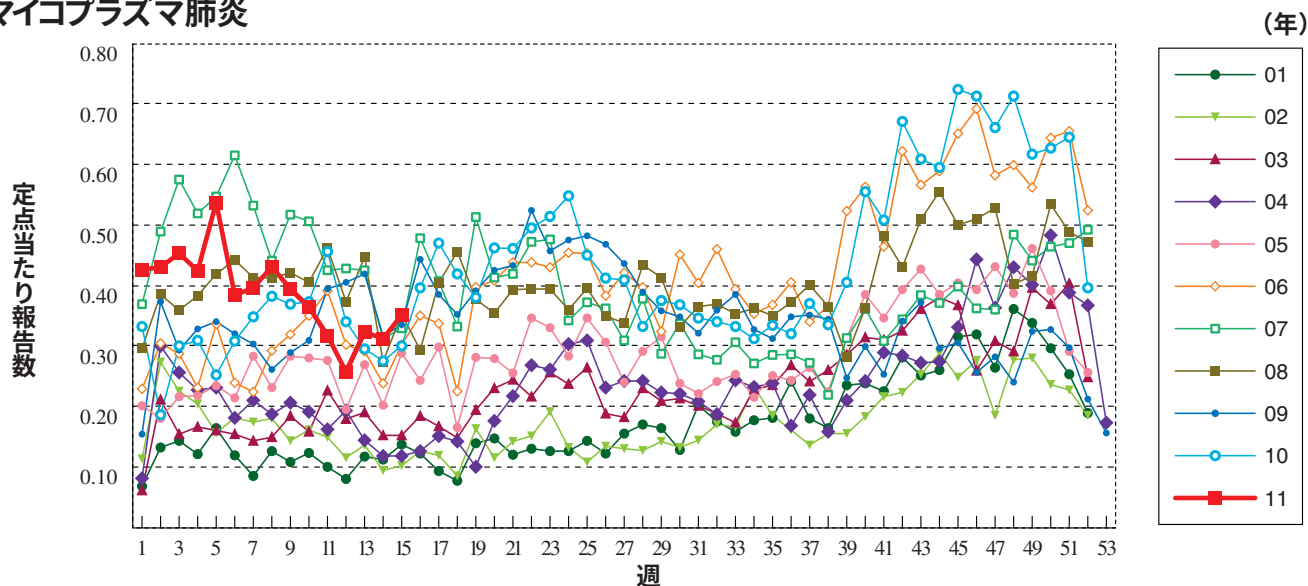
細菌性髄膜炎



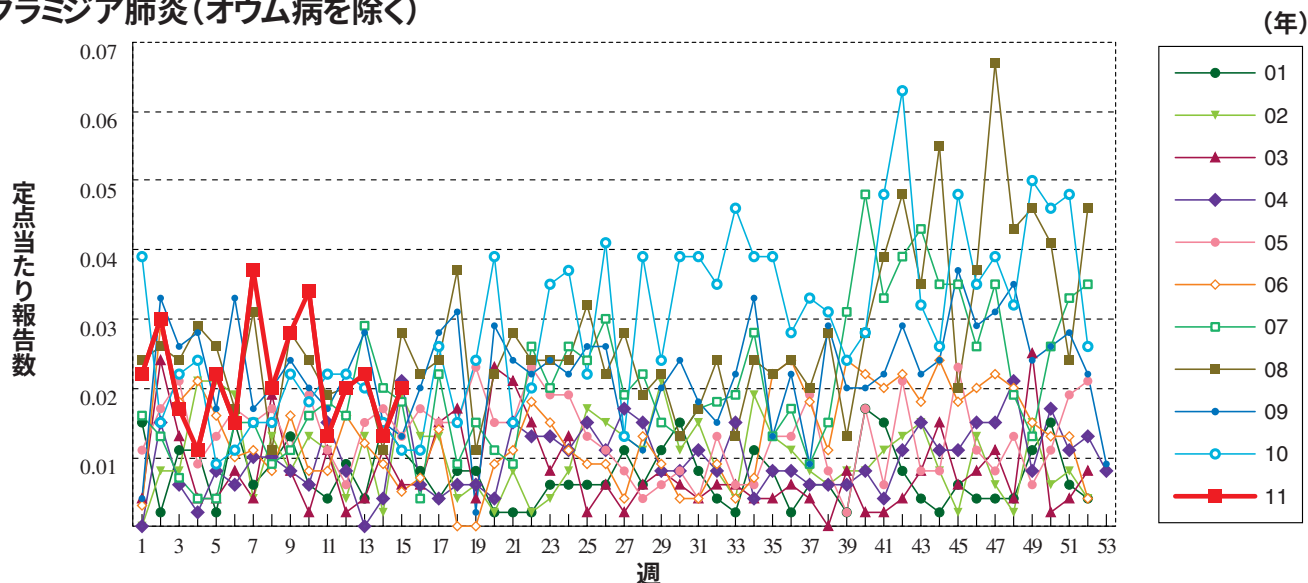
無菌性髄膜炎



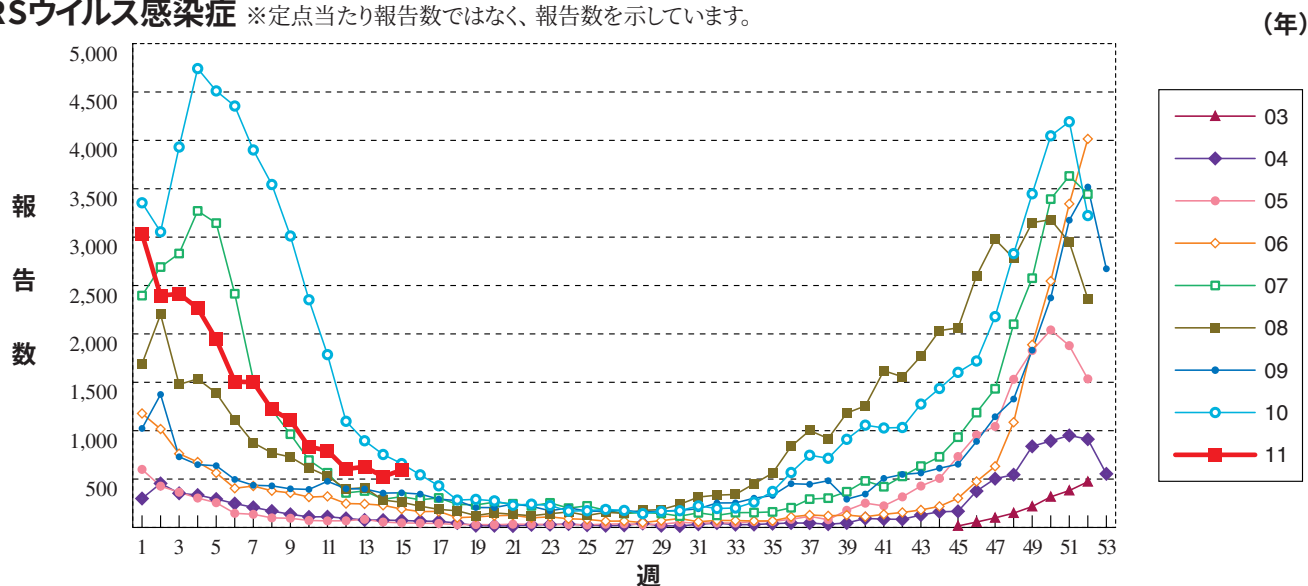
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎(オウム病を除く)



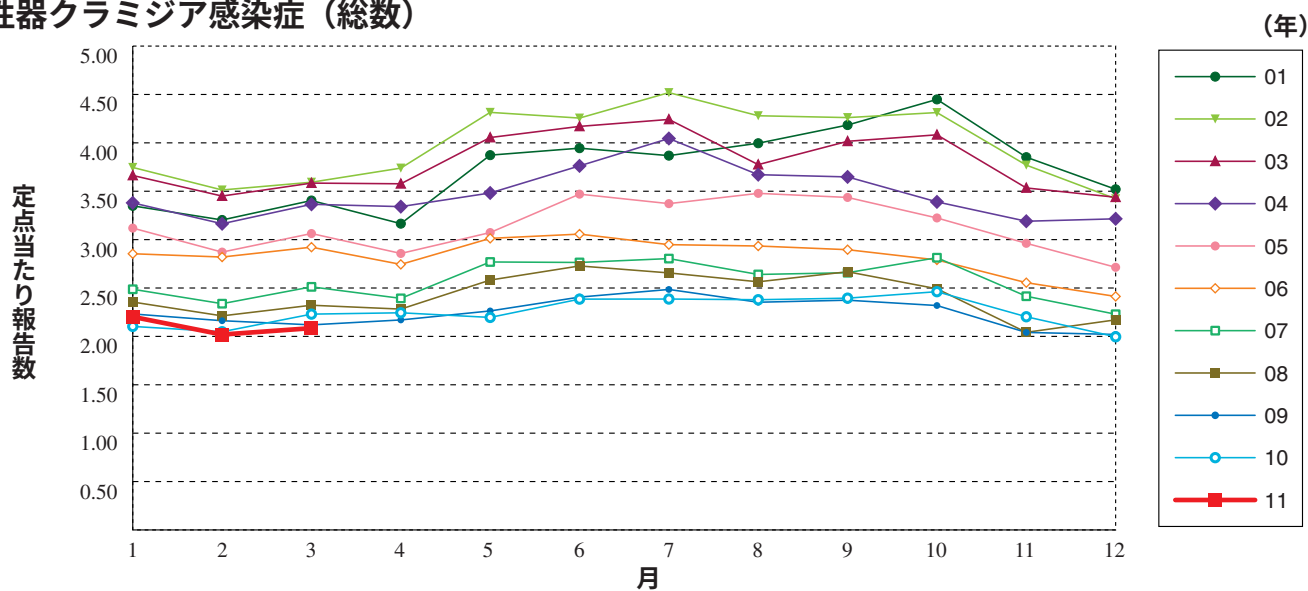
RSウイルス感染症 ※定点当たり報告数ではなく、報告数を示しています。



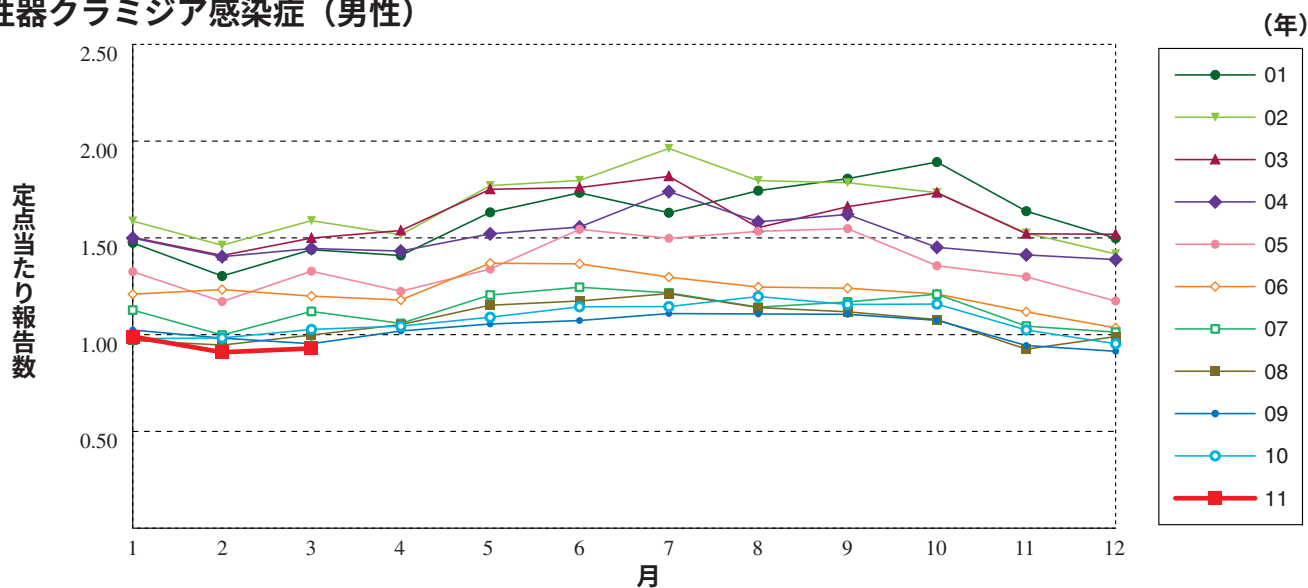


グラフ総覧(3月)

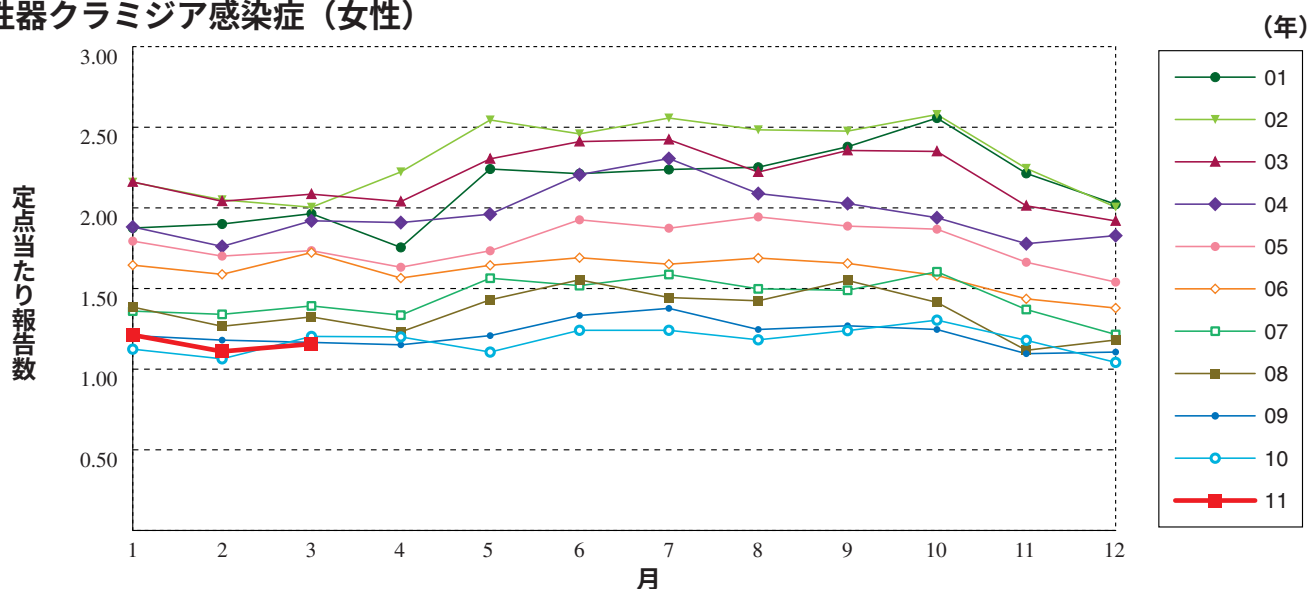
性器クラミジア感染症(総数)



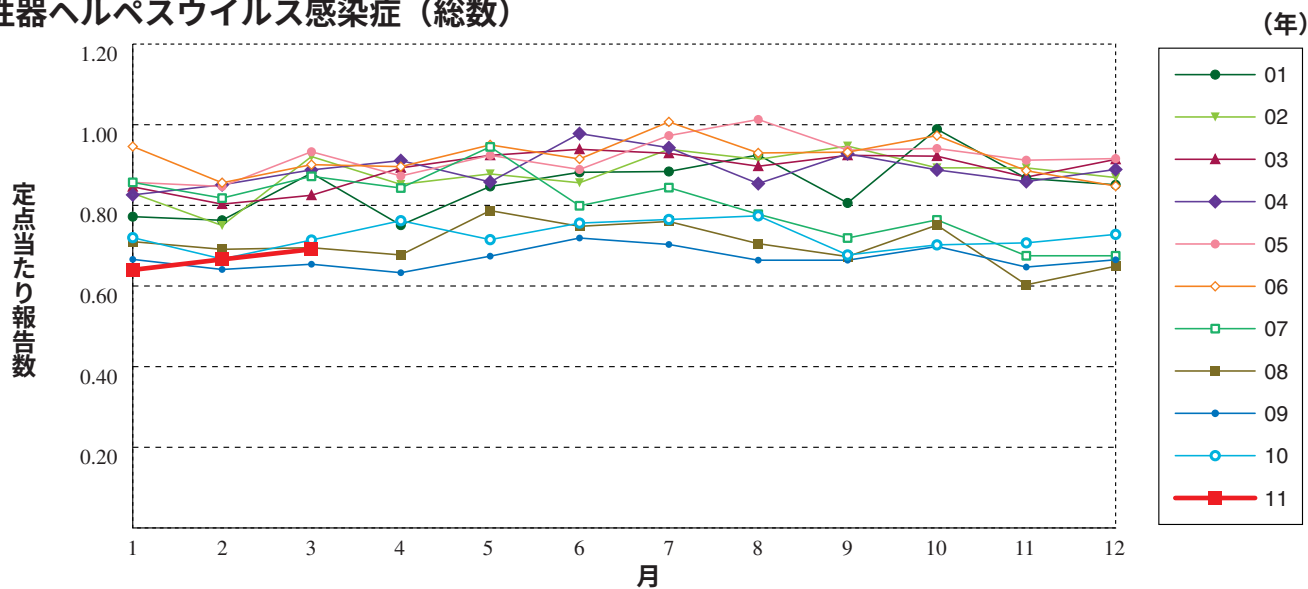
性器クラミジア感染症(男性)



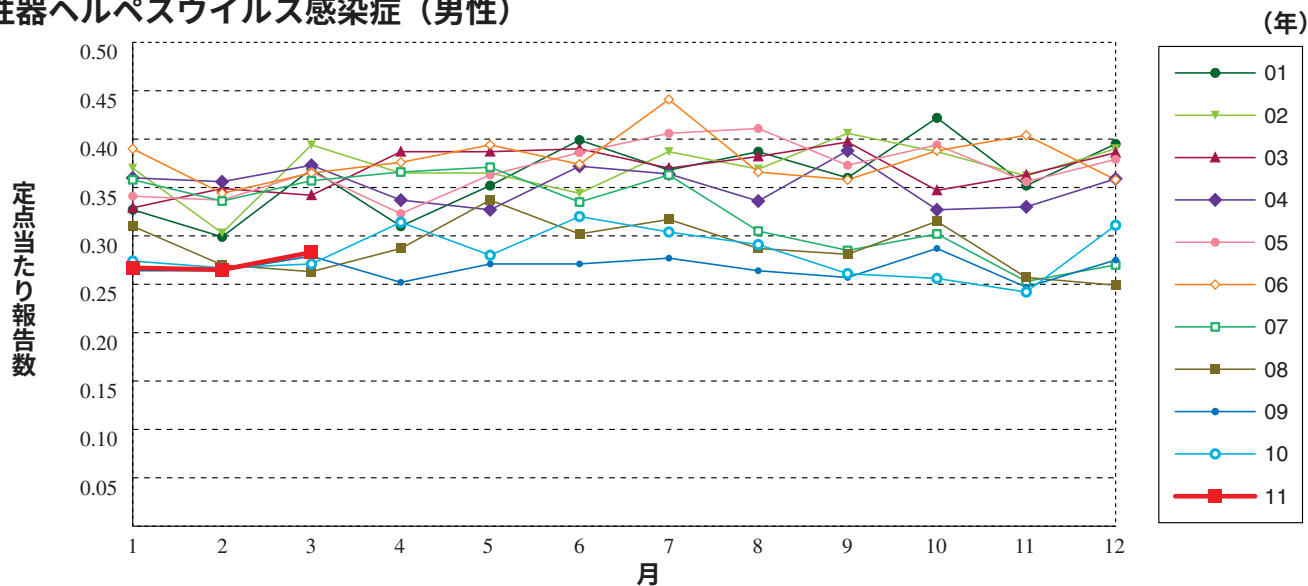
性器クラミジア感染症(女性)



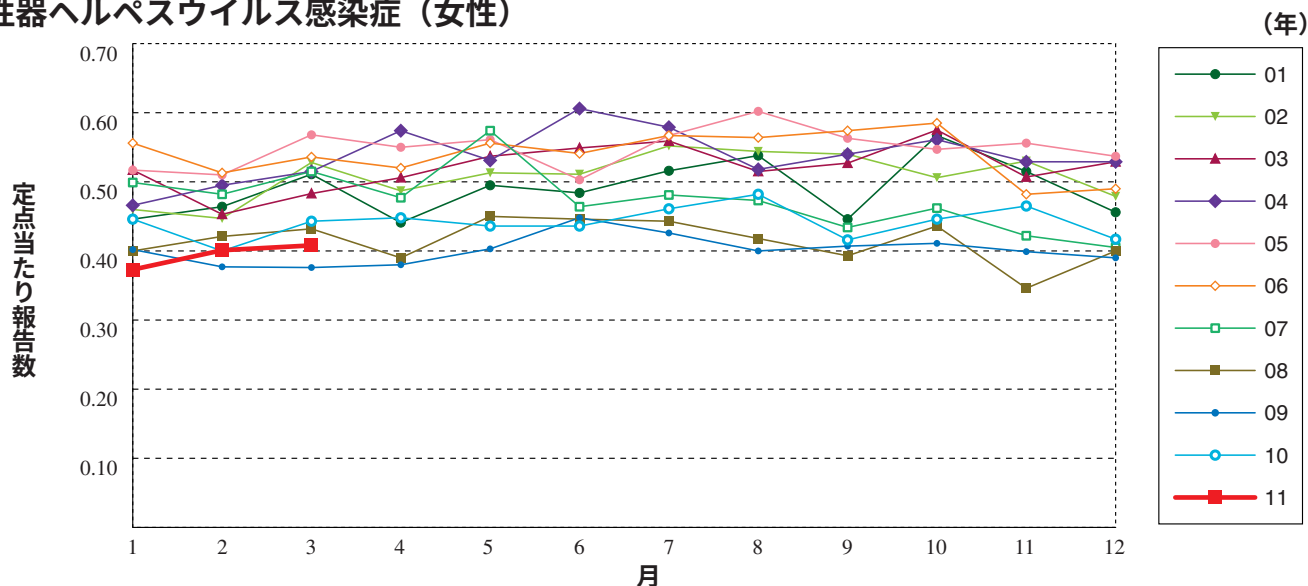
性器ヘルペスウイルス感染症（総数）



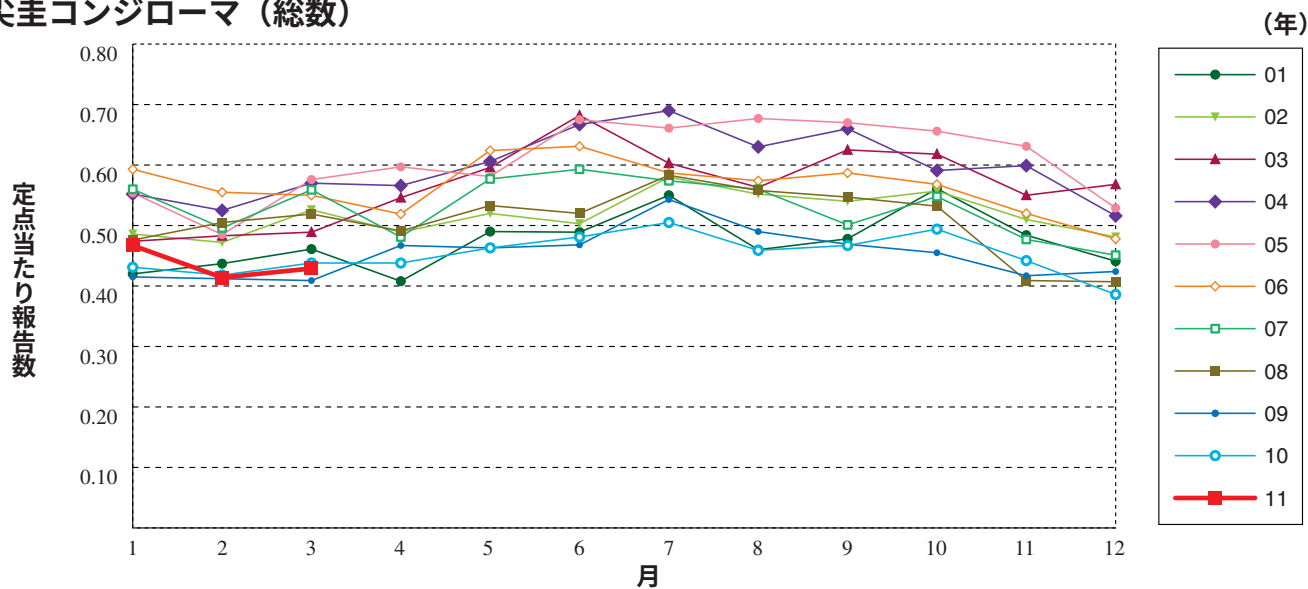
性器ヘルペスウイルス感染症（男性）



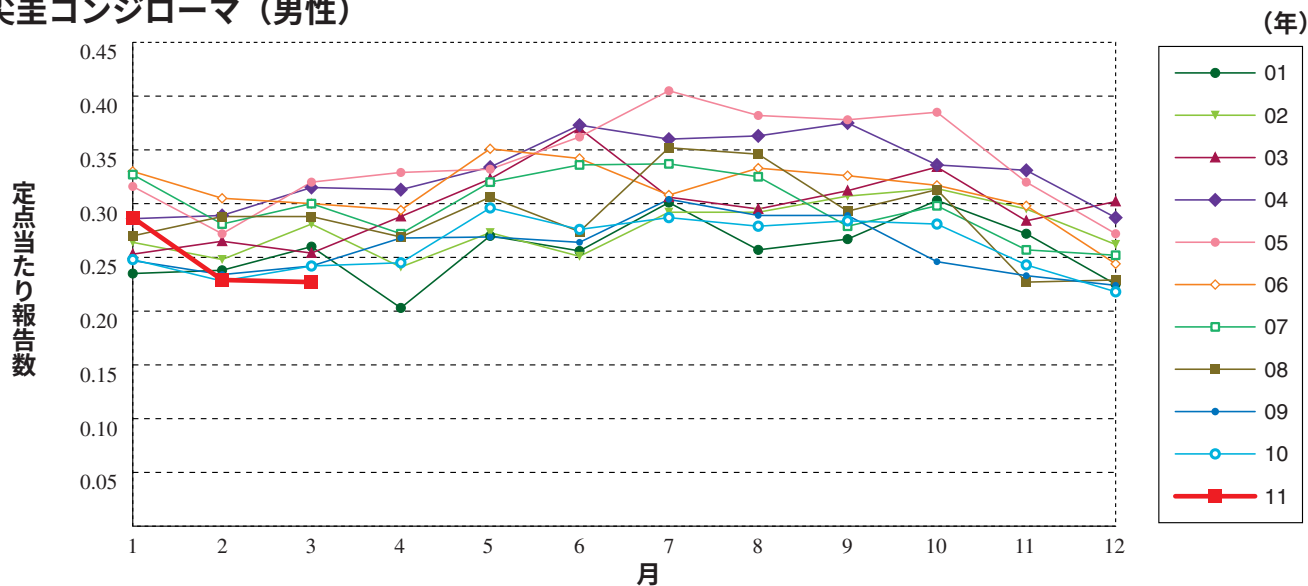
性器ヘルペスウイルス感染症（女性）



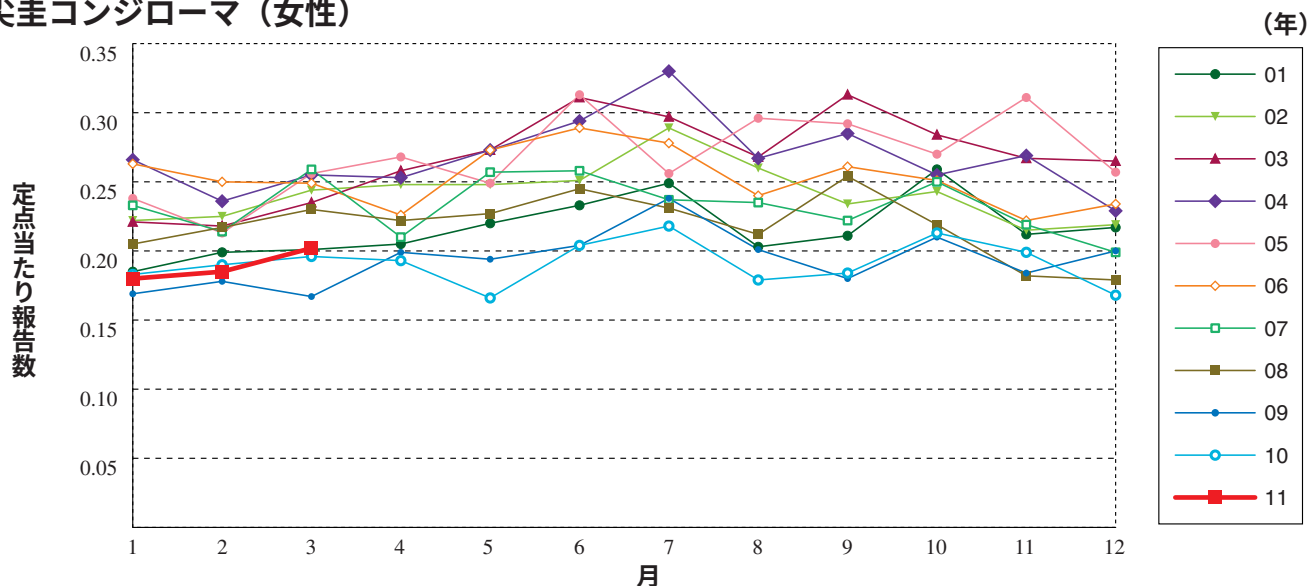
尖圭コンジローマ (総数)



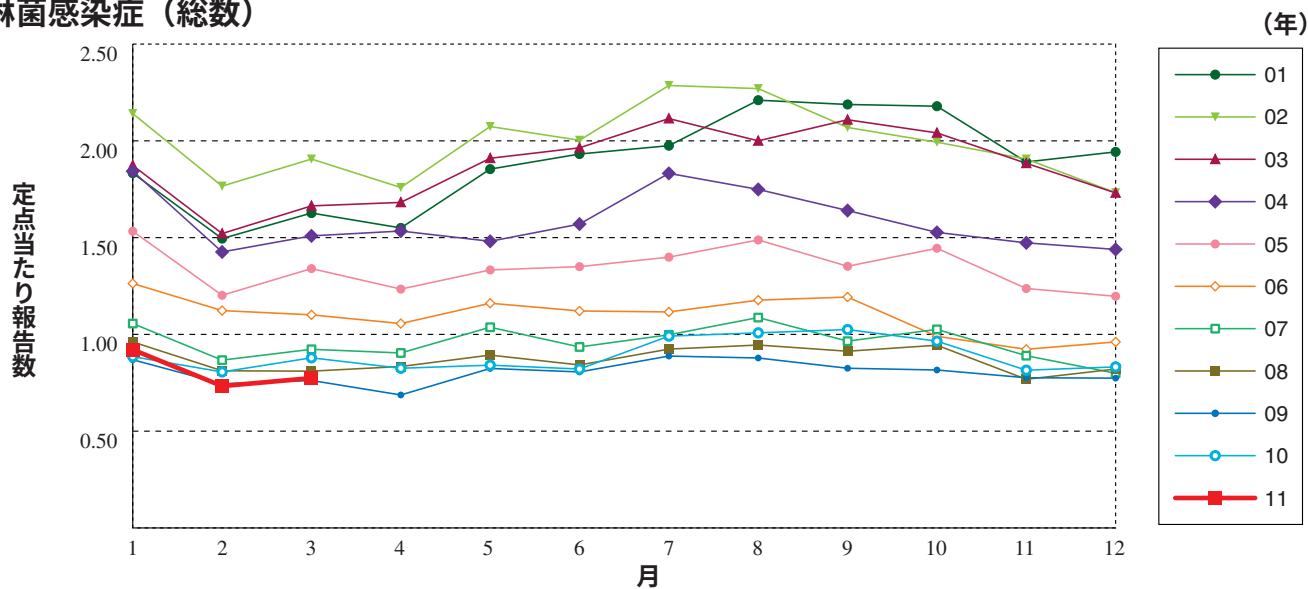
尖圭コンジローマ (男性)



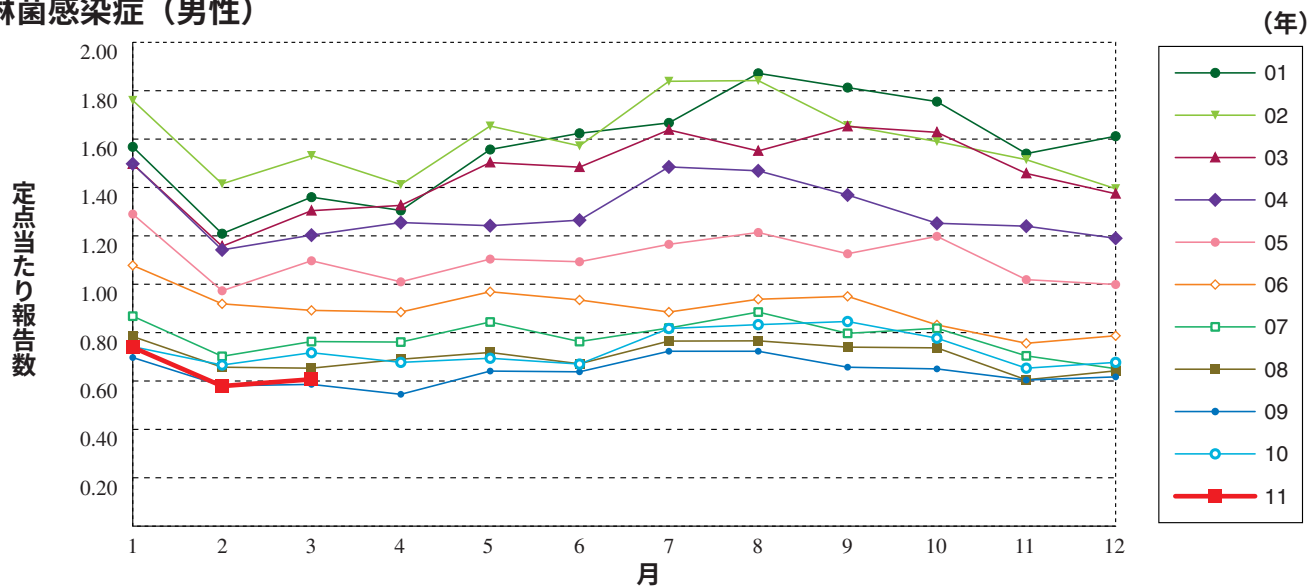
尖圭コンジローマ (女性)



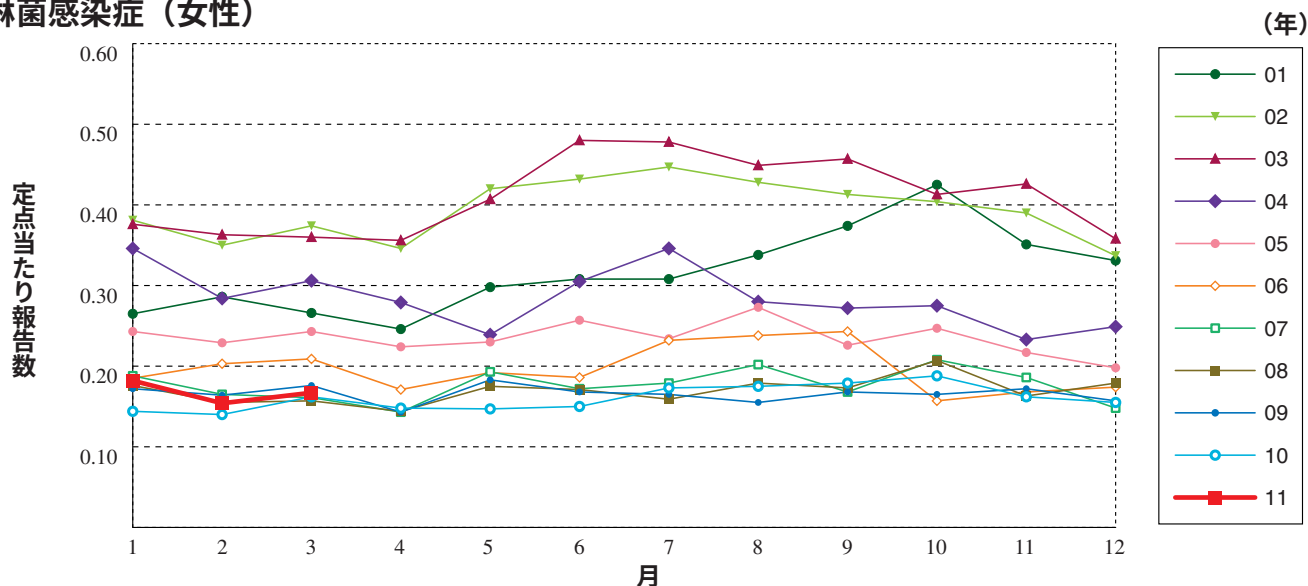
淋菌感染症 (総数)



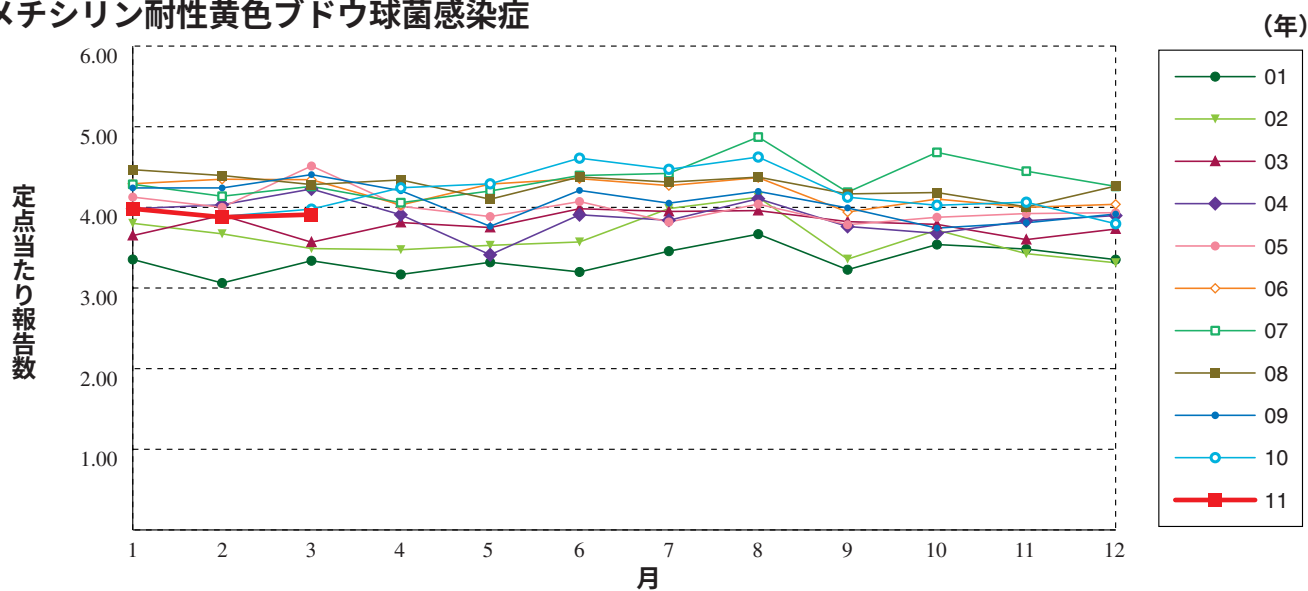
淋菌感染症 (男性)



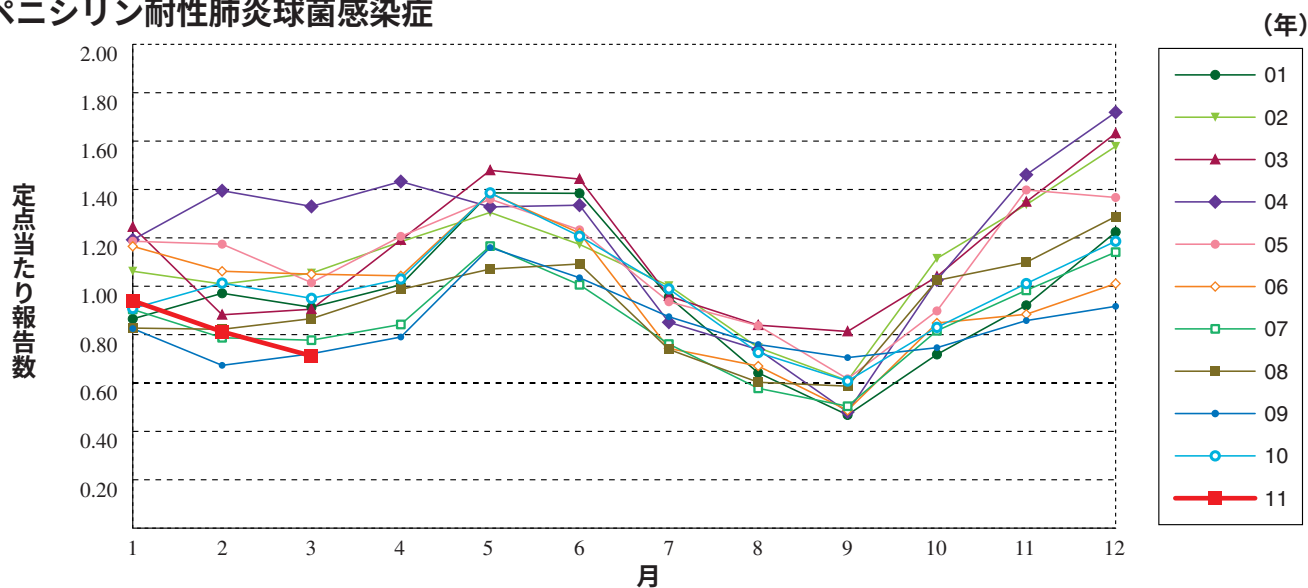
淋菌感染症 (女性)



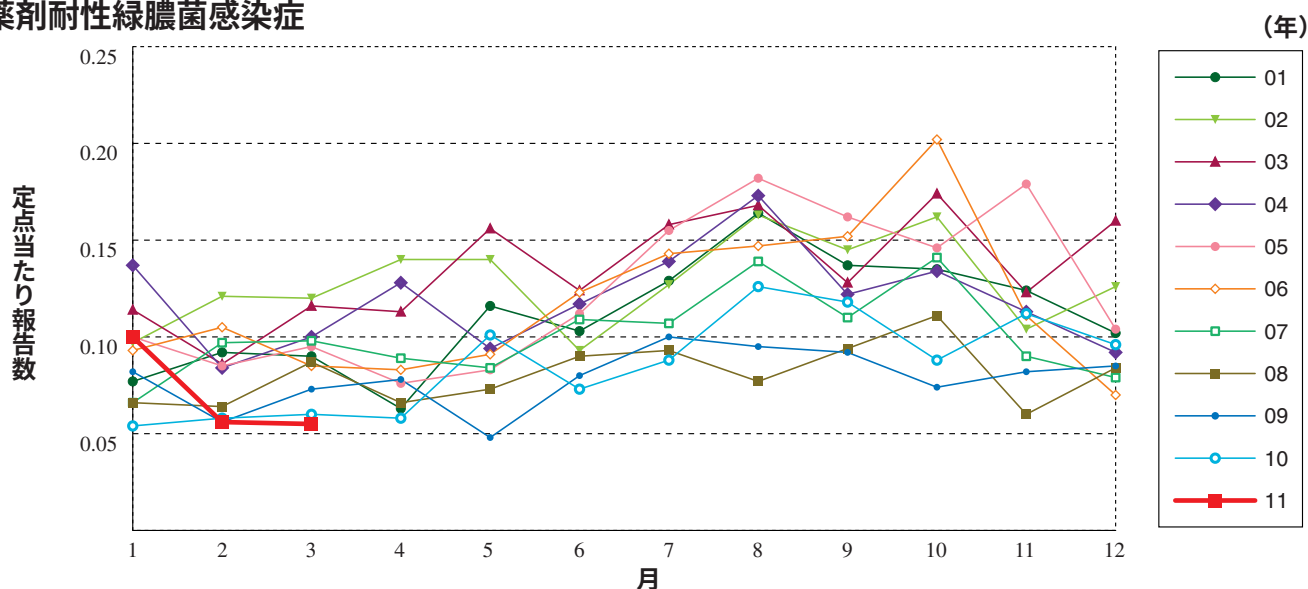
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

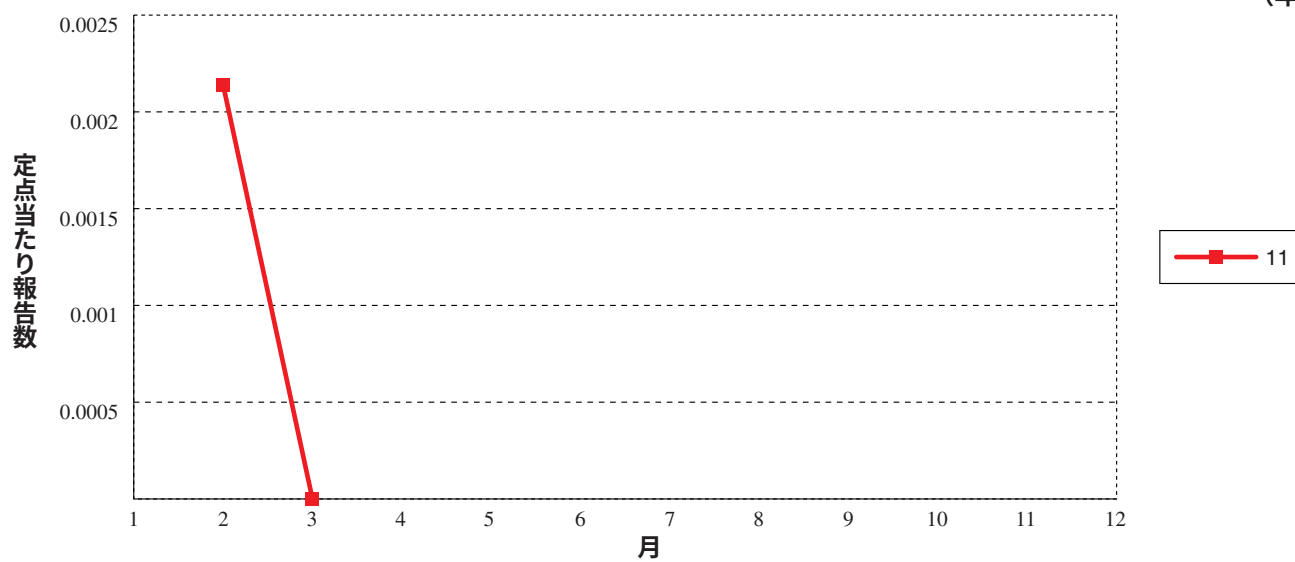


薬剤耐性緑膿菌感染症



薬剤耐性アシネトバクター感染症

(年)





3月のデータ

注) 4月15日集計分

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県・性別 (総数)

2011年3月

	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症		メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		薬剤耐性アシネト バクテリア感染症	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	2010	2.09	666	0.69	414	0.43	746	0.77	1834	3.91	334	0.71	26	0.06	-	-
北海道	151	3.60	27	0.64	24	0.57	40	0.95	76	3.30	10	0.43	-	-	-	-
青森県	43	3.31	5	0.38	5	0.38	13	1.00	8	1.33	-	-	-	-	-	-
岩手県	17	1.13	6	0.40	7	0.47	13	0.87	71	3.74	13	0.68	1	0.05	-	-
宮城県	28	1.56	10	0.56	8	0.44	10	0.56	27	2.25	5	0.42	-	-	-	-
秋田県	21	1.50	12	0.86	7	0.50	8	0.57	27	3.38	3	0.38	-	-	-	-
山形県	10	1.00	9	0.90	4	0.40	3	0.30	12	1.20	8	0.80	-	-	-	-
福島県	39	2.79	8	0.57	8	0.57	9	0.64	47	7.83	4	0.67	1	0.17	-	-
茨城県	62	2.82	8	0.36	6	0.27	13	0.59	32	2.46	-	-	-	-	-	-
栃木県	25	1.47	14	0.82	14	0.82	14	0.82	44	6.29	6	0.86	-	-	-	-
群馬県	67	2.79	14	0.58	2	0.08	10	0.42	21	2.63	3	0.38	2	0.25	-	-
埼玉県	101	1.84	38	0.69	22	0.40	43	0.78	26	2.89	13	1.44	-	-	-	-
千葉県	61	1.53	19	0.48	10	0.25	22	0.55	39	4.33	24	2.67	-	-	-	-
東京都	188	3.42	102	1.85	63	1.15	101	1.84	87	3.63	47	1.96	2	0.08	-	-
神奈川県	91	1.60	31	0.54	15	0.26	30	0.53	19	1.90	4	0.40	1	0.10	-	-
新潟県	17	1.21	4	0.29	1	0.07	12	0.86	84	6.46	24	1.85	3	0.23	-	-
富山県	14	1.40	3	0.30	3	0.30	7	0.70	9	1.80	2	0.40	-	-	-	-
石川県	19	1.90	4	0.40	3	0.30	4	0.40	23	4.60	1	0.20	1	0.20	-	-
福井県	4	0.80	2	0.40	-	-	2	0.40	18	3.00	24	4.00	-	-	-	-
山梨県	10	1.11	11	1.22	4	0.44	1	0.11	12	1.20	2	0.20	1	0.10	-	-
長野県	24	1.60	6	0.40	2	0.13	11	0.73	24	2.18	9	0.82	-	-	-	-
岐阜県	26	1.73	5	0.33	8	0.53	15	1.00	35	7.00	-	-	-	-	-	-
静岡県	51	1.70	9	0.30	6	0.20	13	0.43	69	6.90	8	0.80	-	-	-	-
愛知県	143	2.23	65	1.02	27	0.42	64	1.00	117	7.31	11	0.69	-	-	-	-
三重県	12	0.80	5	0.33	4	0.27	2	0.13	31	3.44	3	0.33	-	-	-	-
滋賀県	5	0.56	4	0.44	1	0.11	2	0.22	68	9.71	-	-	-	-	-	-
京都府	37	1.61	7	0.30	2	0.09	5	0.22	6	0.86	-	-	-	-	-	-
大阪府	180	2.77	54	0.83	37	0.57	66	1.02	68	4.53	23	1.53	-	-	-	-
兵庫県	63	1.37	18	0.39	18	0.39	23	0.50	33	2.75	-	-	-	-	-	-
奈良県	5	0.56	5	0.56	2	0.22	5	0.56	18	3.00	4	0.67	1	0.17	-	-
和歌山県	7	0.88	7	0.88	4	0.50	3	0.38	18	1.64	1	0.09	-	-	-	-
鳥取県	37	5.29	13	1.86	1	0.14	19	2.71	37	7.40	2	0.40	3	0.60	-	-
島根県	15	2.50	-	-	4	0.67	5	0.83	35	4.38	4	0.50	-	-	-	-
岡山県	30	1.67	6	0.33	5	0.28	7	0.39	10	2.00	-	-	-	-	-	-
広島県	53	2.41	23	1.05	7	0.32	20	0.91	103	4.90	19	0.90	-	-	-	-
山口県	21	1.75	4	0.33	6	0.50	6	0.50	59	6.56	8	0.89	1	0.11	-	-
徳島県	14	2.33	5	0.83	2	0.33	1	0.17	33	5.50	1	0.17	-	-	-	-
香川県	20	1.33	12	0.80	12	0.80	9	0.60	13	2.60	1	0.20	-	-	-	-
愛媛県	7	0.64	9	0.82	5	0.45	3	0.27	16	2.67	-	-	1	0.17	-	-
高知県	2	0.33	-	-	2	0.33	2	0.33	26	3.71	2	0.29	-	-	-	-
福岡県	142	3.84	34	0.92	23	0.62	52	1.41	52	3.47	13	0.87	-	-	-	-
佐賀県	10	1.43	1	0.14	1	0.14	9	1.29	16	2.67	3	0.50	-	-	-	-
長崎県	15	1.50	4	0.40	1	0.10	9	0.90	45	3.75	8	0.67	1	0.08	-	-
熊本県	40	3.08	11	0.85	11	0.85	8	0.62	69	4.60	5	0.33	-	-	-	-
大分県	20	2.00	5	0.50	3	0.30	8	0.80	38	3.45	9	0.82	3	0.27	-	-
宮崎県	25	1.92	6	0.46	2	0.15	8	0.62	29	4.14	7	1.00	3	0.43	-	-
鹿児島県	23	1.44	16	1.00	5	0.31	14	0.88	24	2.00	-	-	1	0.08	-	-
沖縄県	15	1.25	5	0.42	7	0.58	2	0.17	60	8.57	-	-	-	-	-	-

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県・性別 (男)

2011年3月

	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症		メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		薬剤耐性アシネト バクテリア感染症	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	896	0.93	273	0.28	219	0.23	585	0.61	1165	2.48	192	0.41	19	0.04	-	-
北海道	30	0.71	8	0.19	13	0.31	11	0.26	46	2.00	7	0.30	-	-	-	-
青森県	15	1.15	1	0.08	1	0.08	12	0.92	4	0.67	-	-	-	-	-	-
岩手県	7	0.47	2	0.13	4	0.27	12	0.80	47	2.47	8	0.42	1	0.05	-	-
宮城県	16	0.89	2	0.11	5	0.28	9	0.50	14	1.17	3	0.25	-	-	-	-
秋田県	12	0.86	6	0.43	5	0.36	8	0.57	17	2.13	3	0.38	-	-	-	-
山形県	2	0.20	2	0.20	1	0.10	3	0.30	9	0.90	4	0.40	-	-	-	-
福島県	18	1.29	4	0.29	3	0.21	9	0.64	31	5.17	3	0.50	1	0.17	-	-
茨城県	27	1.23	1	0.05	2	0.09	7	0.32	20	1.54	-	-	-	-	-	-
栃木県	15	0.88	6	0.35	9	0.53	13	0.76	25	3.57	2	0.29	-	-	-	-
群馬県	40	1.67	1	0.04	-	-	8	0.33	16	2.00	1	0.13	2	0.25	-	-
埼玉県	40	0.73	9	0.16	8	0.15	30	0.55	18	2.00	5	0.56	-	-	-	-
千葉県	25	0.63	9	0.23	7	0.18	18	0.45	26	2.89	14	1.56	-	-	-	-
東京都	111	2.02	63	1.15	43	0.78	87	1.58	63	2.63	27	1.13	1	0.04	-	-
神奈川県	52	0.91	14	0.25	9	0.16	28	0.49	12	1.20	2	0.20	1	0.10	-	-
新潟県	9	0.64	2	0.14	1	0.07	11	0.79	56	4.31	19	1.46	2	0.15	-	-
富山県	5	0.50	-	-	3	0.30	5	0.50	4	0.80	1	0.20	-	-	-	-
石川県	7	0.70	1	0.10	2	0.20	4	0.40	14	2.80	1	0.20	1	0.20	-	-
福井県	-	-	2	0.40	-	-	1	0.20	14	2.33	14	2.33	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	1	0.11	8	0.80	2	0.20	-	-	-	-
長野県	9	0.60	1	0.07	1	0.07	9	0.60	15	1.36	6	0.55	-	-	-	-
岐阜県	18	1.20	4	0.27	6	0.40	13	0.87	27	5.40	-	-	-	-	-	-
静岡県	19	0.63	4	0.13	2	0.07	9	0.30	19	1.90	-	-	-	-	-	-
愛知県	75	1.17	18	0.28	17	0.27	53	0.83	77	4.81	7	0.44	-	-	-	-
三重県	6	0.40	2	0.13	1	0.07	2	0.13	18	2.00	2	0.22	-	-	-	-
滋賀県	3	0.33	1	0.11	-	-	2	0.22	40	5.71	-	-	-	-	-	-
京都府	7	0.30	-	-	1	0.04	3	0.13	4	0.57	-	-	-	-	-	-
大阪府	55	0.85	28	0.43	16	0.25	49	0.75	49	3.27	15	1.00	-	-	-	-
兵庫県	30	0.65	7	0.15	16	0.35	19	0.41	18	1.50	-	-	-	-	-	-
奈良県	4	0.44	5	0.56	-	-	5	0.56	12	2.00	-	-	-	-	-	-
和歌山県	2	0.25	4	0.50	3	0.38	3	0.38	12	1.09	-	-	-	-	-	-
鳥取県	23	3.29	10	1.43	-	-	15	2.14	20	4.00	2	0.40	1	0.20	-	-
島根県	7	1.17	-	-	3	0.50	4	0.67	25	3.13	1	0.13	-	-	-	-
岡山県	7	0.39	1	0.06	-	-	3	0.17	5	1.00	-	-	-	-	-	-
広島県	26	1.18	14	0.64	2	0.09	18	0.82	74	3.52	10	0.48	-	-	-	-
山口県	8	0.67	-	-	3	0.25	6	0.50	36	4.00	4	0.44	-	-	-	-
徳島県	14	2.33	4	0.67	2	0.33	1	0.17	23	3.83	1	0.17	-	-	-	-
香川県	6	0.40	6	0.40	5	0.33	7	0.47	5	1.00	1	0.20	-	-	-	-
愛媛県	3	0.27	7	0.64	3	0.27	3	0.27	11	1.83	-	-	1	0.17	-	-
高知県	1	0.17	-	-	-	-	1	0.17	19	2.71	1	0.14	-	-	-	-
福岡県	72	1.95	11	0.30	12	0.32	40	1.08	30	2.00	9	0.60	-	-	-	-
佐賀県	9	1.29	-	-	-	-	9	1.29	13	2.17	2	0.33	-	-	-	-
長崎県	8	0.80	2	0.20	-	-	7	0.70	33	2.75	3	0.25	1	0.08	-	-
熊本県	11	0.85	1	0.08	3	0.23	6	0.46	45	3.00	5	0.33	-	-	-	-
大分県	11	1.10	-	-	2	0.20	4	0.40	20	1.82	3	0.27	3	0.27	-	-
宮崎県	16	1.23	2	0.15	1	0.08	6	0.46	20	2.86	4	0.57	3	0.43	-	-
鹿児島県	12	0.75	5	0.31	2	0.13	10	0.63	15	1.25	-	-	1	0.08	-	-
沖縄県	3	0.25	3	0.25	2	0.17	1	0.08	36	5.14	-	-	-	-	-	-

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県・性別 (女)

2011年3月

	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症		メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		薬剤耐性アシネト バクター感染症	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	1114	1.16	393	0.41	195	0.20	161	0.17	669	1.43	142	0.30	7	0.01	-	-
北海道	121	2.88	19	0.45	11	0.26	29	0.69	30	1.30	3	0.13	-	-	-	-
青森県	28	2.15	4	0.31	4	0.31	1	0.08	4	0.67	-	-	-	-	-	-
岩手県	10	0.67	4	0.27	3	0.20	1	0.07	24	1.26	5	0.26	-	-	-	-
宮城県	12	0.67	8	0.44	3	0.17	1	0.06	13	1.08	2	0.17	-	-	-	-
秋田県	9	0.64	6	0.43	2	0.14	-	-	10	1.25	-	-	-	-	-	-
山形県	8	0.80	7	0.70	3	0.30	-	-	3	0.30	4	0.40	-	-	-	-
福島県	21	1.50	4	0.29	5	0.36	-	-	16	2.67	1	0.17	-	-	-	-
茨城県	35	1.59	7	0.32	4	0.18	6	0.27	12	0.92	-	-	-	-	-	-
栃木県	10	0.59	8	0.47	5	0.29	1	0.06	19	2.71	4	0.57	-	-	-	-
群馬県	27	1.13	13	0.54	2	0.08	2	0.08	5	0.63	2	0.25	-	-	-	-
埼玉県	61	1.11	29	0.53	14	0.25	13	0.24	8	0.89	8	0.89	-	-	-	-
千葉県	36	0.90	10	0.25	3	0.08	4	0.10	13	1.44	10	1.11	-	-	-	-
東京都	77	1.40	39	0.71	20	0.36	14	0.25	24	1.00	20	0.83	1	0.04	-	-
神奈川県	39	0.68	17	0.30	6	0.11	2	0.04	7	0.70	2	0.20	-	-	-	-
新潟県	8	0.57	2	0.14	-	-	1	0.07	28	2.15	5	0.38	1	0.08	-	-
富山県	9	0.90	3	0.30	-	-	2	0.20	5	1.00	1	0.20	-	-	-	-
石川県	12	1.20	3	0.30	1	0.10	-	-	9	1.80	-	-	-	-	-	-
福井県	4	0.80	-	-	-	-	1	0.20	4	0.67	10	1.67	-	-	-	-
山梨県	10	1.11	11	1.22	4	0.44	-	-	4	0.40	-	-	1	0.10	-	-
長野県	15	1.00	5	0.33	1	0.07	2	0.13	9	0.82	3	0.27	-	-	-	-
岐阜県	8	0.53	1	0.07	2	0.13	2	0.13	8	1.60	-	-	-	-	-	-
静岡県	32	1.07	5	0.17	4	0.13	4	0.13	50	5.00	8	0.80	-	-	-	-
愛知県	68	1.06	47	0.73	10	0.16	11	0.17	40	2.50	4	0.25	-	-	-	-
三重県	6	0.40	3	0.20	3	0.20	-	-	13	1.44	1	0.11	-	-	-	-
滋賀県	2	0.22	3	0.33	1	0.11	-	-	28	4.00	-	-	-	-	-	-
京都府	30	1.30	7	0.30	1	0.04	2	0.09	2	0.29	-	-	-	-	-	-
大阪府	125	1.92	26	0.40	21	0.32	17	0.26	19	1.27	8	0.53	-	-	-	-
兵庫県	33	0.72	11	0.24	2	0.04	4	0.09	15	1.25	-	-	-	-	-	-
奈良県	1	0.11	-	-	2	0.22	-	-	6	1.00	4	0.67	1	0.17	-	-
和歌山県	5	0.63	3	0.38	1	0.13	-	-	6	0.55	1	0.09	-	-	-	-
鳥取県	14	2.00	3	0.43	1	0.14	4	0.57	17	3.40	-	-	2	0.40	-	-
島根県	8	1.33	-	-	1	0.17	1	0.17	10	1.25	3	0.38	-	-	-	-
岡山県	23	1.28	5	0.28	5	0.28	4	0.22	5	1.00	-	-	-	-	-	-
広島県	27	1.23	9	0.41	5	0.23	2	0.09	29	1.38	9	0.43	-	-	-	-
山口県	13	1.08	4	0.33	3	0.25	-	-	23	2.56	4	0.44	1	0.11	-	-
徳島県	-	-	1	0.17	-	-	-	-	10	1.67	-	-	-	-	-	-
香川県	14	0.93	6	0.40	7	0.47	2	0.13	8	1.60	-	-	-	-	-	-
愛媛県	4	0.36	2	0.18	2	0.18	-	-	5	0.83	-	-	-	-	-	-
高知県	1	0.17	-	-	2	0.33	1	0.17	7	1.00	1	0.14	-	-	-	-
福岡県	70	1.89	23	0.62	11	0.30	12	0.32	22	1.47	4	0.27	-	-	-	-
佐賀県	1	0.14	1	0.14	1	0.14	-	-	3	0.50	1	0.17	-	-	-	-
長崎県	7	0.70	2	0.20	1	0.10	2	0.20	12	1.00	5	0.42	-	-	-	-
熊本県	29	2.23	10	0.77	8	0.62	2	0.15	24	1.60	-	-	-	-	-	-
大分県	9	0.90	5	0.50	1	0.10	4	0.40	18	1.64	6	0.55	-	-	-	-
宮崎県	9	0.69	4	0.31	1	0.08	2	0.15	9	1.29	3	0.43	-	-	-	-
鹿児島県	11	0.69	11	0.69	3	0.19	4	0.25	9	0.75	-	-	-	-	-	-
沖縄県	12	1.00	2	0.17	5	0.42	1	0.08	24	3.43	-	-	-	-	-	-



15週のデータ

注) 表中の報告数は4月20日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。
新型インフルエンザは掲載していません。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2011年15週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		痘 そう		南米出血熱		ペ ス ト		マールブルグ病		ラッサ熱		急性灰白髄炎		結 核	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	309	7555
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	281
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	90
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	44
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	82
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	40
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	65
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	70
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	159
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	82
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	69
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	394
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	373
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52	1229
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	530
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	100
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	49
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	79
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	41
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	39
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	91
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	124
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	184
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23	546
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	99
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	86
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	159
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	329
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	290
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	51
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	159
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	301
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	86
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	56
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	86
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	35
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	315
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	93
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	86
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	68
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	76
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	81
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	117
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	72

*病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2011年15週

	ジフテリア		重症急性 呼吸器症候群*		鳥インフル エンザ(H5N1)		コレラ		細菌性赤痢		腸管出血性 大腸菌感染症		腸チフス		パラチフス		E型肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	1	2	63	11	206	-	2	-	10	1	19
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	3
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	4	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	1	14	-	-	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	1	15	1	23	-	-	-	7	-	5
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	1	8	-	-	-	1	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	12	-	-	-	-	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	1	1	1
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	6	-	1	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	9	-	-	-	-	-	2
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	5	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	1	9	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2011年15週

	ウエストナイル熱		A型肝炎		エキノコックス症		黄 熱		オウム病		オムスク出血熱		回 帰 熱		キャサヌル 森 林 病		Q 熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	4	101	-	8	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	11	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	1	5	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2011年15週

	狂 犬 病		コクシジ オイデス症		サル 痘		腎症候性出血熱		西部ウマ脳炎		ダニ媒介脳炎		炭 痘		チクングニア熱		つつが虫病	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	41
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	8
東京都	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*鳥インフルエンザ(H5N1)を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2011年15週

	デング熱		東部ウマ脳炎		鳥インフルエンザ*		ニパウイルス感染症		日本紅斑熱		日本脳炎		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		鼻 疽	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	2	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
北海道	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	1	9	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2011年15週

	ブルセラ症		ベネズエラ ウマ脳炎		ヘンドラウイルス 感 染 症		発しんチフス		ボツリヌス症		マラリア		野 兎 病		ライム病		リッサウイルス 感 染 症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	16	-	-	-	1	2	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	1	2	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-

*E型肝炎およびA型肝炎を除く。

**ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2011年15週

	リフトバレー熱		類鼻痘		レジオネラ症		レプトスピラ症		ロッキー山紅斑熱		アメーバ赤痢		ウイルス性肝炎*		急性脳炎**		クリプトスポリジウム症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	6	139	-	2	-	-	13	212	1	72	1	105	-	3
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	4	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-	-	5	-	1	-	2	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	5	-	-
群馬県	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	9	-	1	-	3	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	1	16	-	5	-	12	-	-
東京都	-	-	-	-	1	10	-	2	-	-	4	50	1	11	-	7	-	2
神奈川県	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	18	-	2	-	9	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	5	-	1	1	6	-	-
富山県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	1	3	-	1	-	1	-	-
石川県	-	-	-	-	1	8	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	6	-	-	-	6	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	8	-	3	-	5	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	4	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	5	-	2	-	2	-	-
大阪府	-	-	-	-	1	12	-	-	-	-	1	18	-	5	-	10	-	1
兵庫県	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	1	6	-	4	-	2	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
島根県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	5	-	2	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	7	-	1	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	2	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	1	11	-	3	-	2	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	3	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2011年15週

	クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性免疫不全 症 候 群		ジアルジア症		髄膜炎菌性 髄 膜 炎		先天性風しん 症 候 群		梅 毒		破 傷 風		バンコマイシン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	1	30	-	63	9	378	2	20	-	1	-	-	3	187	-	19	-	-
北海道	-	1	-	1	-	10	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-
青森県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福島県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	1	-	6	-	1	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-
埼玉県	-	3	-	3	-	13	-	1	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-
千葉県	1	3	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-
東京都	-	7	-	11	2	108	-	4	-	-	-	-	-	47	-	1	-	-
神奈川県	-	-	-	6	-	22	-	2	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	4	-	2	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
富山県	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	2	-	3	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	2	-	8	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
静岡県	-	2	-	1	-	7	-	2	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	2	1	20	-	2	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-
三重県	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
京都府	-	1	-	-	-	5	1	1	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
大阪府	-	2	-	5	3	61	1	2	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-
兵庫県	-	1	-	3	-	13	-	2	-	-	-	-	2	10	-	-	-	-
奈良県	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
広島県	-	1	-	2	-	10	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
山口県	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	3	-	12	-	-	-	1	-	-	-	10	-	-	-	-
佐賀県	-	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-
鹿児島県	-	1	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-
沖縄県	-	-	-	1	-	4	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2011年15週

	バンコマイシン耐性 腸球菌感染症		風 し ん		麻 し ん	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	15	8	58	27	128
北海道	-	-	-	-	-	2
青森県	-	-	-	-	2	5
岩手県	-	-	-	1	-	1
宮城県	-	1	-	1	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	2	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	1	5	-	-
栃木県	-	1	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	1	2	-	5
千葉県	-	2	-	5	-	7
東京都	-	-	1	4	14	38
神奈川県	-	3	3	9	6	11
新潟県	-	-	-	1	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	1	1	1
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	2
長野県	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	1	-	1	-	2
静岡県	-	-	-	1	1	3
愛知県	-	-	-	3	1	9
三重県	-	-	-	1	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	2	-	8	1	3
兵庫県	-	-	1	3	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	1	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	2
広島県	-	1	-	1	1	19
山口県	-	-	-	-	-	1
徳島県	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	1
愛媛県	-	-	-	1	-	2
高知県	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	1	-	4	-	2
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	2	-	1	-	-
大分県	-	-	1	1	-	-
宮崎県	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	2
沖縄県	-	1	-	-	-	-

*鳥インフルエンザを除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2011年15週

	インフルエンザ*		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	31417	6.42	981	0.31	6068	1.94	27641	8.83	4202	1.34	538	0.17	2161	0.69	1904	0.61	68	0.02
北海道	1694	7.53	21	0.15	289	2.04	475	3.35	122	0.86	16	0.11	172	1.21	34	0.24	1	0.01
青森県	540	8.44	6	0.14	18	0.43	223	5.31	54	1.29	2	0.05	9	0.21	27	0.64	1	0.02
岩手県	124	2.18	5	0.14	43	1.19	119	3.31	28	0.78	12	0.33	5	0.14	24	0.67	-	-
宮城県	54	0.58	1	0.02	108	1.83	246	4.17	31	0.53	5	0.08	32	0.54	38	0.64	-	-
秋田県	313	5.69	12	0.34	55	1.57	175	5.00	30	0.86	-	-	22	0.63	17	0.49	-	-
山形県	326	6.79	14	0.47	115	3.83	260	8.67	41	1.37	-	-	38	1.27	29	0.97	-	-
福島県	120	1.67	7	0.16	48	1.12	164	3.81	20	0.47	-	-	27	0.63	23	0.53	-	-
茨城県	391	3.26	12	0.16	140	1.87	353	4.71	40	0.53	2	0.03	66	0.88	20	0.27	-	-
栃木県	209	2.75	3	0.06	56	1.17	203	4.23	67	1.40	3	0.06	70	1.46	32	0.67	2	0.04
群馬県	678	6.92	5	0.08	128	2.13	368	6.13	62	1.03	4	0.07	46	0.77	34	0.57	1	0.02
埼玉県	1118	4.56	67	0.43	306	1.95	1087	6.92	220	1.40	7	0.04	141	0.90	101	0.64	1	0.01
千葉県	771	3.71	16	0.12	314	2.38	948	7.18	180	1.36	3	0.02	132	1.00	73	0.55	2	0.02
東京都	2095	5.04	40	0.15	607	2.33	2202	8.44	228	0.87	17	0.07	147	0.56	193	0.74	5	0.02
神奈川県	965	3.01	38	0.19	346	1.70	1385	6.82	252	1.24	6	0.03	104	0.51	136	0.67	1	0.00
新潟県	948	10.09	18	0.30	229	3.82	826	13.77	135	2.25	2	0.03	60	1.00	34	0.57	2	0.03
富山県	132	2.75	36	1.24	103	3.55	443	15.28	33	1.14	-	-	5	0.17	18	0.62	-	-
石川県	993	20.69	8	0.28	178	6.14	410	14.14	43	1.48	-	-	60	2.07	18	0.62	-	-
福井県	503	15.72	15	0.68	88	4.00	399	18.14	37	1.68	4	0.18	18	0.82	14	0.64	1	0.05
山梨県	222	5.55	2	0.08	39	1.63	158	6.58	9	0.38	-	-	17	0.71	8	0.33	-	-
長野県	1733	19.69	9	0.16	100	1.82	532	9.67	75	1.36	1	0.02	23	0.42	22	0.40	2	0.04
岐阜県	566	6.51	20	0.38	50	0.94	343	6.47	43	0.81	6	0.11	11	0.21	20	0.38	-	-
静岡県	706	5.35	24	0.28	117	1.38	632	7.44	116	1.36	2	0.02	105	1.24	43	0.51	1	0.01
愛知県	920	4.72	58	0.32	289	1.60	1653	9.13	223	1.23	31	0.17	89	0.49	114	0.63	4	0.02
三重県	520	7.32	15	0.34	78	1.77	616	14.00	48	1.09	6	0.14	19	0.43	30	0.68	-	-
滋賀県	238	4.49	19	0.59	53	1.66	243	7.59	31	0.97	8	0.25	25	0.78	22	0.69	-	-
京都府	583	4.78	12	0.16	60	0.82	643	8.81	59	0.81	6	0.08	28	0.38	33	0.45	1	0.01
大阪府	1709	5.75	36	0.19	352	1.81	1704	8.78	230	1.19	65	0.34	75	0.39	127	0.65	5	0.03
兵庫県	1248	6.27	77	0.60	229	1.78	1335	10.35	180	1.40	19	0.15	67	0.52	75	0.58	7	0.05
奈良県	333	6.05	7	0.20	41	1.17	326	9.31	41	1.17	1	0.03	28	0.80	14	0.40	-	-
和歌山県	290	5.80	9	0.29	18	0.58	232	7.48	34	1.10	19	0.61	18	0.58	18	0.58	1	0.03
鳥取県	276	9.52	2	0.11	60	3.16	176	9.26	22	1.16	6	0.32	10	0.53	8	0.42	2	0.11
島根県	249	6.55	25	1.09	26	1.13	292	12.70	14	0.61	4	0.17	38	1.65	11	0.48	-	-
岡山県	597	7.11	11	0.20	40	0.74	503	9.31	34	0.63	38	0.70	16	0.30	21	0.39	1	0.02
広島県	899	7.82	43	0.60	179	2.49	876	12.17	76	1.06	33	0.46	33	0.46	35	0.49	6	0.08
山口県	321	4.59	32	0.65	125	2.55	580	11.84	66	1.35	7	0.14	29	0.59	26	0.53	1	0.02
徳島県	108	2.77	7	0.29	40	1.67	262	10.92	21	0.88	-	-	2	0.08	17	0.71	-	-
香川県	365	7.45	14	0.47	20	0.67	413	13.77	48	1.60	-	-	4	0.13	17	0.57	-	-
愛媛県	344	5.64	12	0.32	70	1.89	557	15.05	97	2.62	-	-	20	0.54	25	0.68	-	-
高知県	614	12.79	6	0.20	48	1.60	317	10.57	38	1.27	11	0.37	14	0.47	20	0.67	-	-
福岡県	2148	10.85	51	0.43	303	2.53	1482	12.35	320	2.67	52	0.43	129	1.08	120	1.00	7	0.06
佐賀県	379	9.72	24	1.04	41	1.78	217	9.43	45	1.96	19	0.83	31	1.35	13	0.57	-	-
長崎県	649	9.27	13	0.30	75	1.70	316	7.18	107	2.43	5	0.11	25	0.57	34	0.77	3	0.07
熊本県	413	5.16	17	0.35	36	0.75	643	13.40	114	2.38	19	0.40	25	0.52	37	0.77	1	0.02
大分県	471	8.12	6	0.17	53	1.47	504	14.00	68	1.89	7	0.19	19	0.53	35	0.97	-	-
宮崎県	1152	19.53	26	0.72	174	4.83	534	14.83	105	2.92	48	1.33	71	1.97	38	1.06	-	-
鹿児島県	772	8.30	46	0.84	130	2.36	1048	19.05	159	2.89	7	0.13	29	0.53	38	0.69	2	0.04
沖縄県	618	10.84	34	1.03	51	1.55	218	6.61	156	4.73	35	1.06	7	0.21	18	0.55	7	0.21

*髄膜炎菌性髄膜炎は除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2011年15週

	ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎		急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎*		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎		RSウイルス感染症
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数
総数	102	0.03	2802	0.89	10	0.01	308	0.46	13	0.03	10	0.02	160	0.35	9	0.02	594
北海道	1	0.01	128	0.90	-	-	10	0.34	1	0.04	-	-	7	0.30	-	-	41
青森県	1	0.02	58	1.38	-	-	1	0.09	-	-	-	-	11	1.83	-	-	7
岩手県	5	0.14	54	1.50	-	-	6	0.50	-	-	-	-	10	0.56	-	-	7
宮城県	1	0.02	49	0.83	-	-	1	0.08	-	-	-	-	8	0.67	-	-	9
秋田県	-	-	12	0.34	-	-	2	0.29	-	-	-	-	8	1.00	-	-	17
山形県	-	-	18	0.60	-	-	1	0.13	-	-	-	-	2	0.22	-	-	8
福島県	-	-	17	0.40	-	-	7	0.64	-	-	-	-	3	0.50	-	-	24
茨城県	-	-	67	0.89	-	-	4	0.24	-	-	-	-	2	0.15	-	-	1
栃木県	2	0.04	33	0.69	-	-	6	0.50	-	-	-	-	3	0.43	-	-	1
群馬県	-	-	48	0.80	-	-	9	0.60	1	0.13	-	-	3	0.38	-	-	4
埼玉県	-	-	63	0.40	2	0.05	14	0.34	-	-	-	-	7	0.78	1	0.11	10
千葉県	4	0.03	90	0.68	-	-	14	0.44	-	-	-	-	1	0.11	1	0.11	6
東京都	4	0.02	77	0.30	1	0.03	16	0.42	-	-	-	-	8	0.36	-	-	24
神奈川県	3	0.01	102	0.50	1	0.02	17	0.41	-	-	-	-	-	-	-	-	13
新潟県	-	-	116	1.93	-	-	1	0.11	-	-	-	-	3	0.25	4	0.33	22
富山県	-	-	39	1.34	-	-	1	0.14	-	-	-	-	6	1.20	-	-	9
石川県	-	-	29	1.00	-	-	-	-	-	-	1	0.20	1	0.20	-	-	3
福井県	-	-	3	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17	-	-	-
山梨県	-	-	15	0.63	-	-	2	0.22	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	221	4.02	-	-	6	0.55	-	-	-	-	2	0.18	-	-	8
岐阜県	-	-	21	0.40	-	-	2	0.18	1	0.20	1	0.20	4	0.80	-	-	4
静岡県	-	-	70	0.82	-	-	6	0.32	-	-	1	0.13	2	0.25	-	-	11
愛知県	10	0.06	76	0.42	-	-	10	0.29	1	0.07	2	0.13	6	0.40	-	-	32
三重県	1	0.02	21	0.48	1	0.08	5	0.42	-	-	-	-	2	0.22	-	-	2
滋賀県	1	0.03	46	1.44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	25	0.34	-	-	4	0.22	-	-	-	-	1	0.14	-	-	2
大阪府	13	0.07	113	0.58	1	0.02	15	0.29	2	0.13	-	-	18	1.20	1	0.07	65
兵庫県	1	0.01	131	1.02	-	-	20	0.57	-	-	-	-	-	-	-	-	19
奈良県	1	0.03	11	0.31	-	-	4	0.44	-	-	-	-	1	0.17	-	-	9
和歌山県	4	0.13	32	1.03	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.27	-	-	6
鳥取県	2	0.11	56	2.95	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
島根県	-	-	43	1.87	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	5	0.09	48	0.89	-	-	3	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	6
広島県	4	0.06	65	0.90	1	0.05	21	1.11	-	-	-	-	1	0.05	-	-	12
山口県	-	-	45	0.92	-	-	3	0.33	-	-	-	-	2	0.22	-	-	16
徳島県	-	-	29	1.21	-	-	-	-	-	-	1	0.20	5	1.00	-	-	17
香川県	1	0.03	92	3.07	-	-	1	0.33	1	0.20	1	0.20	-	-	-	-	4
愛媛県	1	0.03	75	2.03	-	-	12	1.50	-	-	-	-	6	1.00	-	-	3
高知県	4	0.13	11	0.37	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.29	1	0.14	-
福岡県	10	0.08	116	0.97	-	-	12	0.46	1	0.07	-	-	1	0.07	-	-	81
佐賀県	-	-	38	1.65	-	-	-	-	-	-	1	0.17	5	0.83	-	-	16
長崎県	-	-	33	0.75	2	0.25	4	0.50	-	-	1	0.09	1	0.09	1	0.09	3
熊本県	19	0.40	113	2.35	-	-	10	1.11	-	-	1	0.07	1	0.07	-	-	3
大分県	1	0.03	26	0.72	1	0.20	-	-	1	0.09	-	-	3	0.27	-	-	10
宮崎県	1	0.03	81	2.25	-	-	26	4.33	-	-	-	-	-	-	-	-	15
鹿児島県	2	0.04	130	2.36	-	-	11	1.57	-	-	-	-	2	0.17	-	-	26
沖縄県	-	-	16	0.48	-	-	20	2.00	4	0.57	-	-	8	1.14	-	-	16

獣医師が届出を行う感染症と対象動物

(注)報告数は感染実験等の学術的研究による発生を除く。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2011年15週

	エボラ出血熱		マールブルグ病		ペスト		重症急性呼吸器症候群(SARS)						結核		鳥インフルエンザ(H5N1)		細菌性赤痢	
	サル		サル		プレーリードッグ		イタチアナグマ		タヌキ		ハクビシン		サル		鳥類		サル	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66	-	3	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別 2011年15週

	ウエストナイル熱		エキノコックス症	
	鳥類		犬	
	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-

感染症週報 第13巻 第15号 2011年4月28日発行

発 行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課

厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター

〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1

T E L : 03-5285-1111

F A X : 03-5285-1129

U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

<国立感染症研究所 感染症情報センター>

<http://www.mhlw.go.jp/>

<厚生労働省>

<http://www.forth.go.jp/>

<旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。